



茶湯法

多
786



茶湯法

門 7多9
編 486
卷



茶の湯刻限

- 一 昼の茶湯 正午
- 一 夜中の茶湯 暮六時 古七時迄
- 一 朝の茶湯 朝六時
- 一 晩茶の湯 明七時 古七時より 夜迄とも云
- 一 飯後の茶湯 夕飯後 菓子茶湯とも云
- 一 不時茶の湯
- 一 遠見茶の湯

茶の湯は(客入るる) 主方より只今と案内

一 四時茶の事
一 掛物をかける

一 湯次は振立先外侍合を仕廻り座たてに盆をあげて
出—先侍合の切立より内湯次を梅のものを客侍
合へ何時来てもうる志うさう白た先なり

一 湯次水をおくは戸言隠或るさう戸追水にておぎ

侍合



在りし
たし盆
各座
下座の方

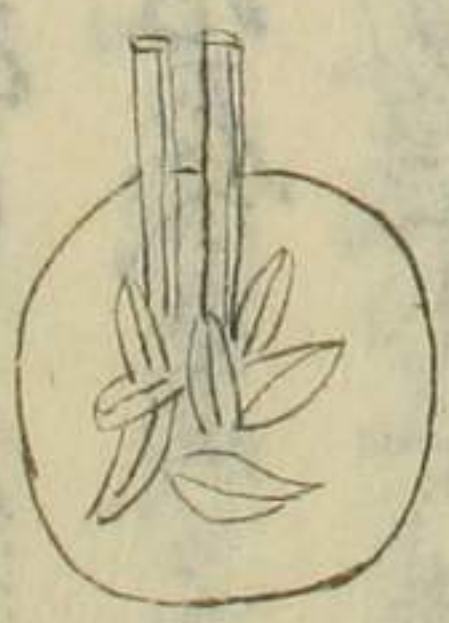
一 湯次は振立先外侍合を仕廻り座たてに盆をあげて

出—先侍合の切立より内湯次を梅のものを客侍

合へ何時来てもうる志うさう白た先なり

湯次水をおくは

戸言隠或るさう戸追水にておぎ



一 湯次は振立先外侍合を仕廻り座たてに盆をあげて

出—先侍合の切立より内湯次を梅のものを客侍

合へ何時来てもうる志うさう白た先なり

湯次水をおくは戸言隠或るさう戸追水にておぎ

一 湯次は振立先外侍合を仕廻り座たてに盆をあげて

出—先侍合の切立より内湯次を梅のものを客侍

合へ何時来てもうる志うさう白た先なり

一 亭主教考座へ入炭取持出ほりて持出並付冷と湯
 一 灰と直し下火を止しまて如法して蒸物を焚き成
 一 炭炭をほり湯へ取入座敷一處ん羽帯にありて改
 一 め盆蓋切拭き水にち水入替させ侍合茶内にお湯
 一 中くく又たさる戸敷考座の戸かあけりあてて
 一 灰に燭持出申りて戶外に飛石へ垂下る。

一 客言一礼何き人々もあをきひ合如きなり入座と
 一 上座口拭けり多時次の者もあをきひ上座より入座
 一 時次の者口拭けり上座床前へ移た時次より上座
 一 の前へ移た時次床前へ移上座本座に付きた時次

の前へ移けり何人にも同前也

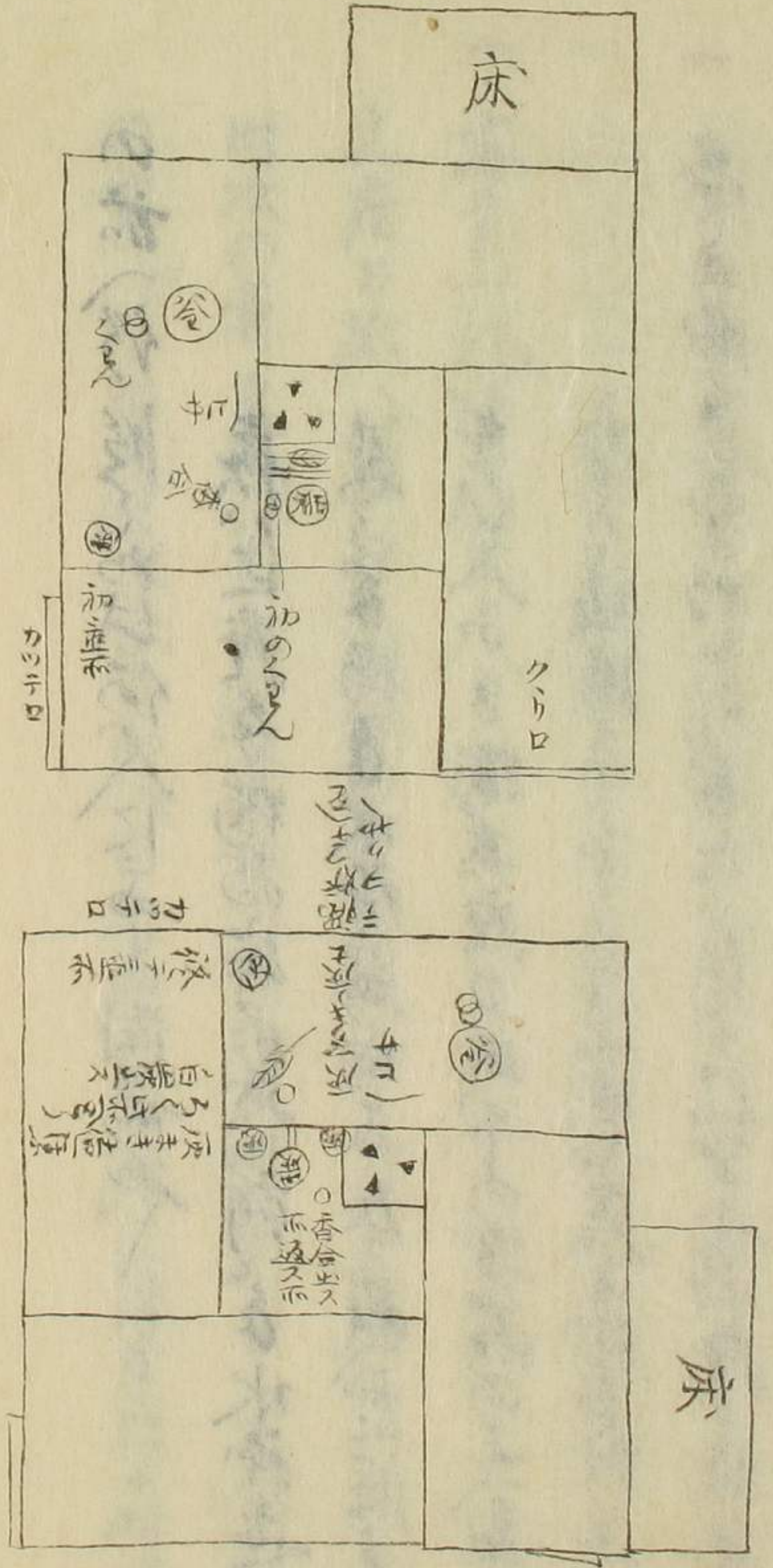
一 灰に上座口拭き客不残一所より水所迄まで
 一 来るも燭も水所脇向ありて二重障子あり
 一 きひ入りも燭末座口拭下の造取の上へ垂入る
 一 なり後膳より水洗水を入る燭を引也

一 亭主膳口を以て一礼有たりし礼を述上座口拭地
 一 あいさる

一 亭主炭取を持出並付灰ほりて持出換へて炭
 一 とらりてめある

炭の順

一 羽箒二くまん三火びり 番合並付四くまん
 かける六谷ま出七谷揚七くまんくまん八
 羽箒を九火箸に下火を並す十灰保り
 ろくねよせ灰まき十一灰ほろろく斤月十二白炭



とほよ移く(灰十三炭を並仕廻て十四ほよ移く
 えのち(並す羽箒灰炬をもち羽箒を炭灰(並
 十六番合ラ五茶物を焚容より番合新番合
 と出たお茶に布す十六釜拭る谷ま出仕廻く見んしす
 片羽にあめこしき羽まきい灰ほよ移く持入る炭九
 と持合大羽箒持出度もち返して谷ふた拭拭る
 番合ゆら八返入合なり
 一 炭仕廻番合入合席出ス挨拶して勝手口志免入
 但風炬の付らば炭を風炬をろくむふき換わ帛
 布の如くたみ風炬は右の言二つふき又左りの言二

は付客湯吞仕廻り湯子口明事並車格
と引又湯吞仕廻り又湯子口志免

一 格引菓子出— 湯子口志免係 志免係は湯子口

客中立

但内付は付の格引炭丸持出炭を
仕廻菓子と出—

客中立の内膳の式

一 客出たる付先ッ炭を組直— 灰ほろろ湯を搦—
一 茶挽仕込水指水を入花入を— 花と茶臺
一 組直出ほ— 柄打蓋重ますま搦(まより)小座敷
を掛け先ッくくり口の搦り格を志免菓子並引

一 掛物をま死冷れ少くを志免座中羽帯を捲くとき
一 冷めと切り花入をかけ花を入水指と車付茶入(車付
一 水指へ入らう口湯ケつけ客へ案内する

案内の事

一 上の亭主出ル中々別人を出る但— 通を出さる

一 下の^{ミヤカニ}心喚^{ミヤカ}撞是を常并同様の事

一 こそ打やう (大) (中) (大) (中) (大)

但スッ打付た上の大小をきく又ハ客の扱
祓打、右に通る

一 喚撞 (大) (中) (大)

右の一通りあり

- 一 亭主着頼上下忌替改ると常弁
- 一 客を水はくひふる前の通り
- 一 客入仕廻を水弁之水をへ腰をのあしこらん
をあしこらん
- 一 客坐に付亭主茶碗持出茶入と並合をこぼし
柄抄蓋直持出し一礼を後志免柄抄一礼を
- 一 一付客より花の挨拶
- 一 濃茶点出するの通
- 一 客の式常の通

一 茶仕廻道具付 亭主炭を灰はくは落く持出炭
をすると初の通は付灰をまきき蓋物と焚出炭を
まきりと付よりてあり

一 炭仕廻しき込出たしこらん出し 亭主もたむこ
相律してある 後菓を出し 煎茶点出の
常の通

一 煎茶仕廻客一礼して物は付客待合へ出合
一 亭主客待合へ引多し時分を交り出て引待合
よそ一礼してあり客各帰るあり

一 客帰して直に般若屋次仕也中さぬ物之客は

分道も併り多し此後を仕置りあり

以上

一 朝茶の湯のときトハ着より付朝六時より

一 湯次水をお

一 仕置あり同し

一 般若屋釜を掛かけの掛る六時あり仕置あり
前あり

一 初炭の付度より湯くり行くと持出釜（水と指片
口より又お釜釜をかけ炭をとり

一 は水極くは付次あり 朝茶の湯替るはと斗也

是を夜明け釜拭き客身より間をき故水より
入釜をとりお釜一辨さりとといふと朝茶の湯
のむあり

但此時にも炭炉に同く初より也

以上

一 夜明け茶は湯を七時より湯より付置あり
水をお日着て外侍合へたことんありあり
令燈籠ともし手取桶の所は燈籠ともし
腰拭釜座の燈籠もす

但外侍合をきする腰拭斗の時たはよ

盆をある、糸座の燈台を白く新
木燈籠あり

一 石燈籠を置く

上座

あんまり

待合

てあつた
たふと
えん座

下座の方

一 座敷の戸を残り内見合を燈より窓よりする

障子にひらきあ

一 敷居屋の内を拭物あり、短襦袢或は竹葉木燈
臺座敷にありとす

但四畳半より、以上の短襦袢あり、其外以下を
木燈臺竹葉菊燈臺あり

一 客初（今）客の茶を長く仕廻り出度を取し、夜
食をす

は前の茶を極多長あり

一 拭物花極あり、茶極あり、其外襦袢あり
夜吐をす、初よりかよはるがより

一 籠祭燈 七筋

七籠考へ

但し一筋に二つ不始を添ふす

一 其外と又筋 七寸程

一 石燈籠 木燈籠 浴次 湯燈 二筋 七寸程 何れも

トトヤトトヤ

以上

一 飯後此茶此湯 夜方 替りなり 昼の茶料理の事

しつゝなり

一 客初所 吸物 酒 肴 菓子 又 右 柄 肴 に 菓子 又 茶
子 ばうり 也

右三通り 初所 乃 仕 振 其 外 昼 此 茶 此 湯 子

おも替るなり

以上

一 跡見此茶此湯 昼の茶乃湯 此 扱へ 又 客を 呼ぶ 也

昼の客初 侍合へ たじろ 魚 象 座 木 初の 通り 出 言

へ 茶 月 乃 あり 客 其 時 通 出 たり 常 此 通 也

一 敷 寄 座 初の 花 あり 水 指 置 付 初の 茶 入 茶 此

初 たり 侍 仕 候 あり 膳 付 客 座 入 たり 時 茶

碗 持 出 膳 子 口 へ 重 客 候 候 あり 客 七 礼 有 さん で

後 跡 たり 茶 此 世 とも 茶 息 又 茶 碗 持 出 候 候

脇子口酌を待たせしめて後茶碗持出ス也茶は炭
と煮し惣菓子たむこ置出し一高茶と長あり
常の茶は湯の中立ちしりしの事也
一前代花志ほれたりと其通る釜にえやたらとも
其傍に煮たりが流るれば茶の大急也
一拭物あり一茶入袋もえせず見ず

以上

一不時の客来り案内有て先づ侍合へ通し一たむこ置
出すうち庭水をお教書置しりりる
一客来り時より一朝一茶時迄は茶と一朝の茶の湯

みつけし一客の飯後の茶はつ時に来りて查れ茶はつ
に来りて後の茶其来り時よりて此方の茶を致す
料理ありて何よてもさしめと極く致す也
一不時の茶の湯は不附あり少くに乗たる及て面白
す

以上

一客は茶の替りあり一令序お侍するあり一客は相
侍する是極あり如是也は不斗替り其不客さびりま
かき置しりすともよしとす

一初膳と云えり主膳と持出末座の式膳なるあり

向居高相律をぬより通れ者勅、湯煎主先ッ
我燈を持入相客の燈を以菓子出し膳を口志為る
客中互

一 茶の時主相律は居前、居高相律すの三仕色客より
茶碗ををとり右に茶の湯移るるあり

暁の茶の湯

一 客七半時よりあり
一 湯次は夕七半時迄は掃除中付番より不談大段と
しす又時迄はけし、並明々七半時前客来る前子

火と又もす但し宵より火をきりすとの氣
と尚時略してあり

一 路次向夜世の通るなり
一 般若堂より燈あり、暁の茶は湯は張る般若堂を
戸と入る

一 客身は速い客入相夜世に替るあり
一 亭子主前茶を急ぐ茶仕廻座を有る炭を志高夜明け
能成に志高、実上を明より燈を以膳をわす

但し実上をきり客の戸を明あう
をうけ高、實方を一なり

一 煎茶より炭と仕廻りありて夜明けに能く成程に波車
才一也

一 炭は時釜を湯を（持入水とわ）釜をかくるあり

當時湯の上へ水を入湯とさるとあり一
持入水と車直是に夜の月さきよりの水は
明きよき今日の水より替る心あり

一 掛物花行

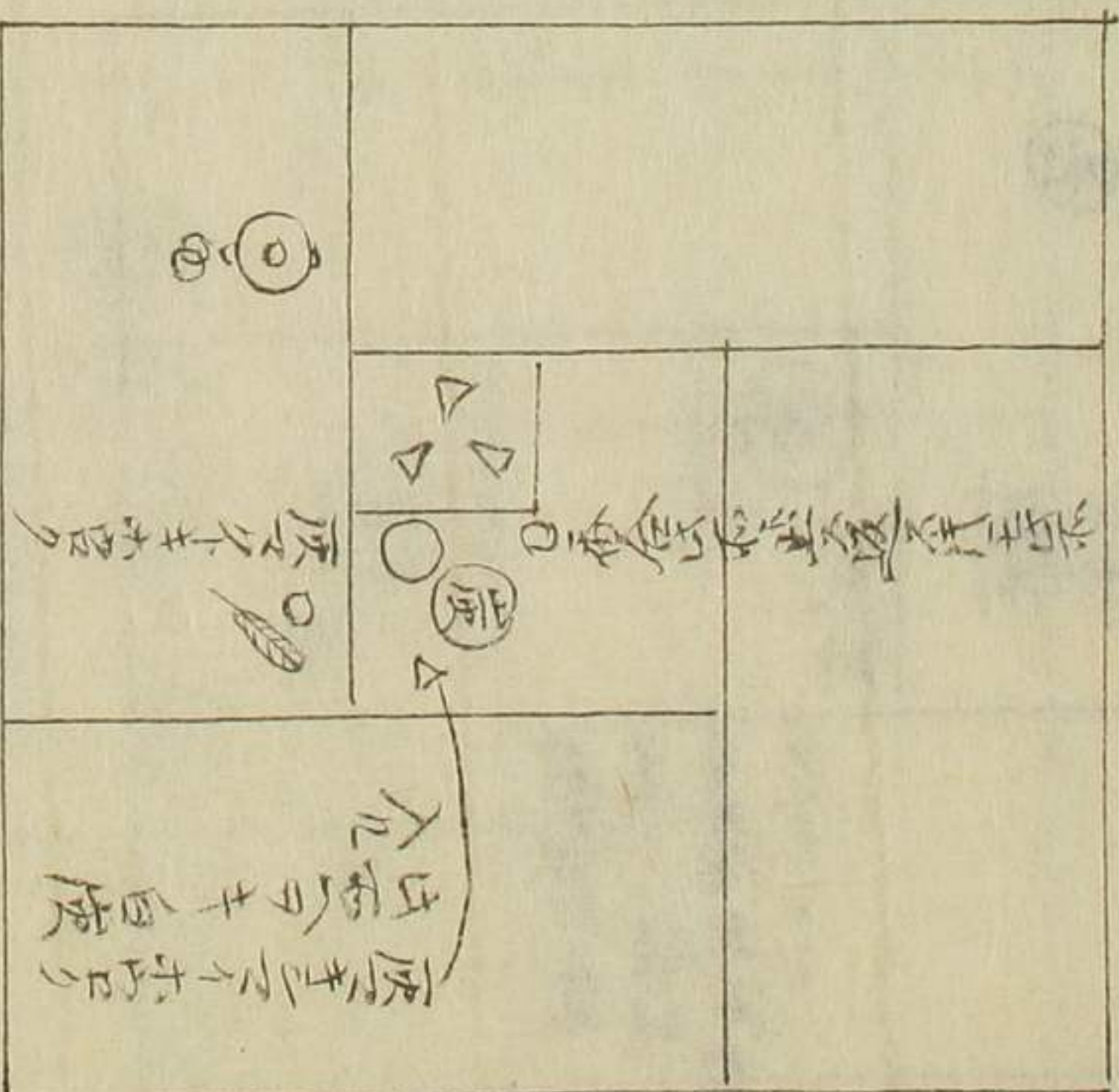
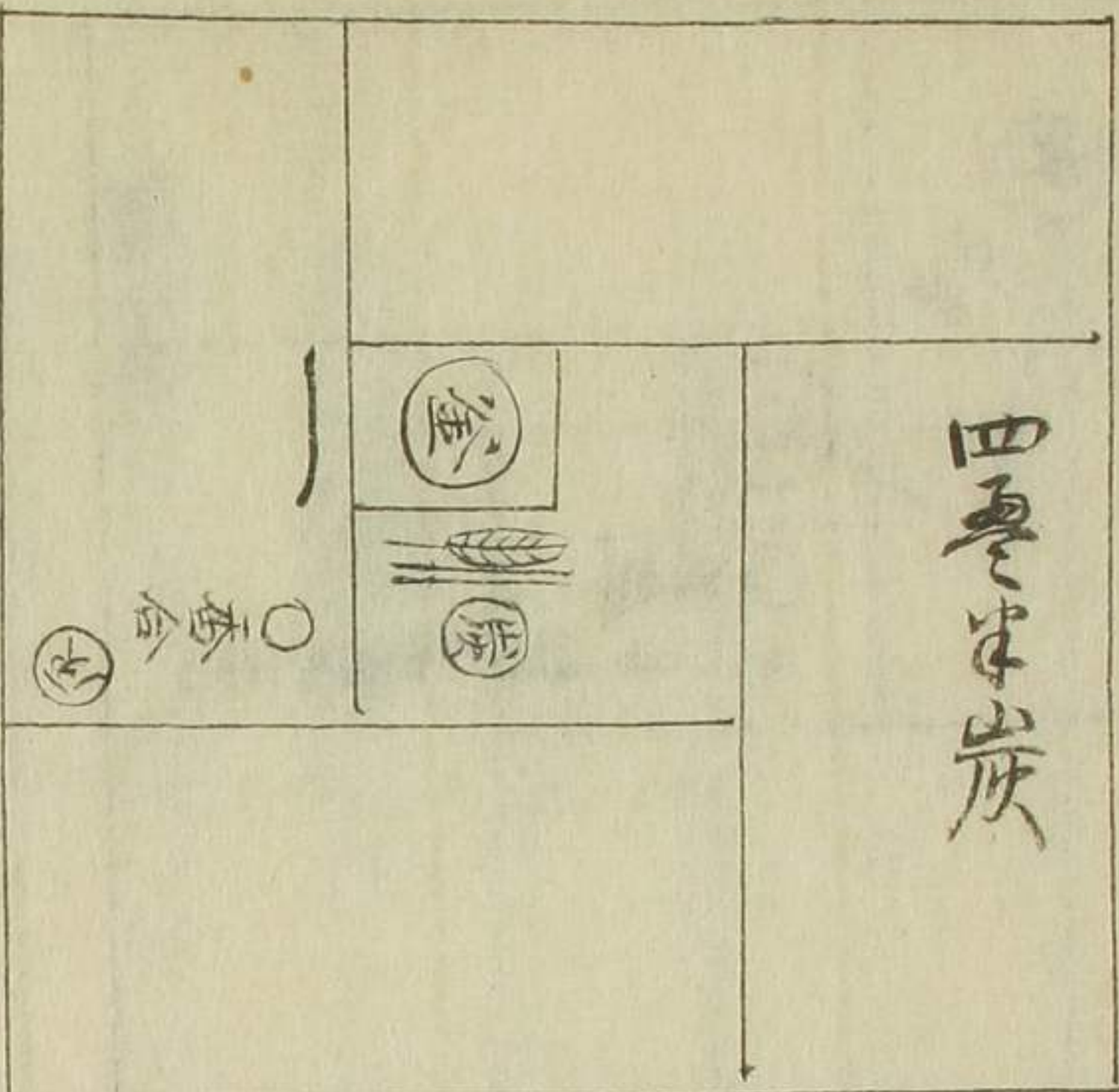
其外替るあり一 夜は内をゆり一 波は明き
中よりきくと波より替るあり そりし
は夜に茶の湯と替り六つ波物あり 主

容氏に切者入るべし

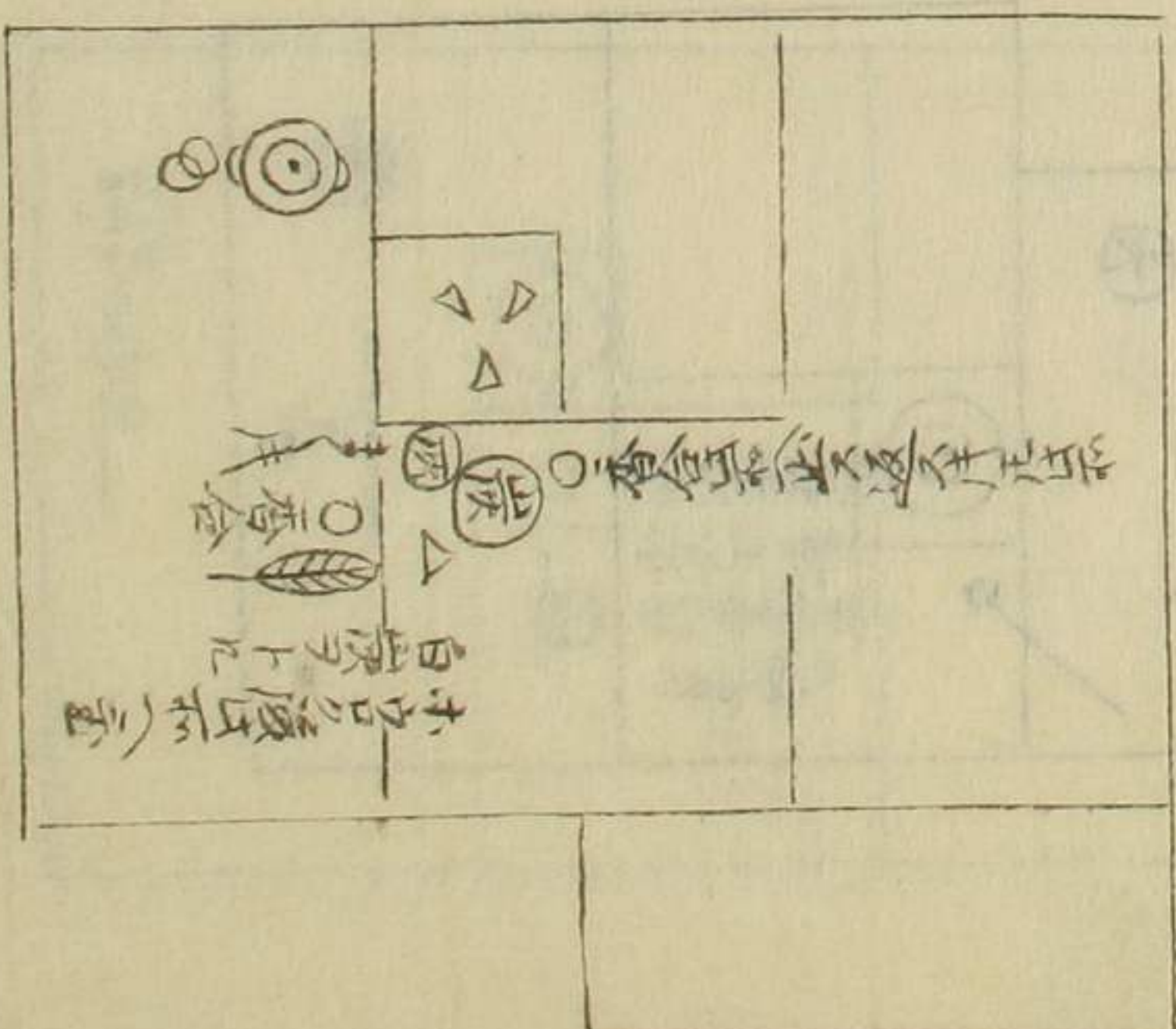
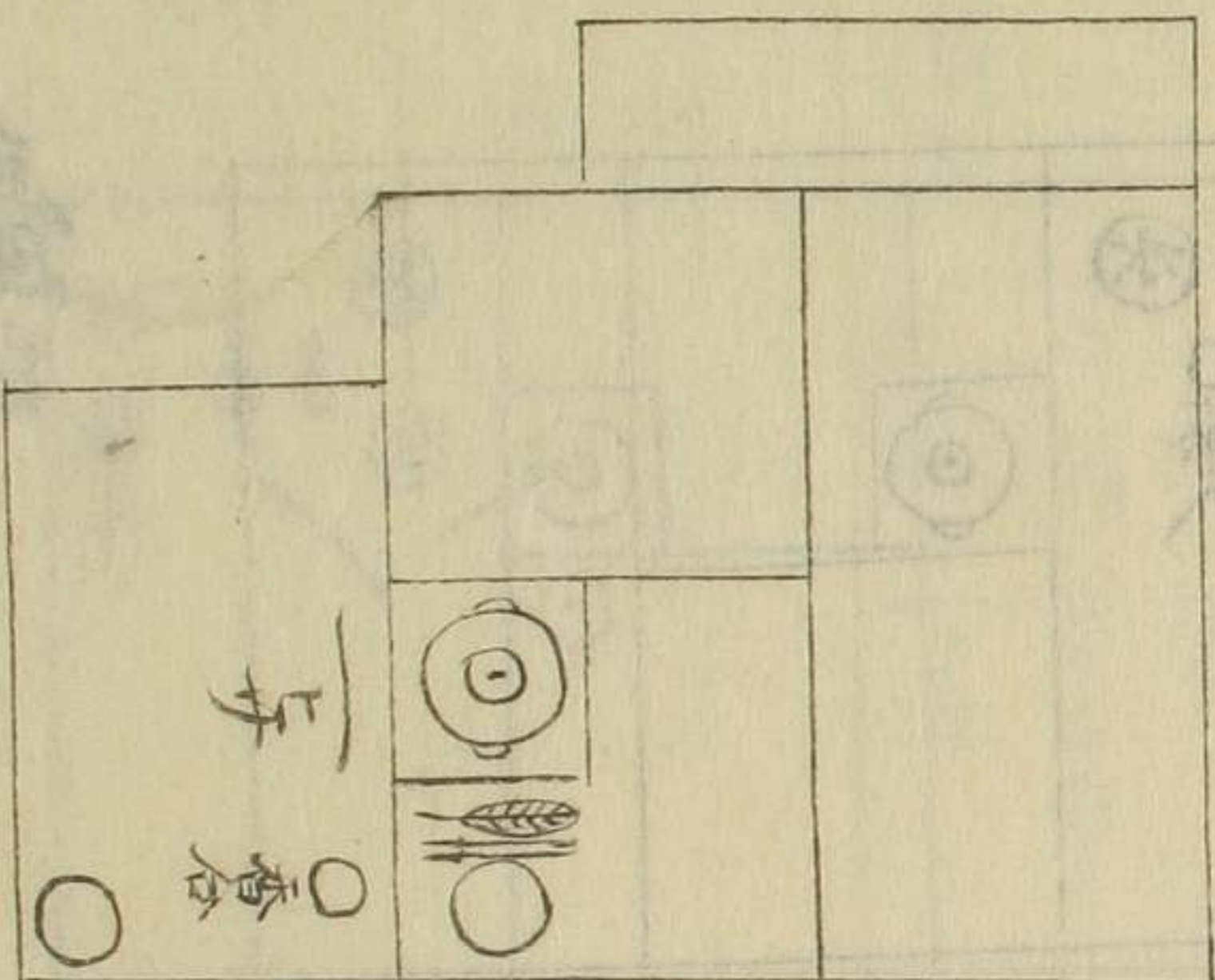
一 湯に釜掛り湯にえりて時より火み火に波車也
煙火と火の波とけ能くいふ事あり 相替れ
時は火とわけえ釜とけにえ出る事速出り也

以上

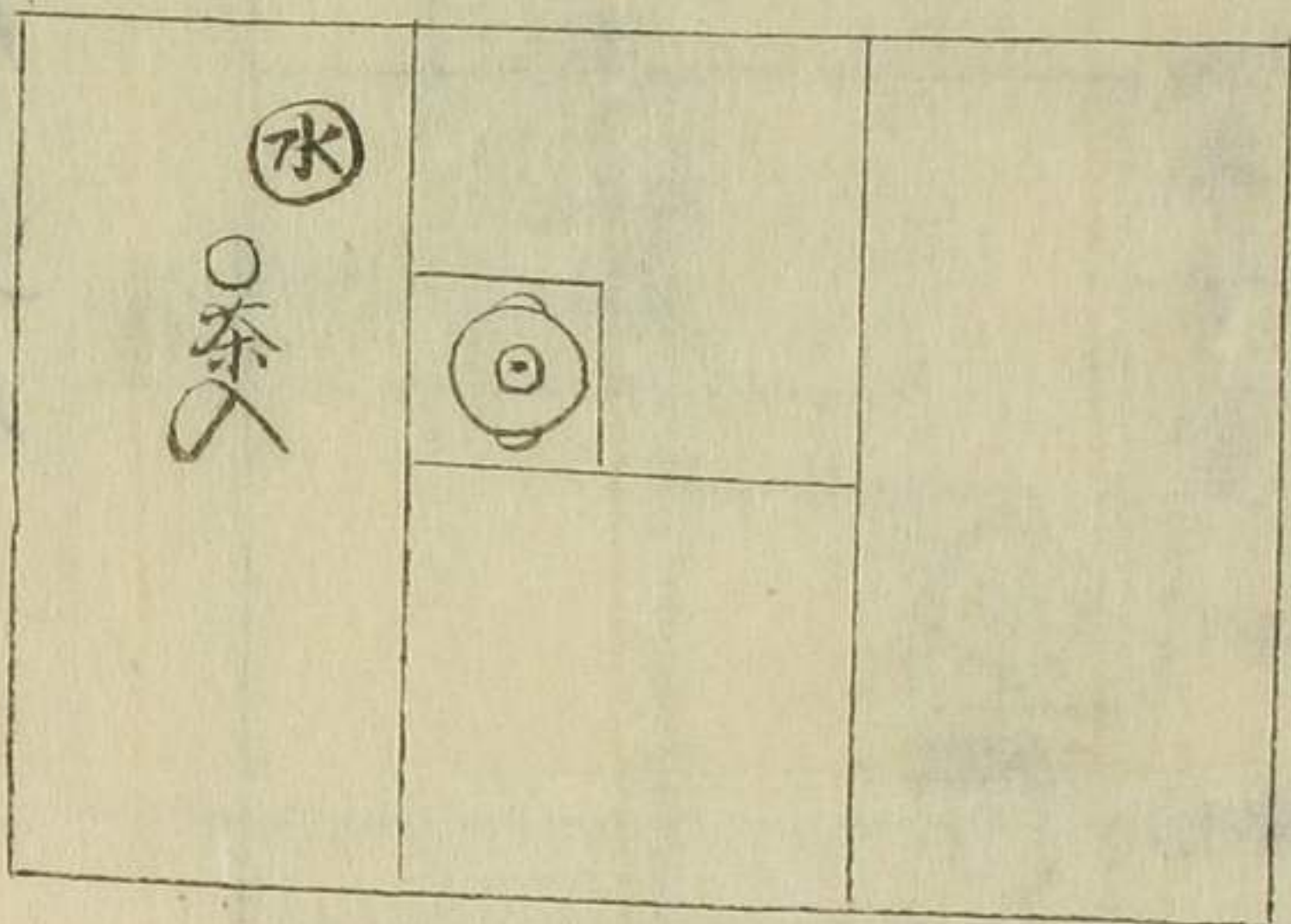
四喜半出炭



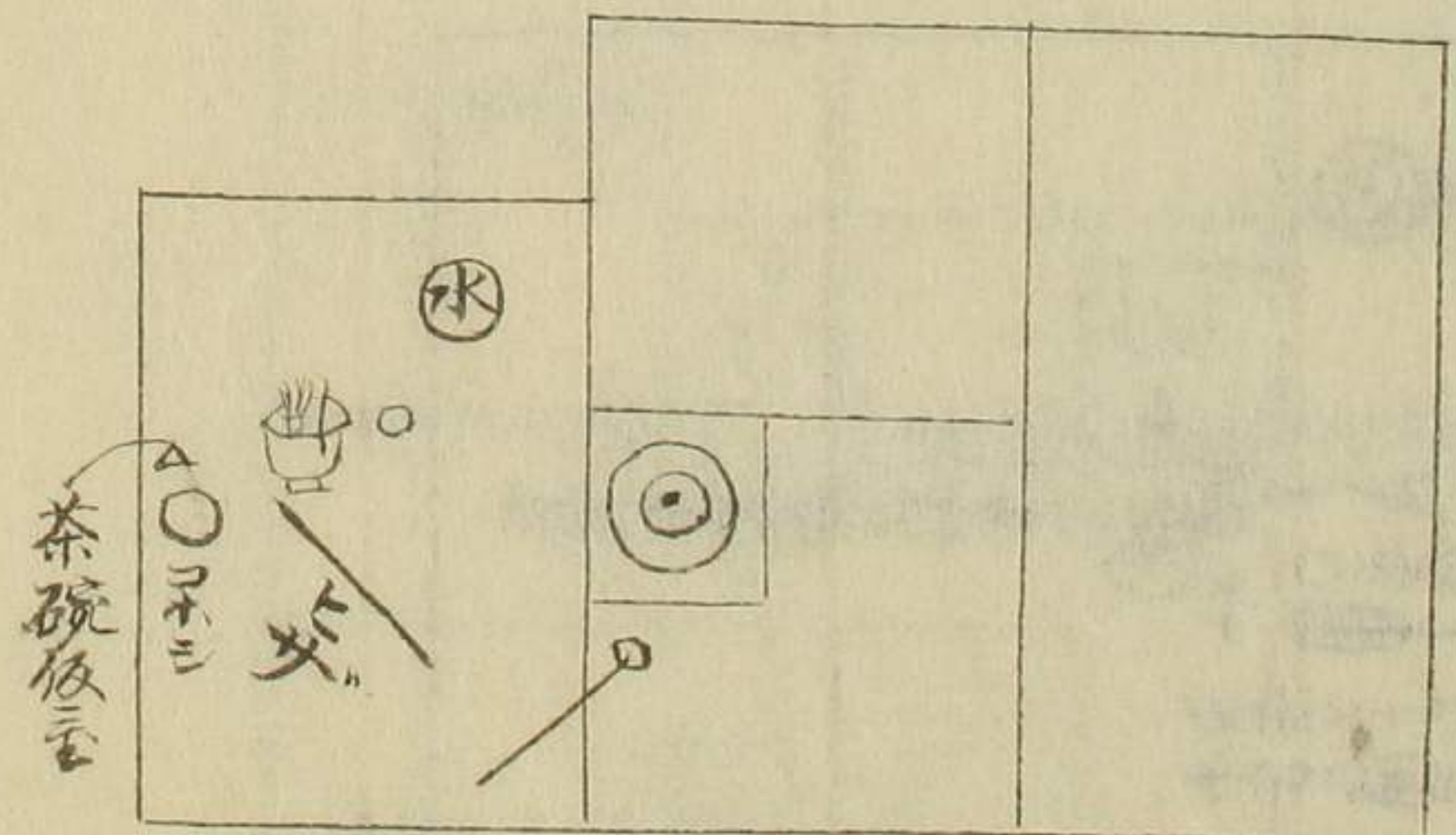
其屋目置合



其屋目

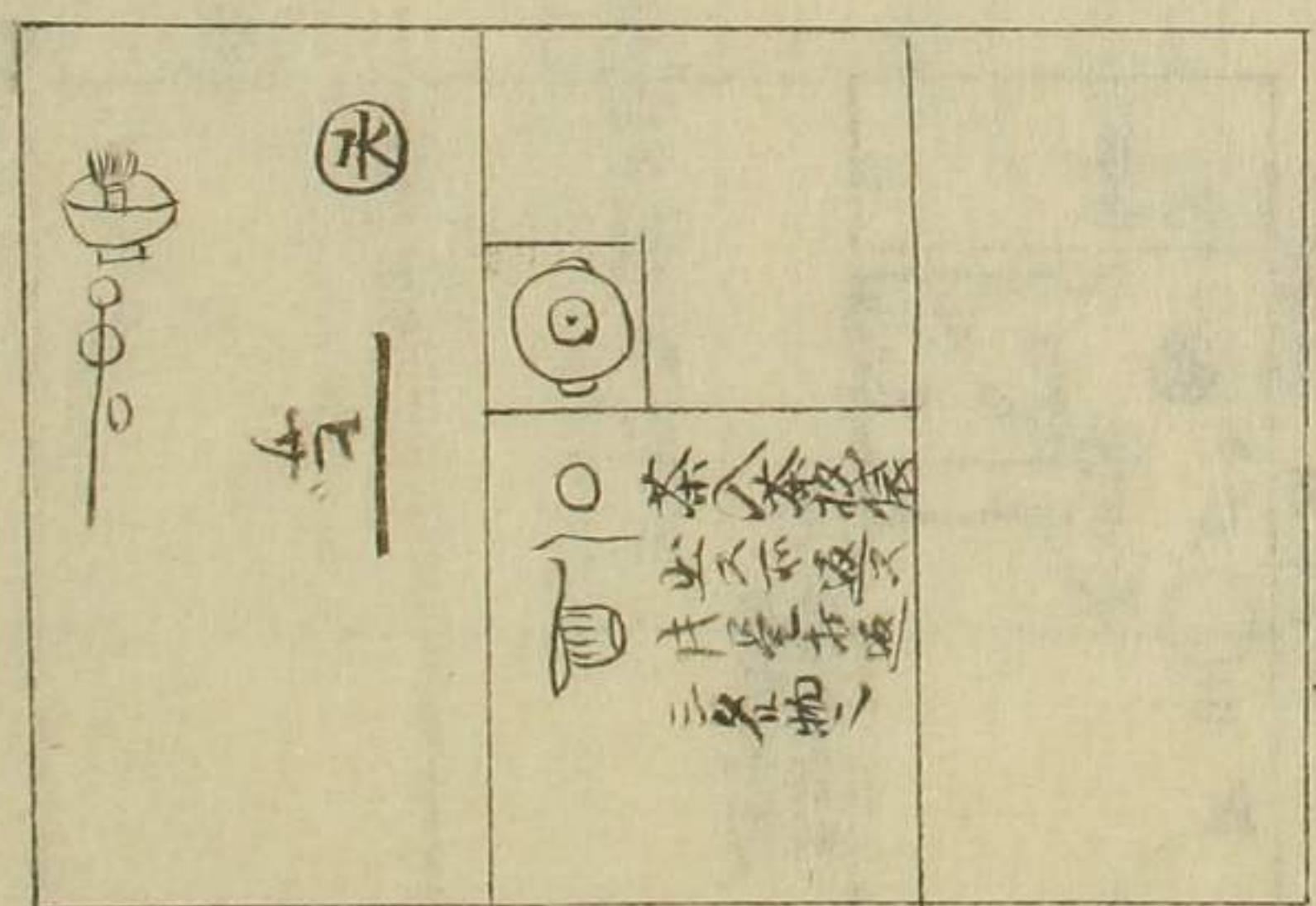
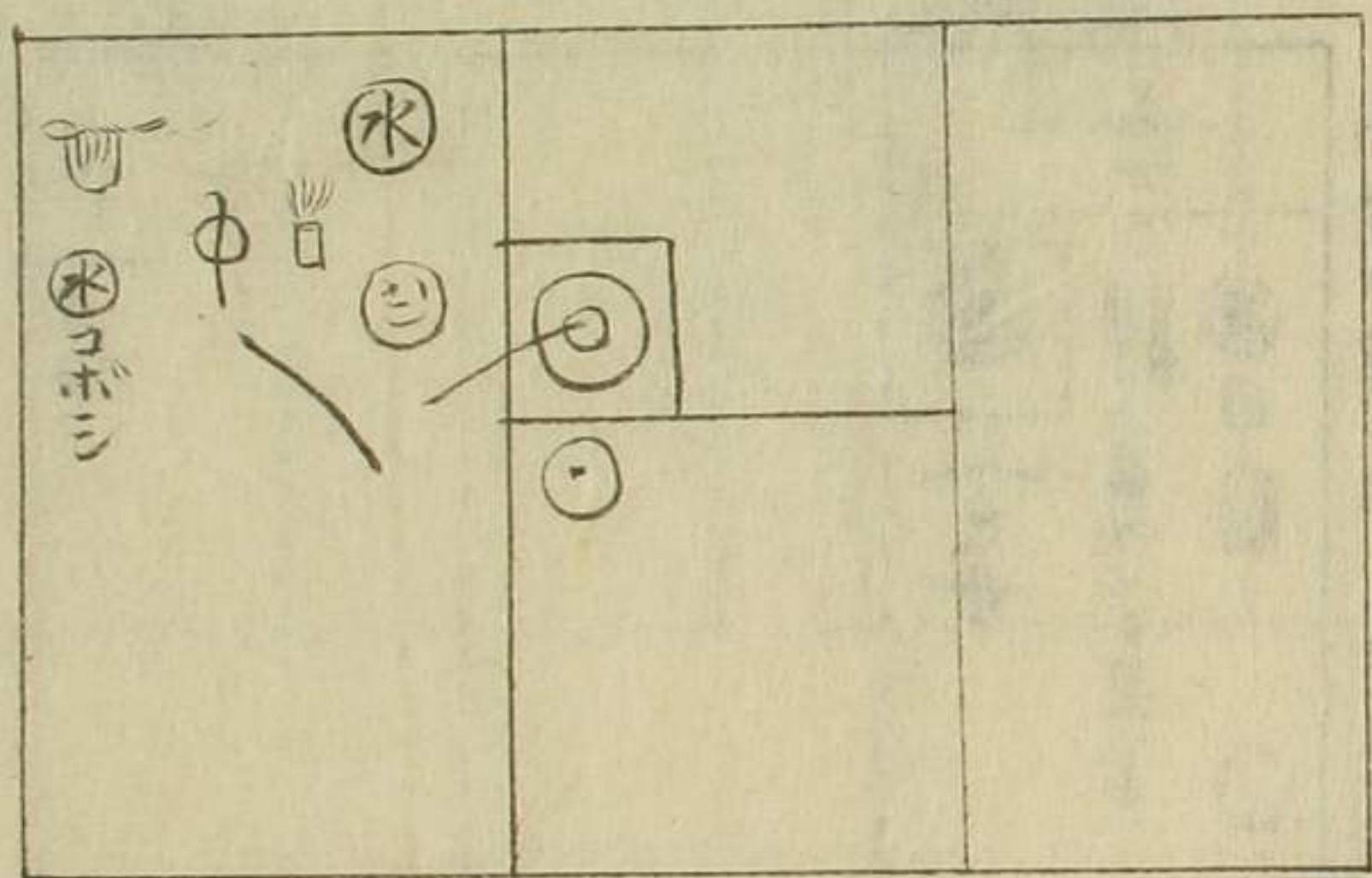


其屋目



茶碗飯

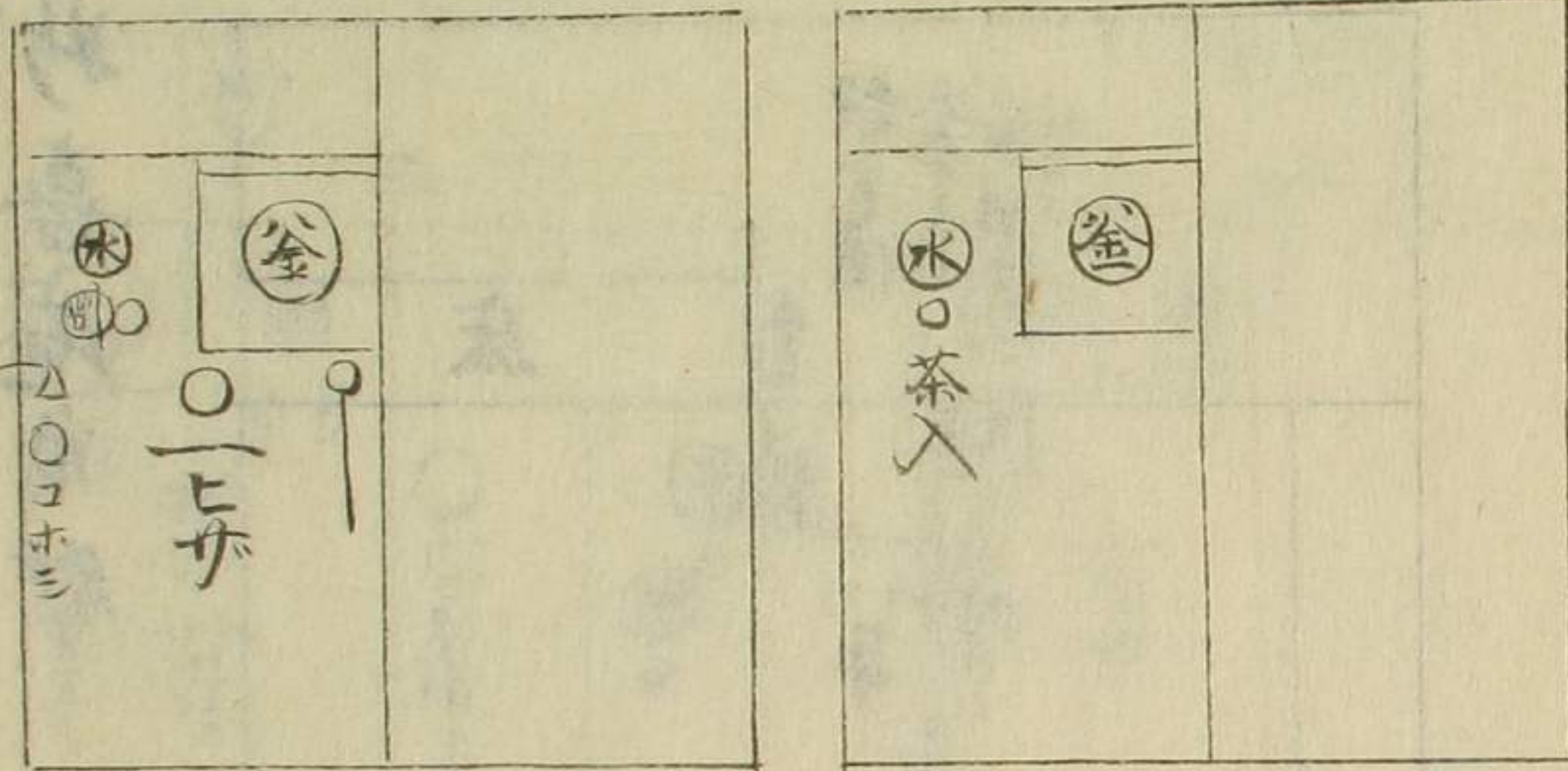
其屋目



茶碗飯
此之正
其屋目
三茶物

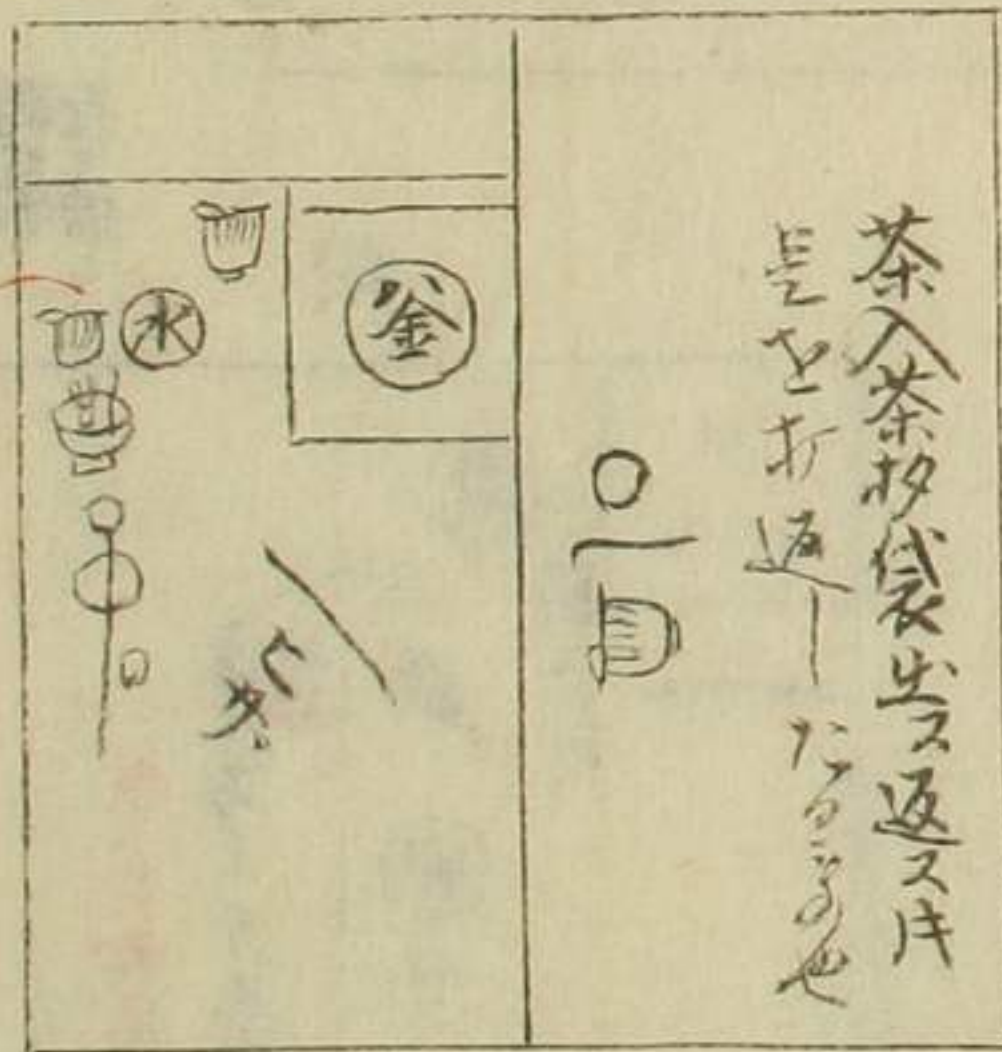
切向

二



茶碗カシキ
△ココホミ

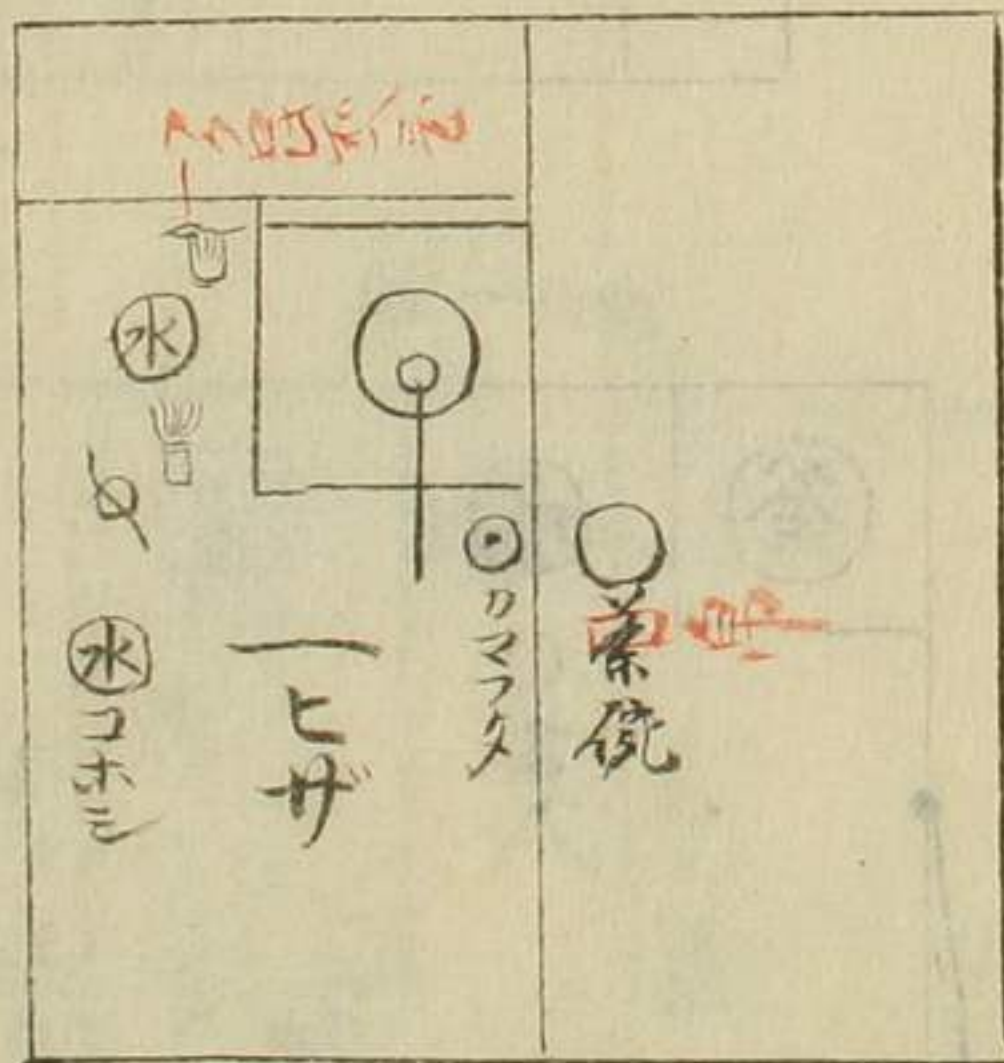
二



是は老心不用

茶入茶杓袋出返す片
是を打返したる也

三



茶碗

茶碗

茶入

茶托

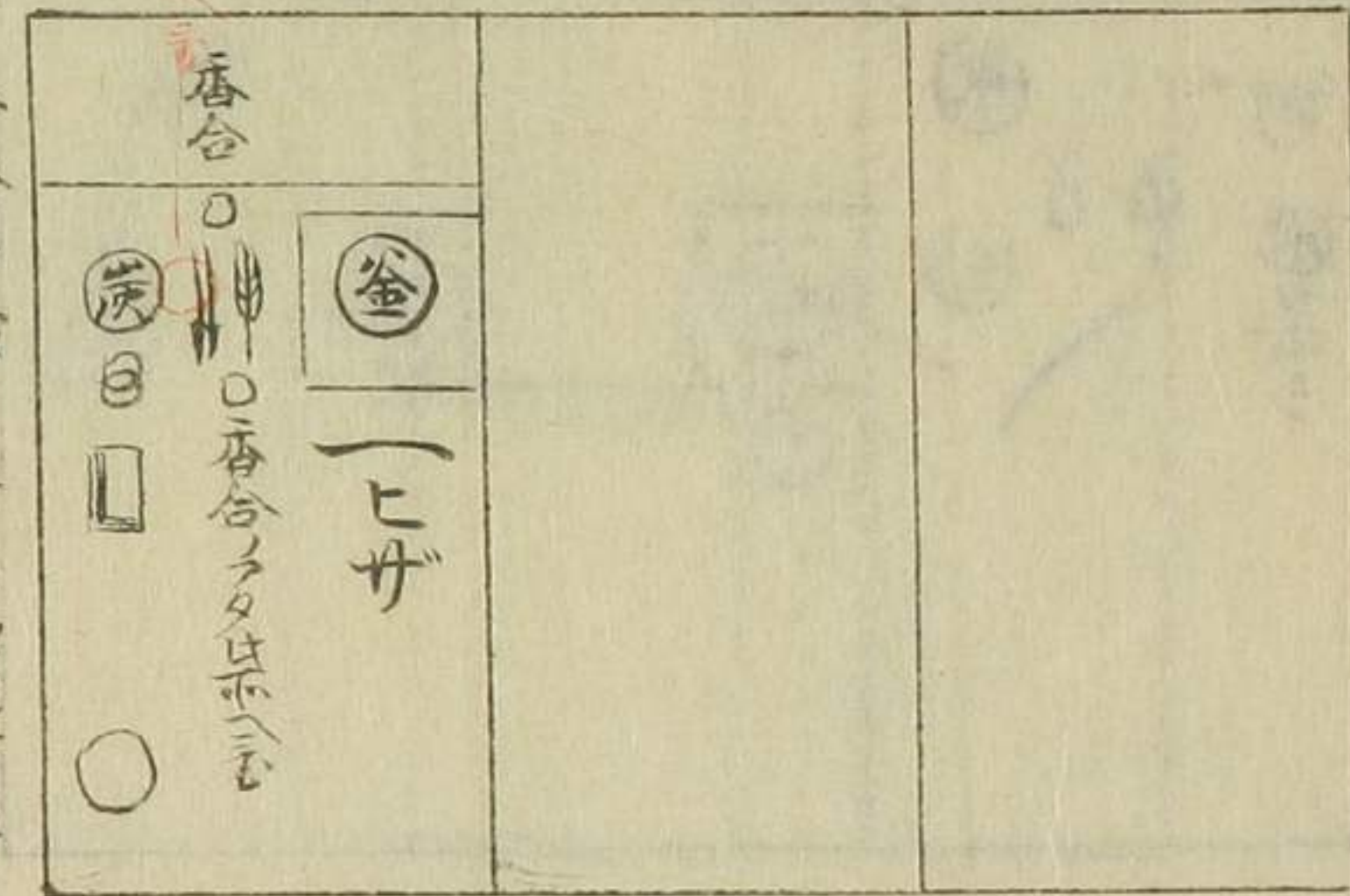
切向

炭組方誌

雨夕
上香合
上香合
上香合

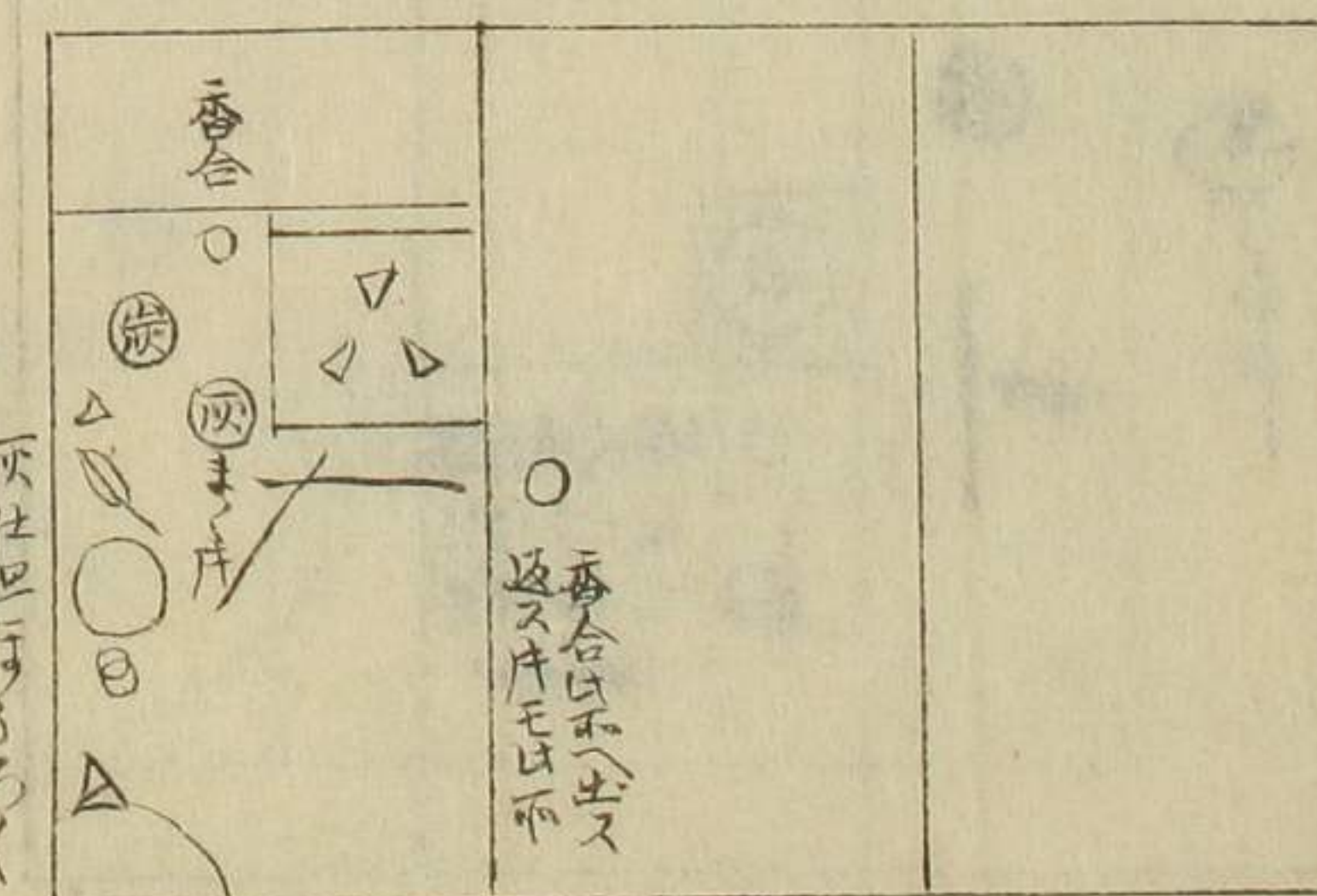


右羽用



香合斗右の区に九粒の皆九の区を扱す

茶目

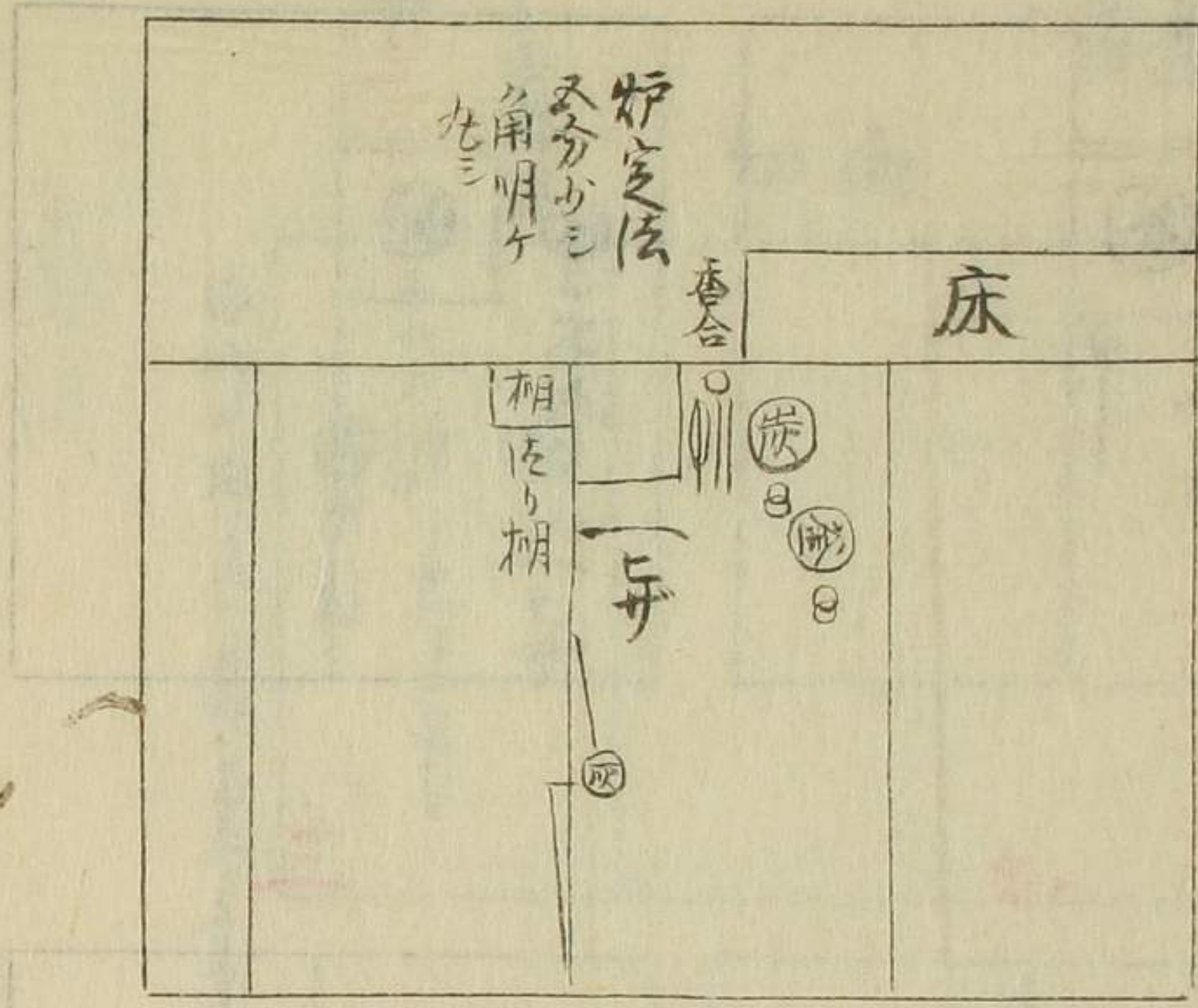


香合は不出
返す片は出

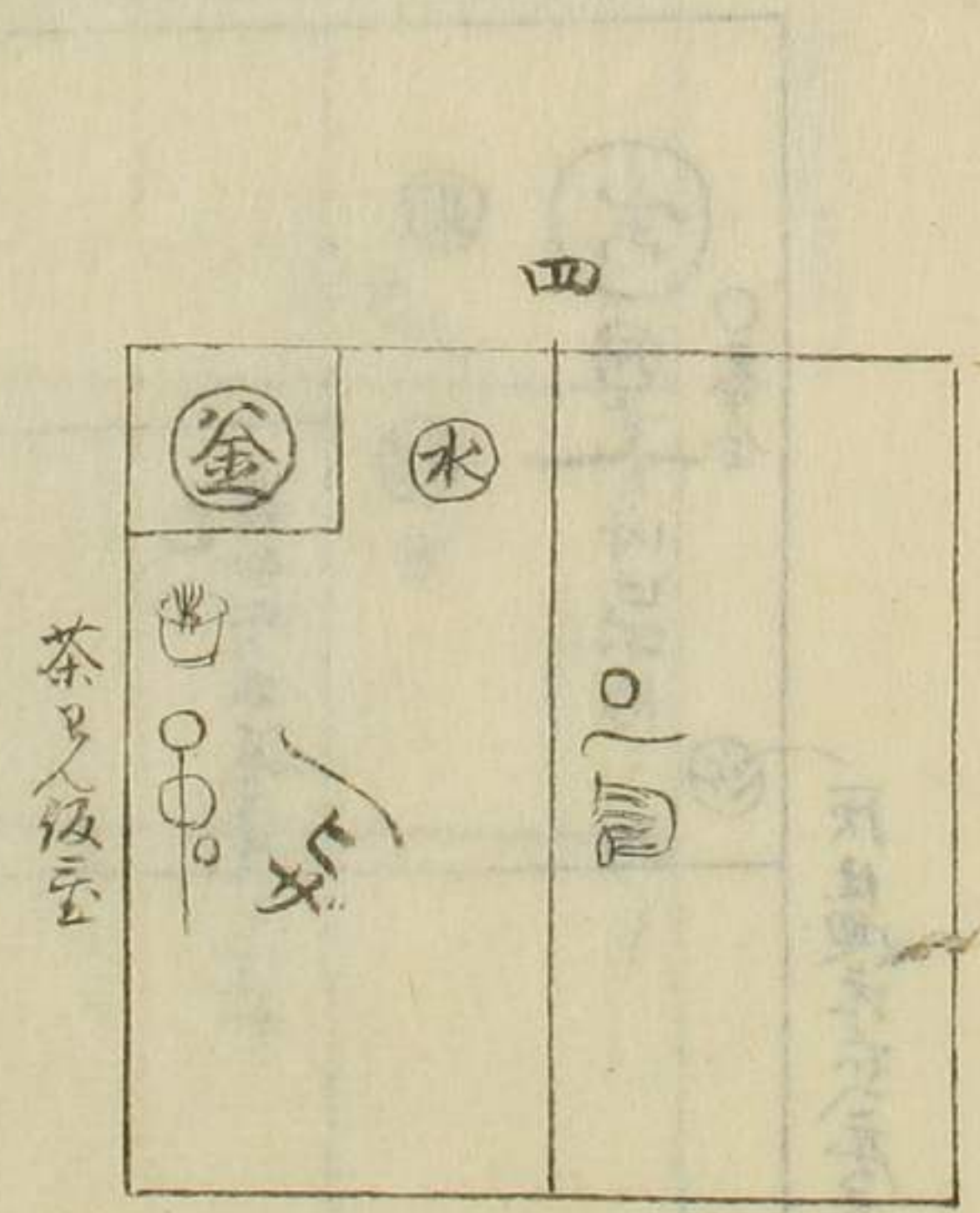
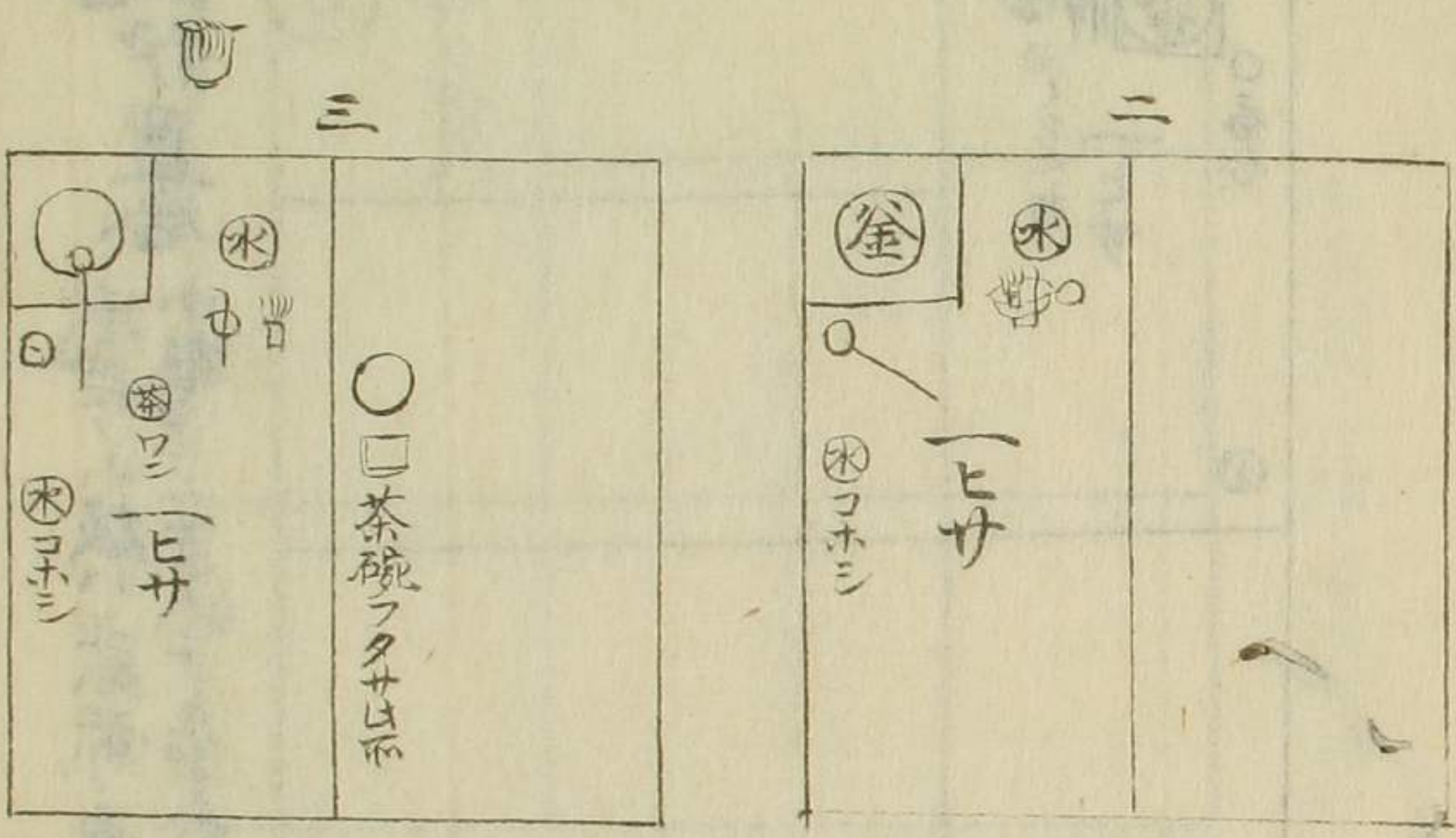
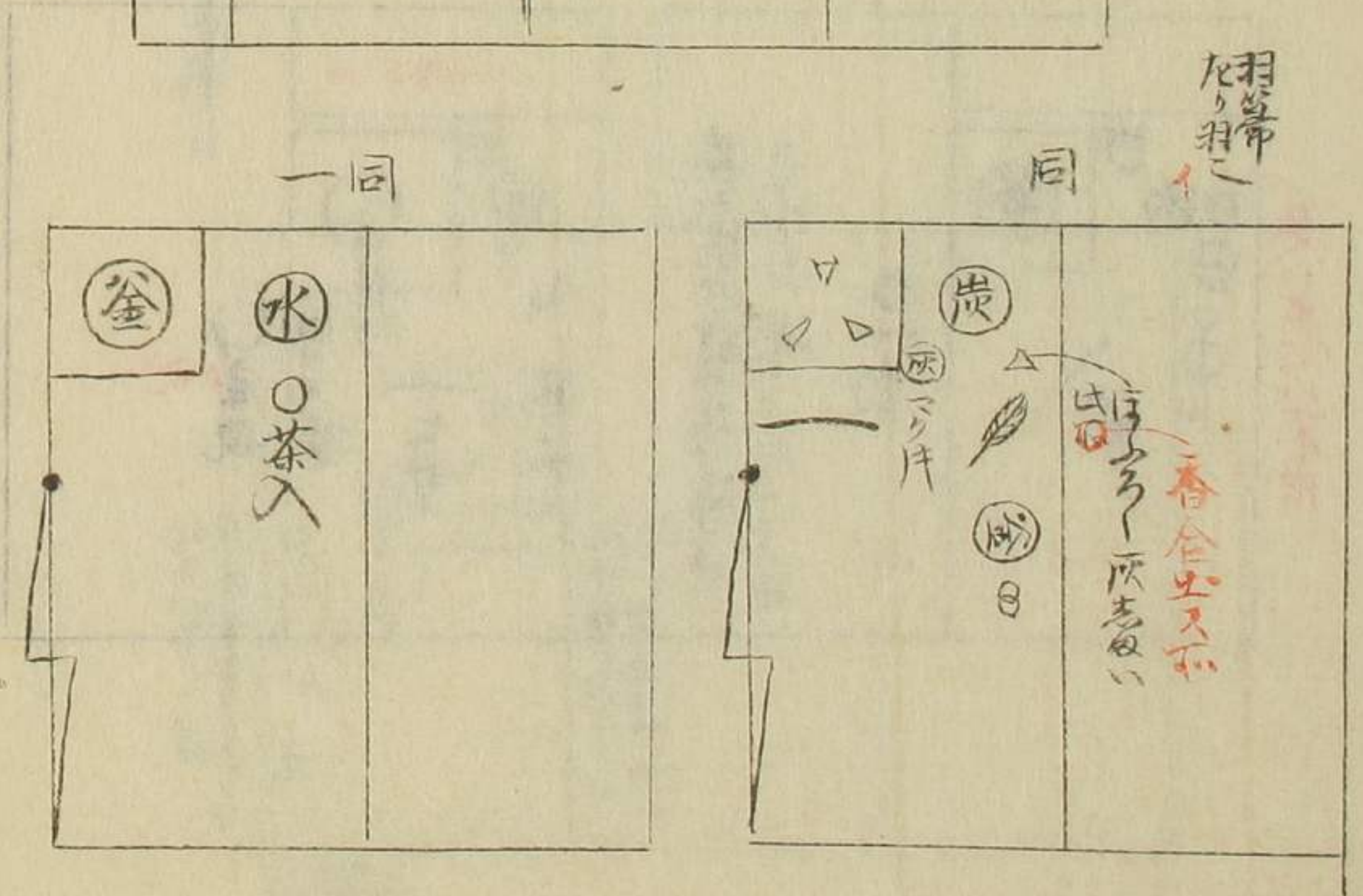
灰仕世はよく
は和らぐ

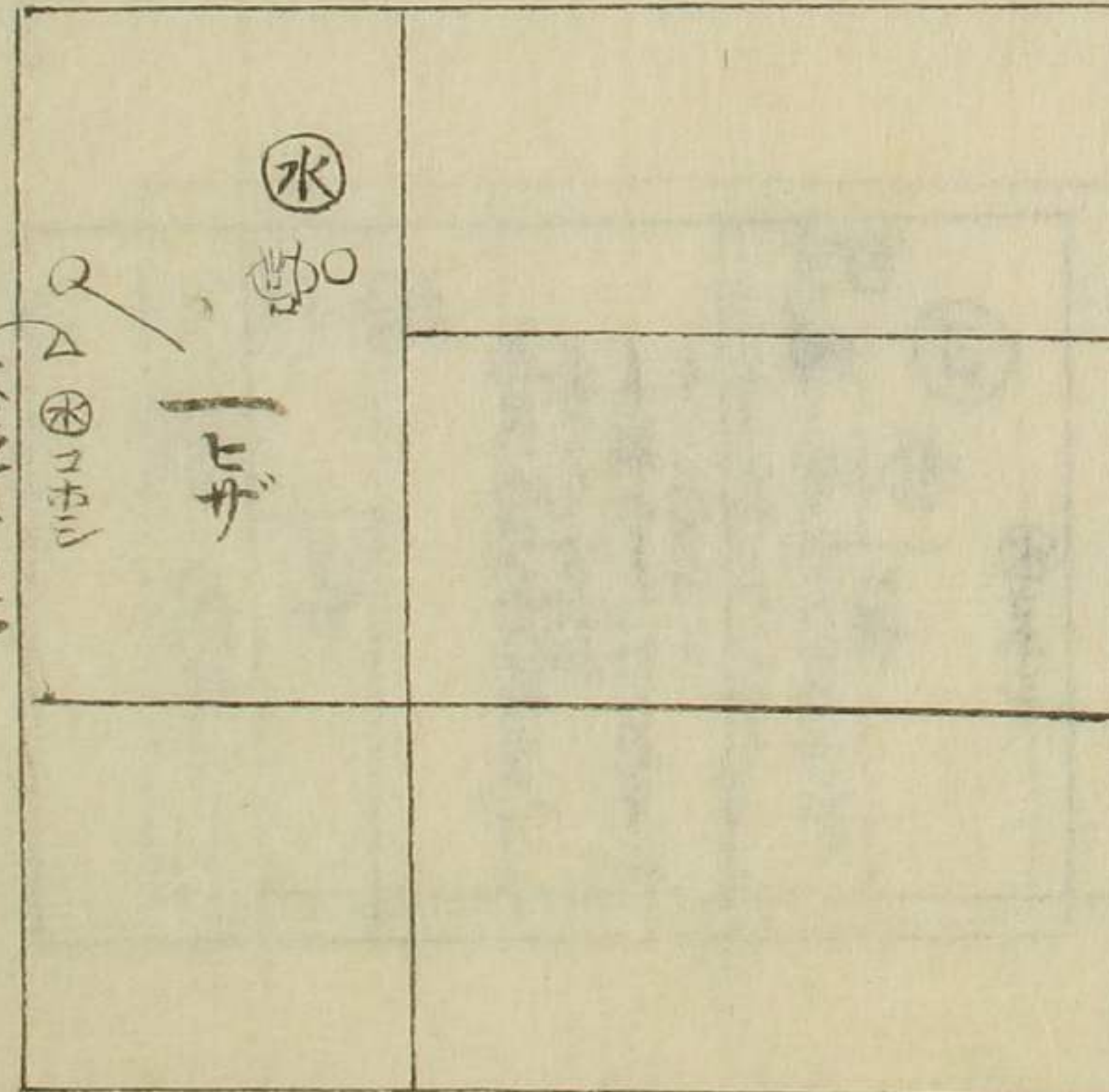
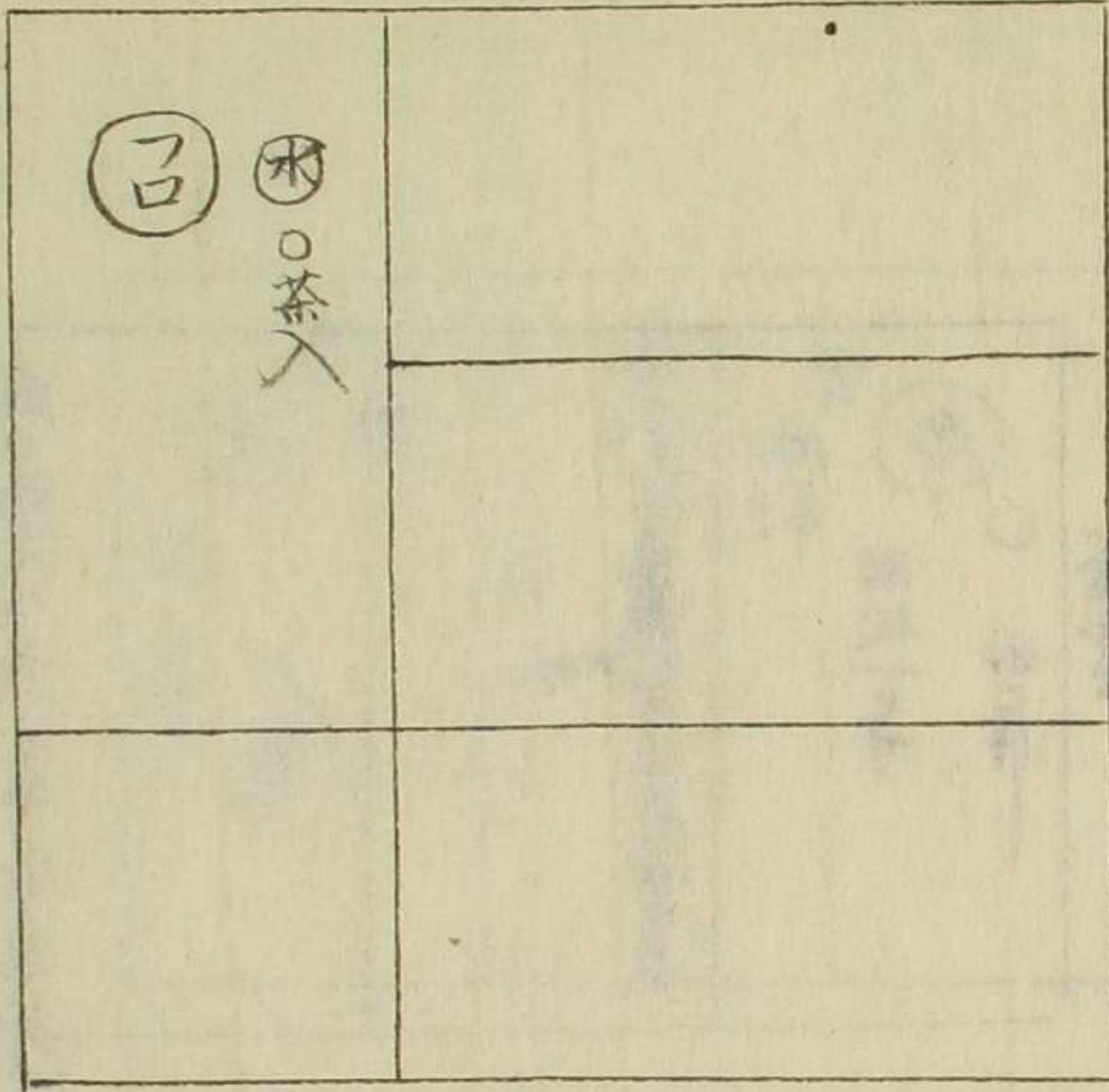
白炭を扱
炭仕世はよく
は和らぐ

妙喜庵角炉

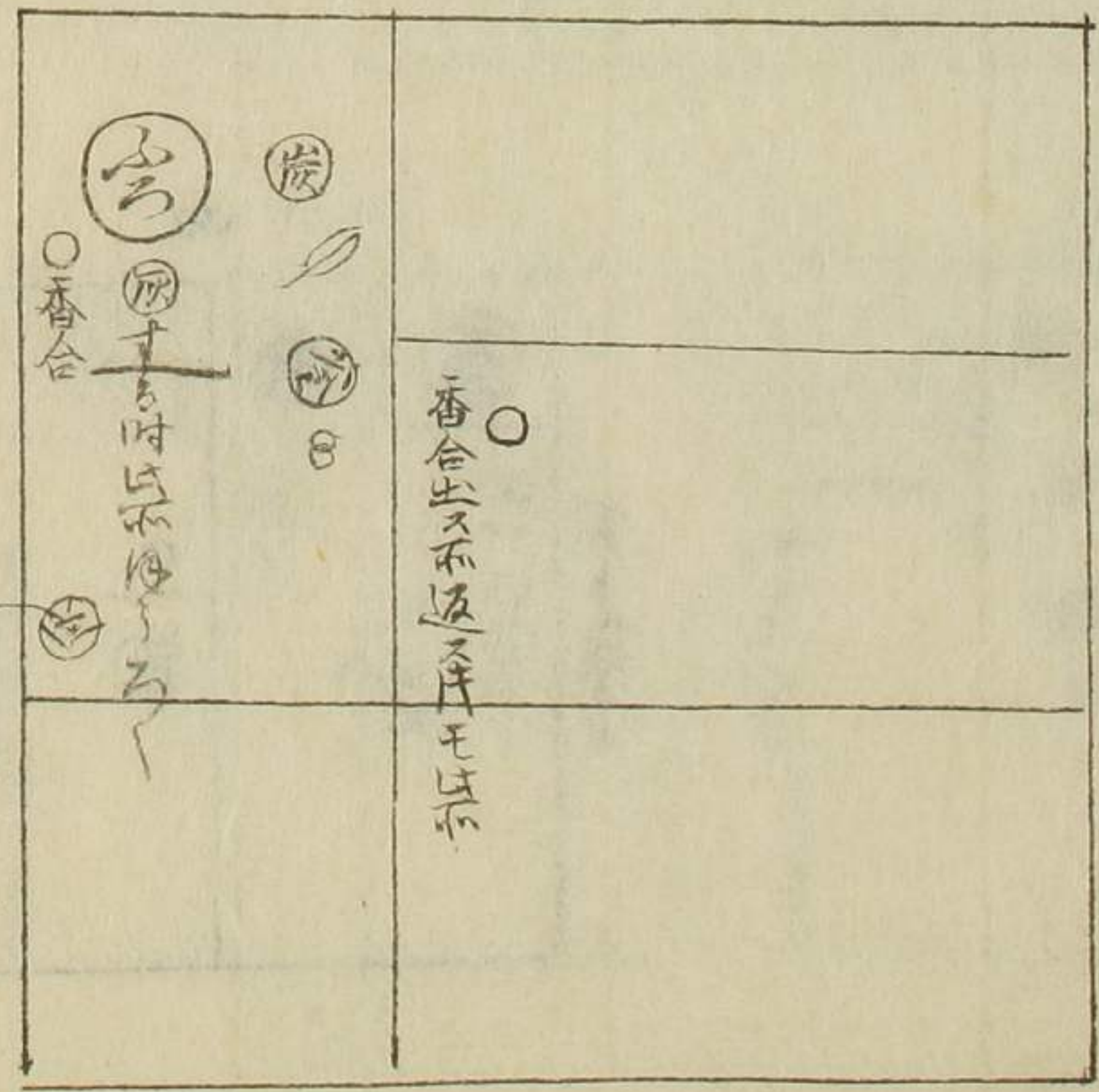
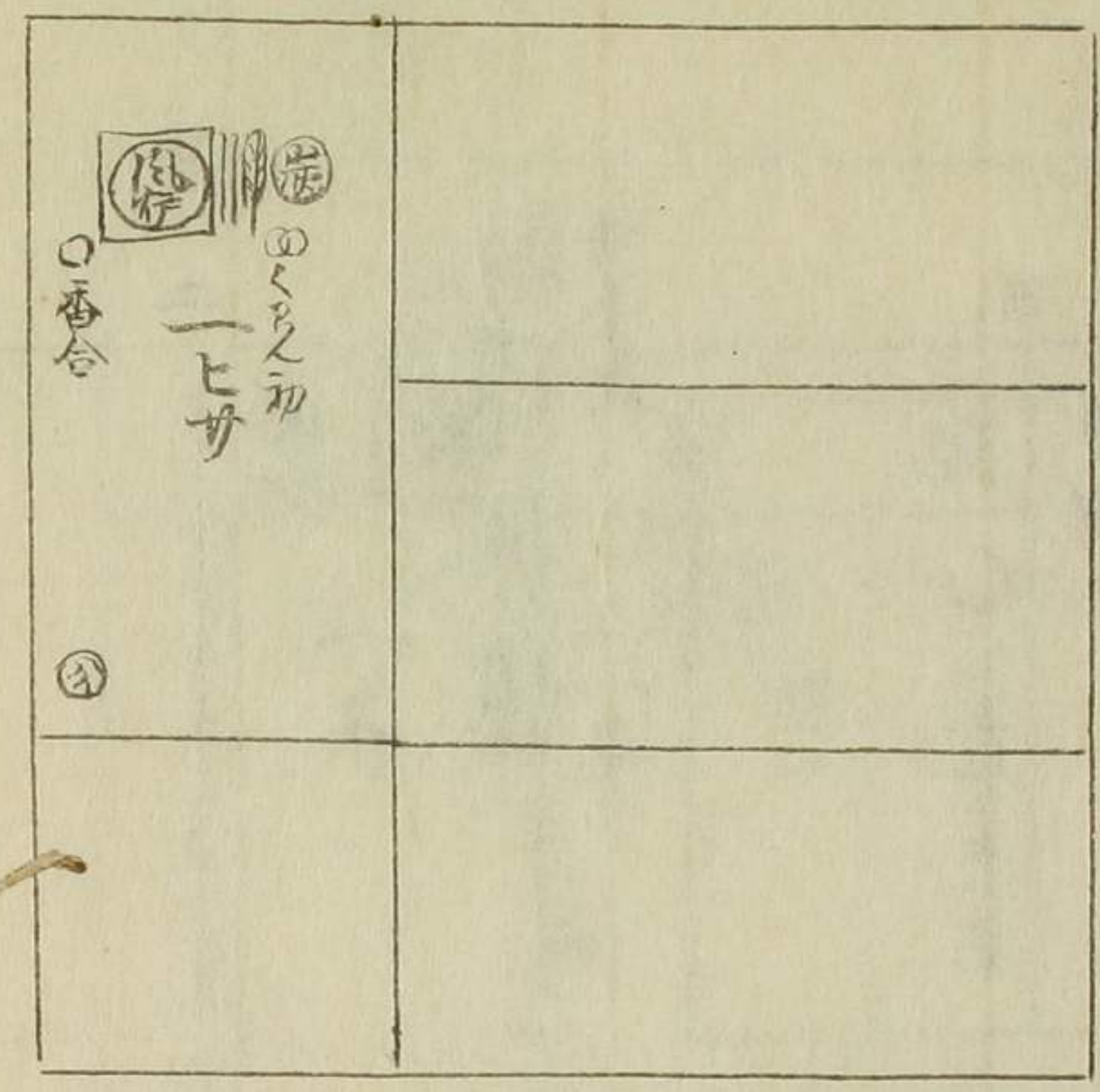


羽織
袴



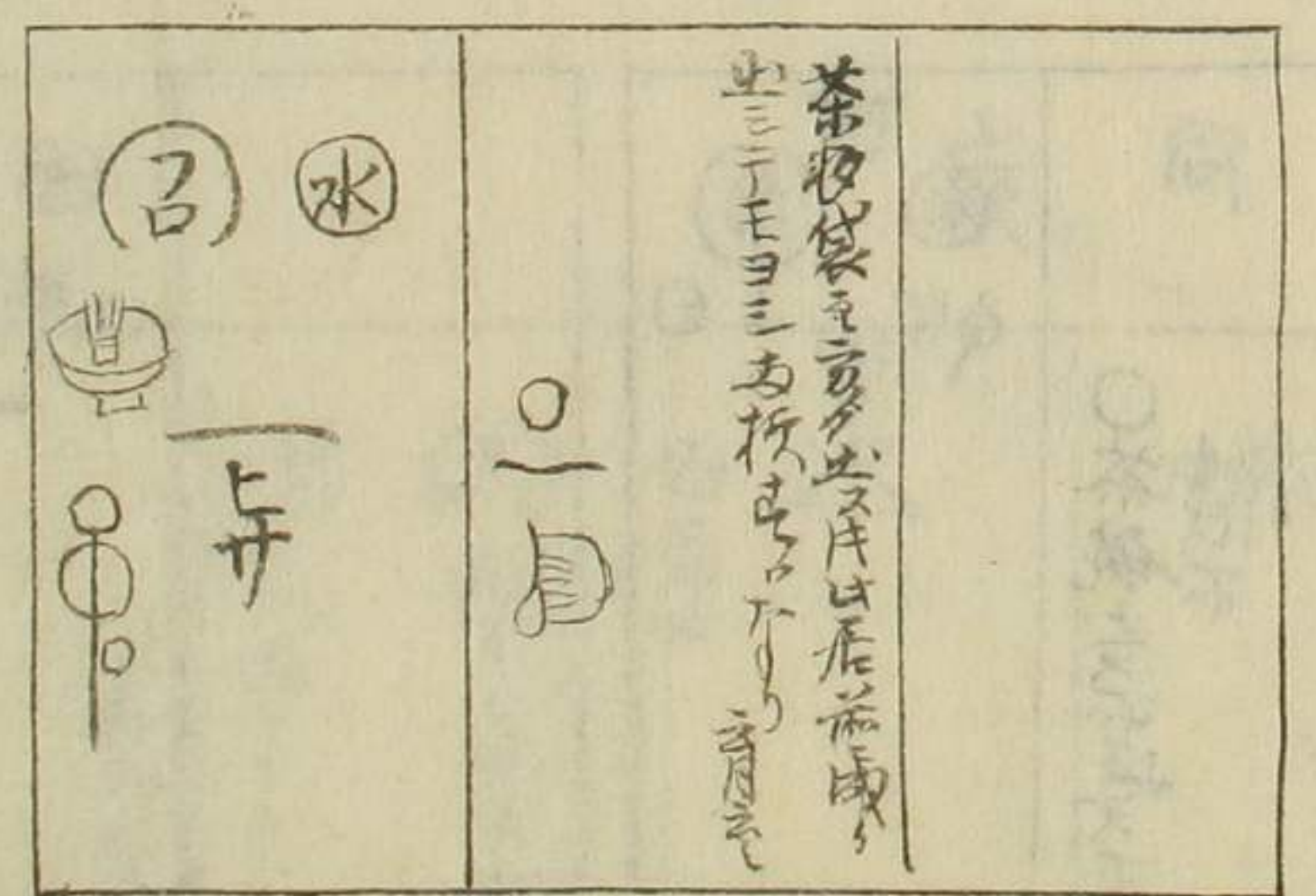
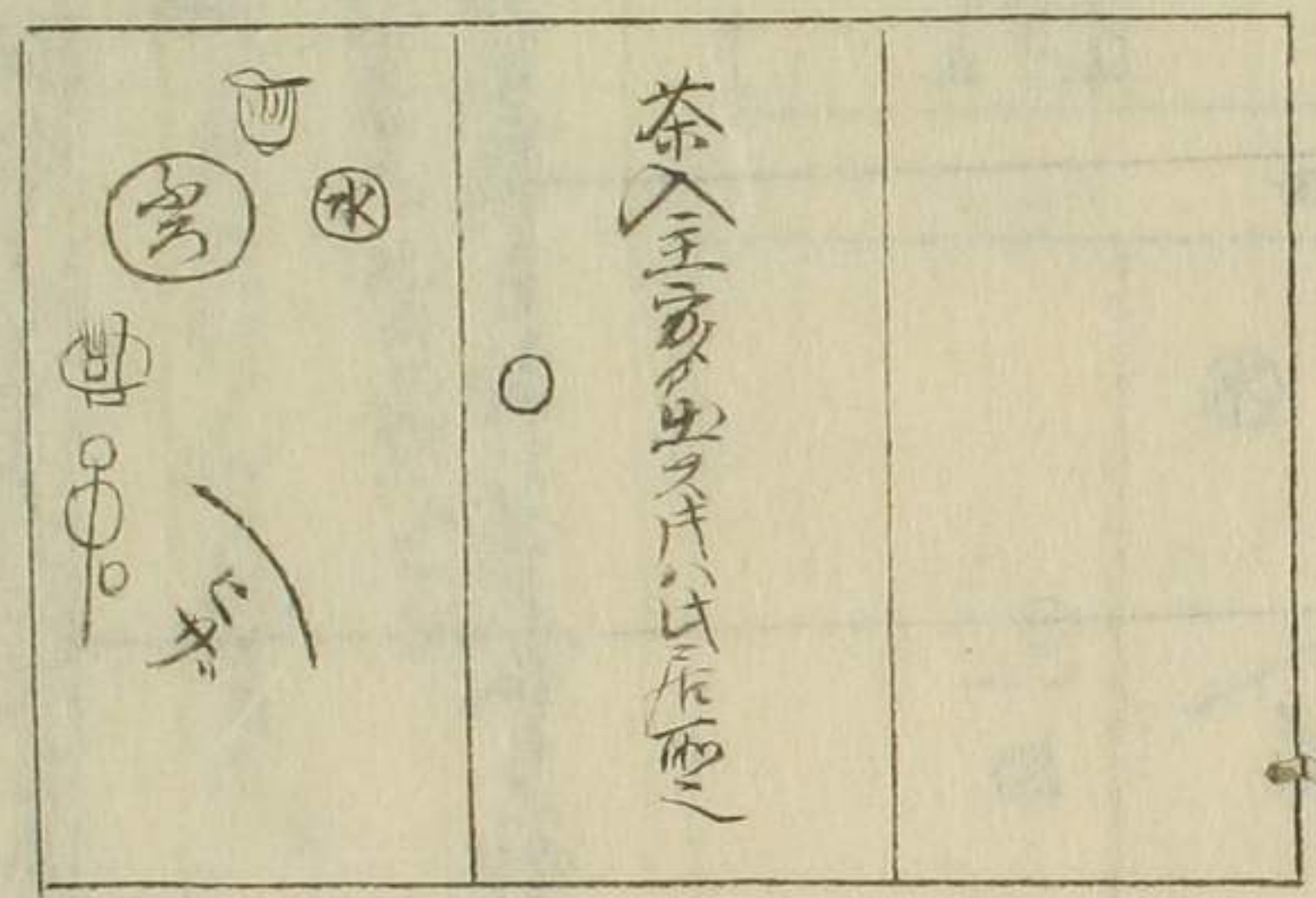


茶碗仮の底

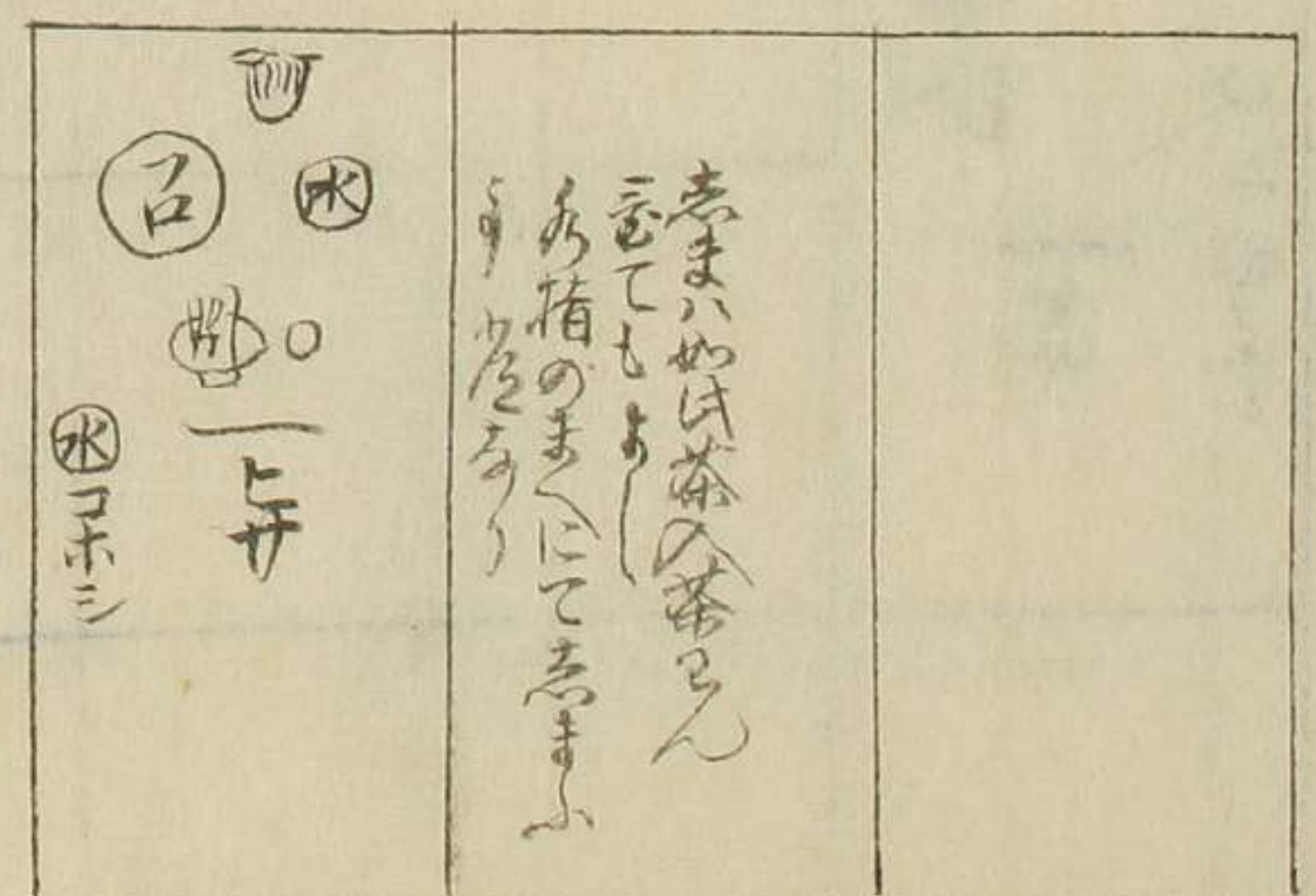
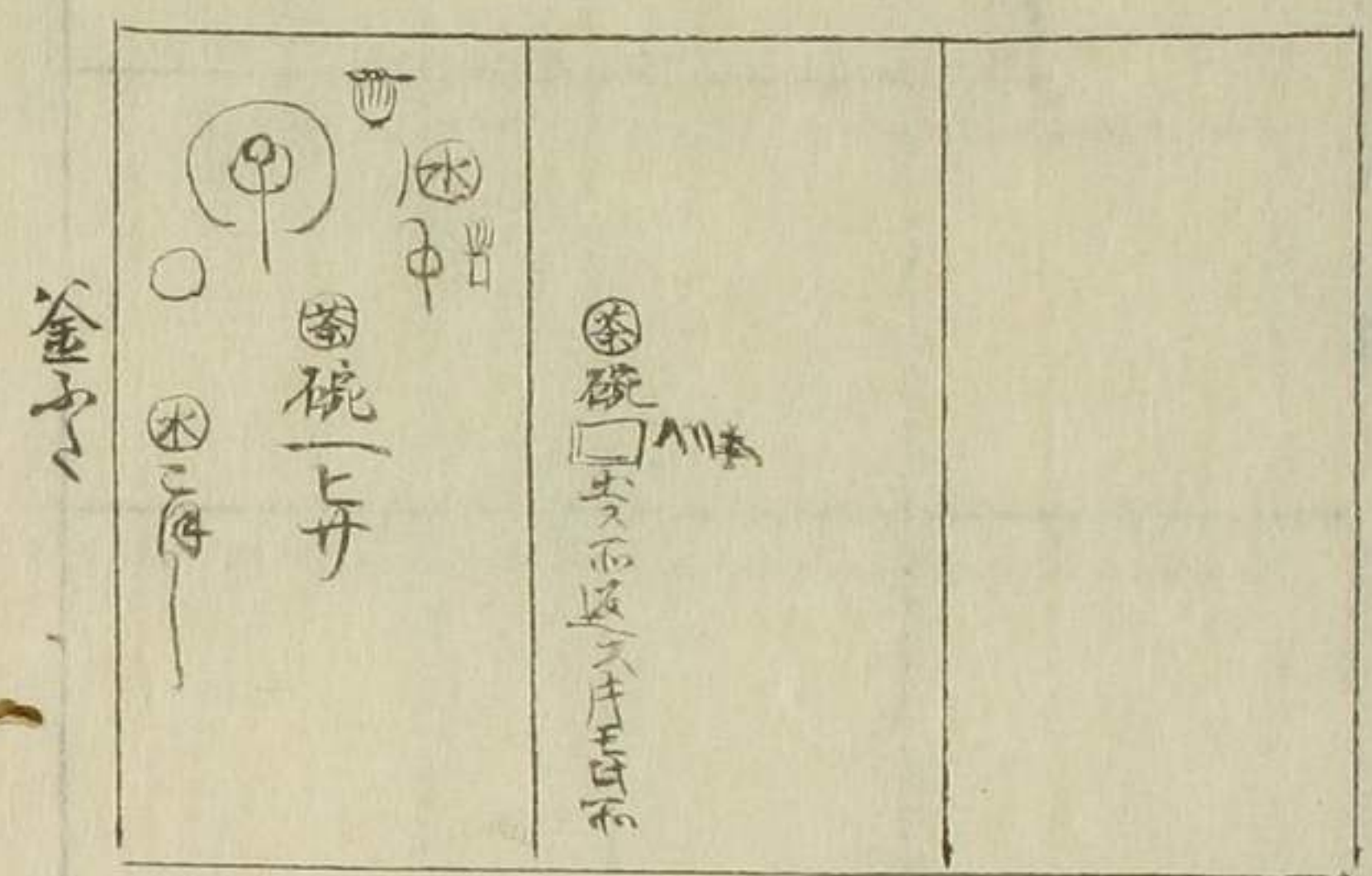


風炉置合
 目高の小板の床前、通して高目ノ通りニ並也
 小板ヨリ一寸入テ重合也
 後イ
 相類ハ

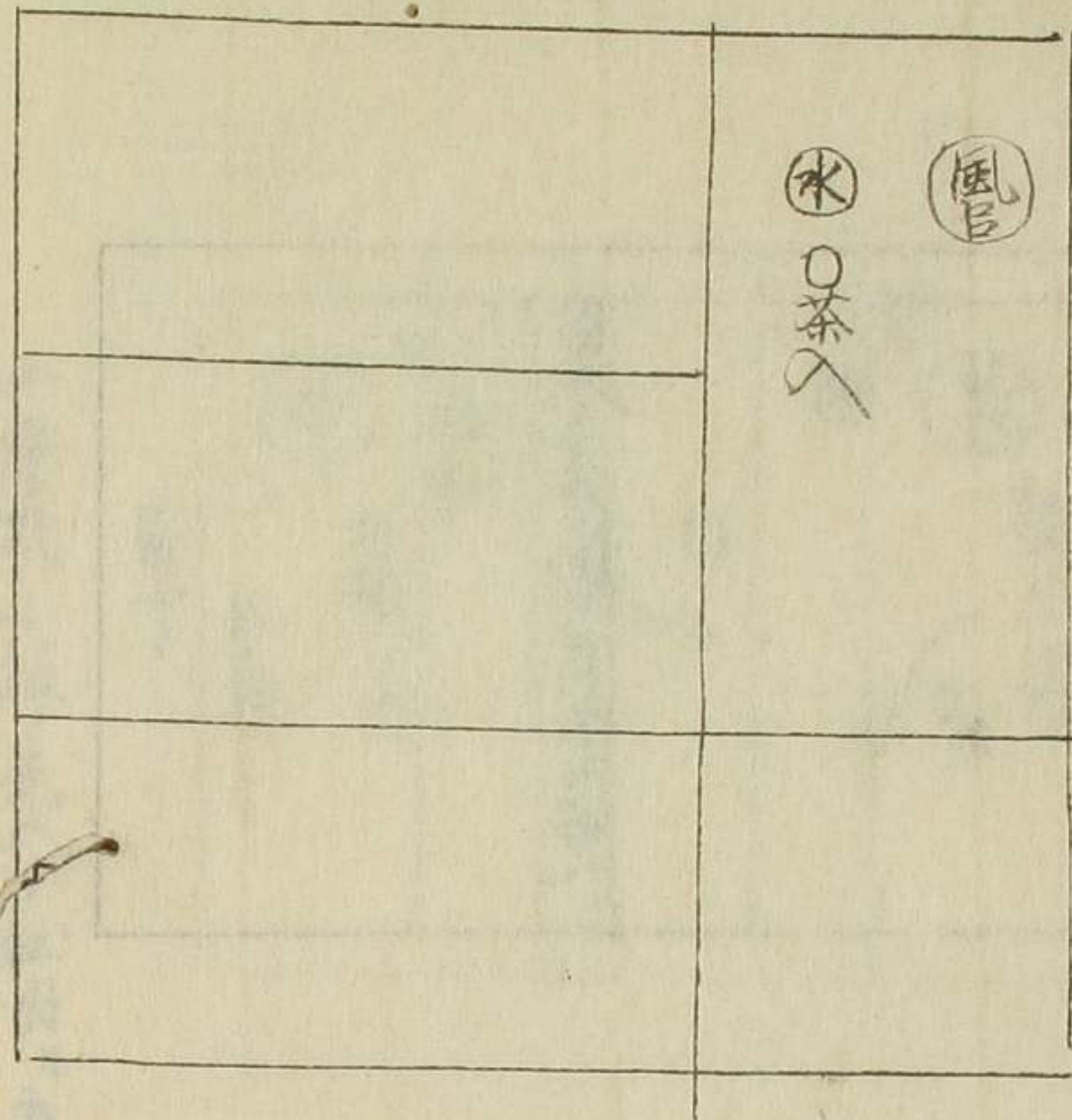
は居前の俵に茶を食す
出さてもよし 三月三日



小座敷小板先ずは居前 三月三日

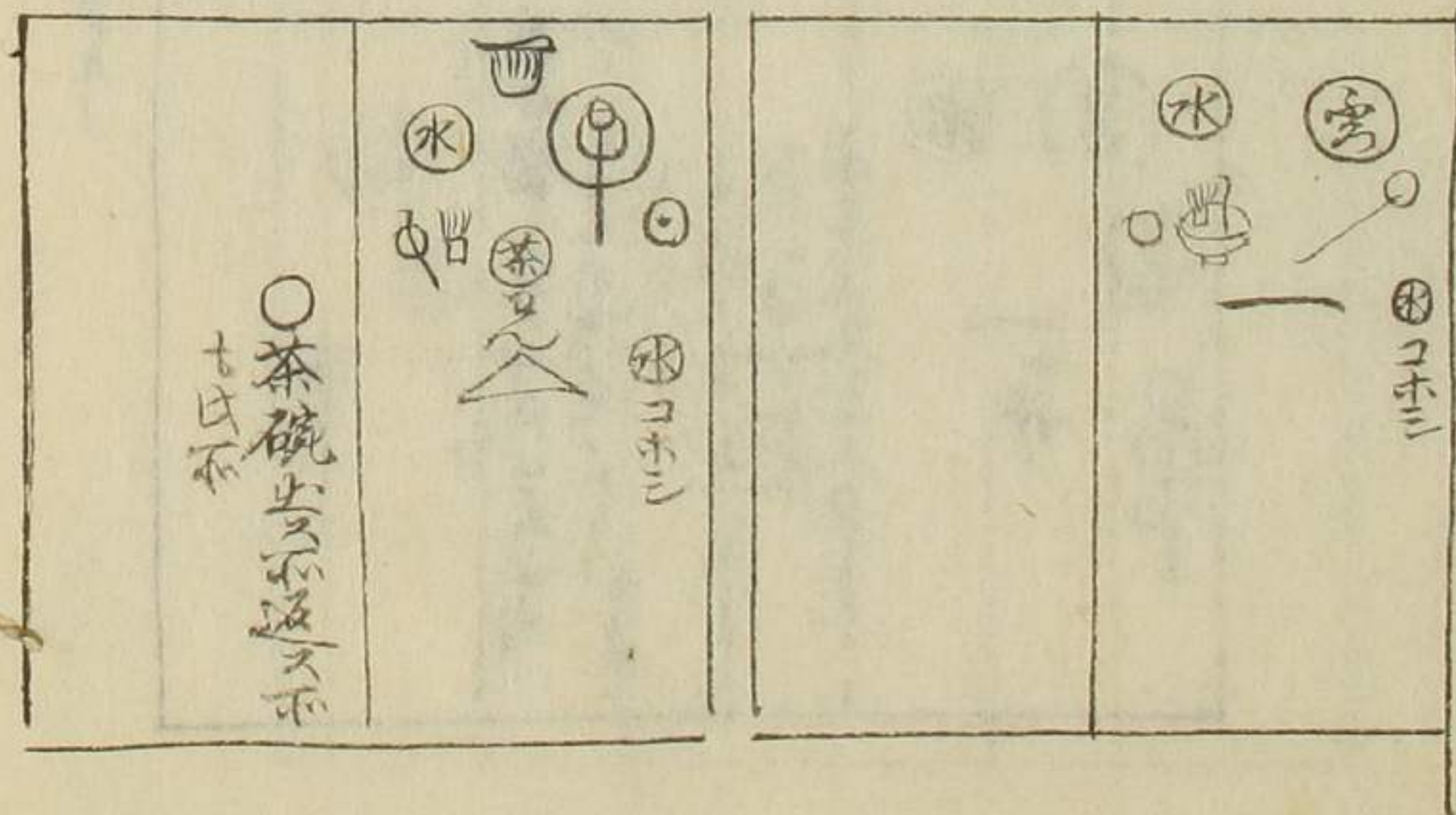


風炉送勝子

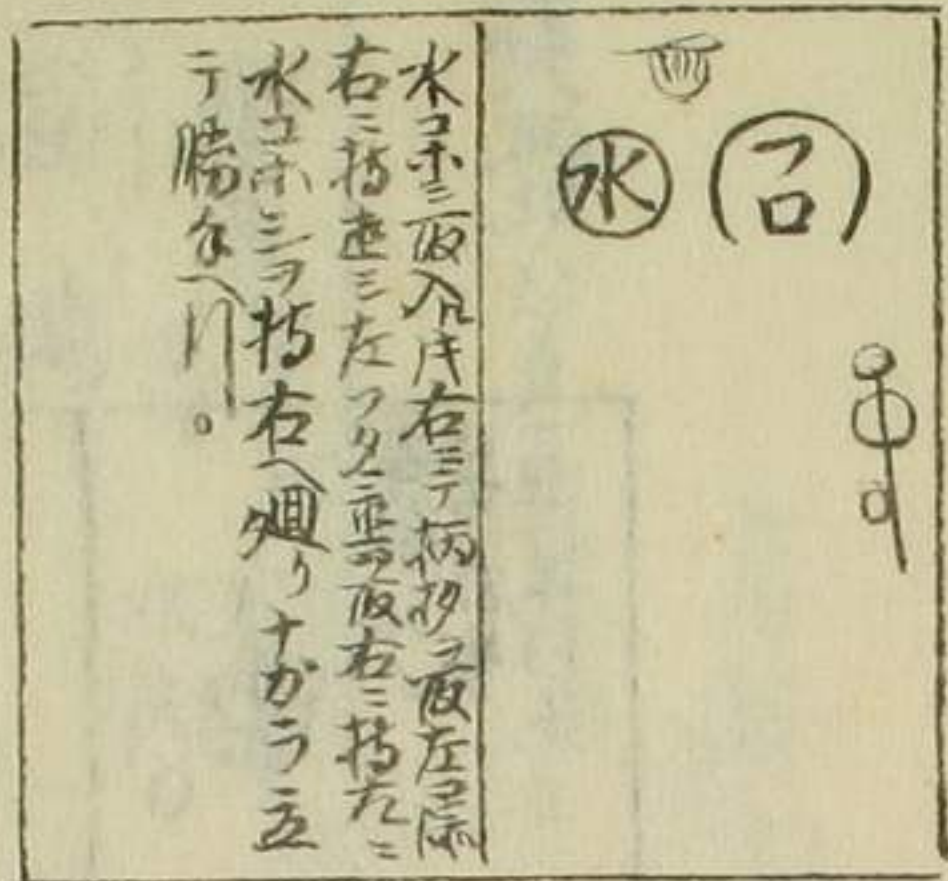


二

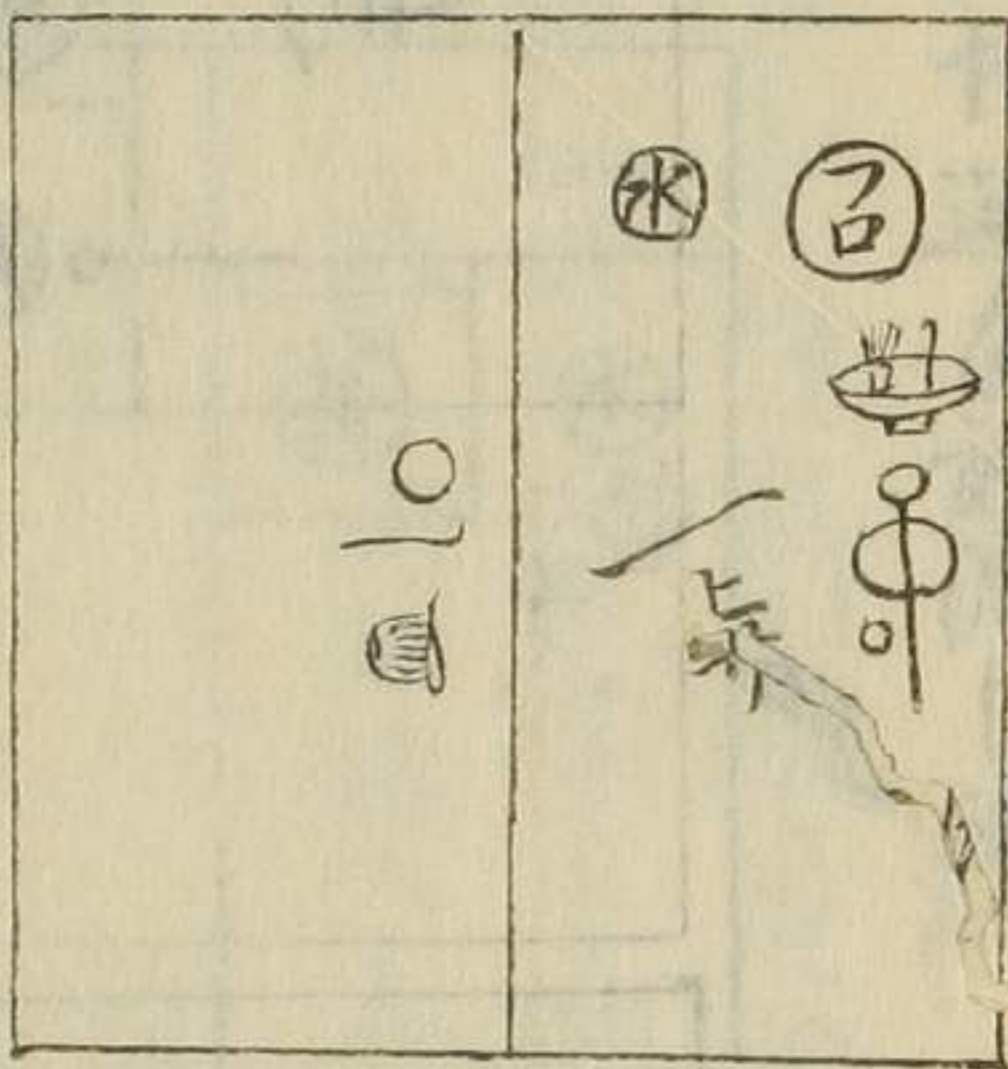
三



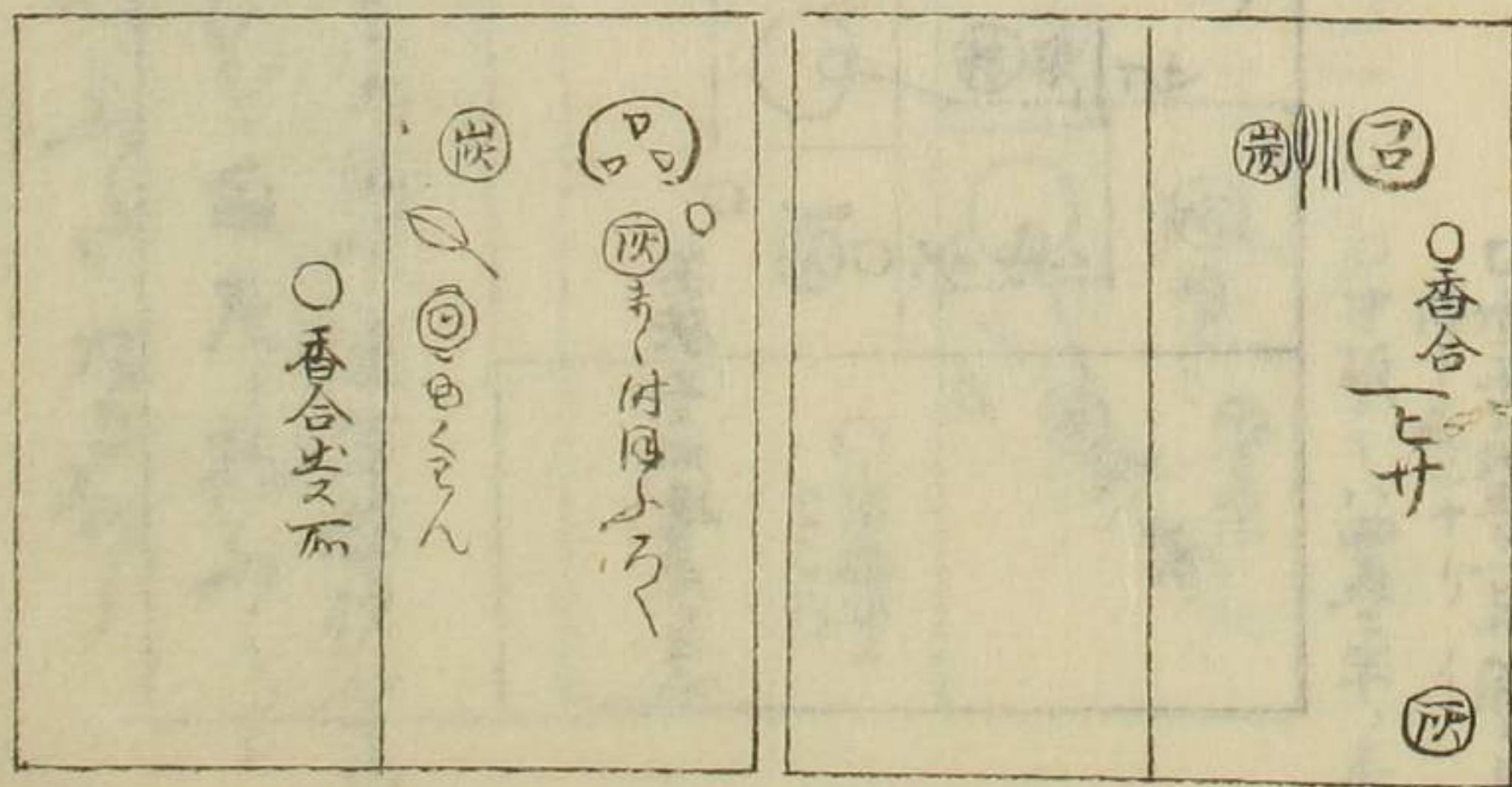
五



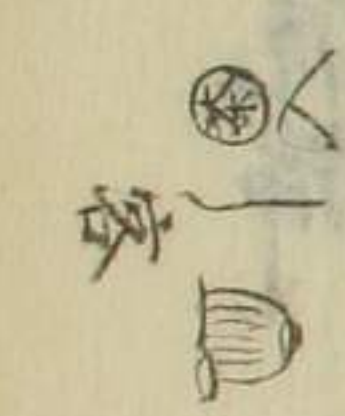
四



炭同

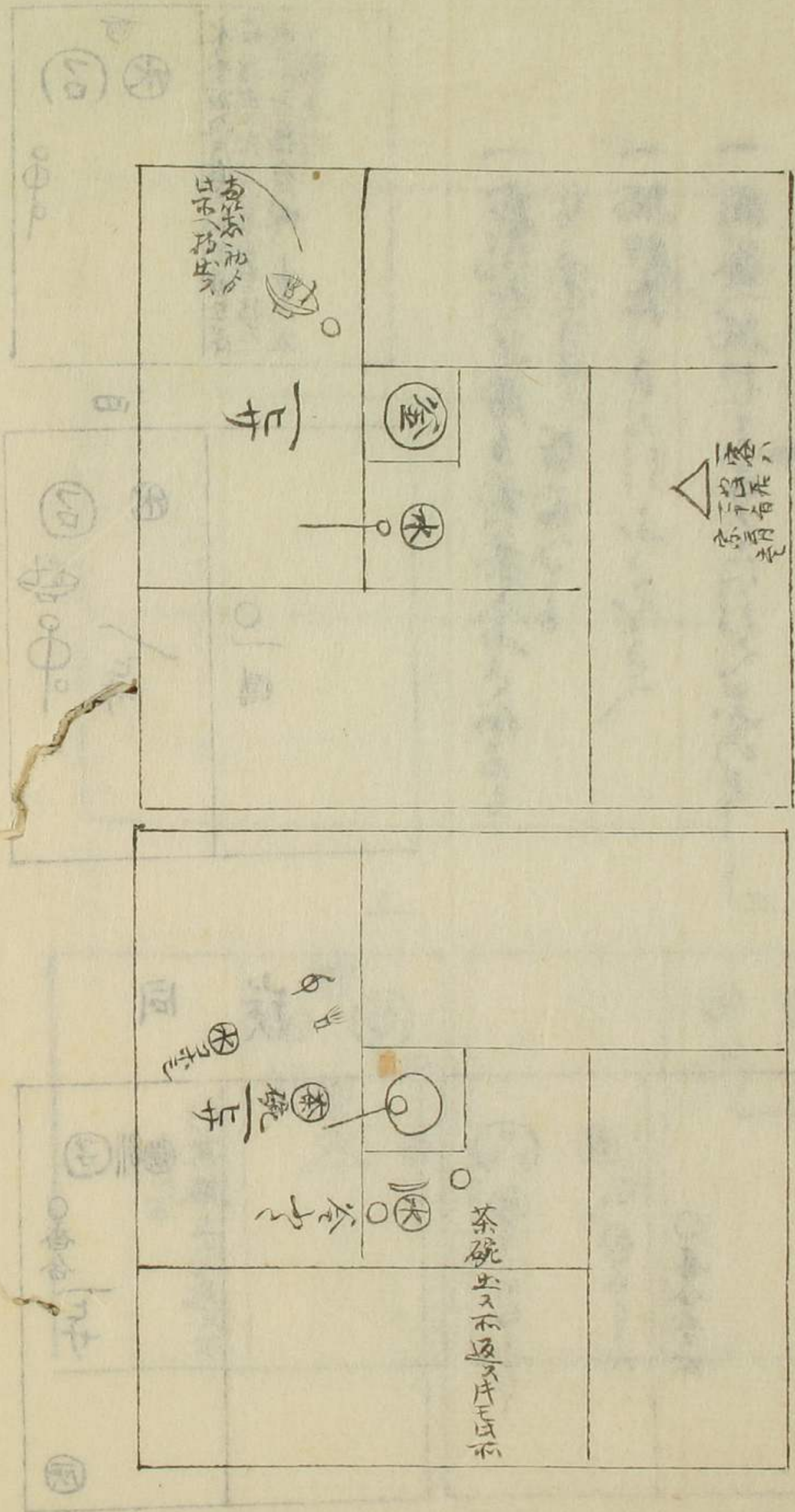


一 右風炉送勝子前茶入あつて何れも
 移りな 炭前あつて
 一 柄初左りなる引ふりてまゝ
 一 同釜柄初まゝくに行ふ事
 一 客の主要道具返す片は家の通案を以て

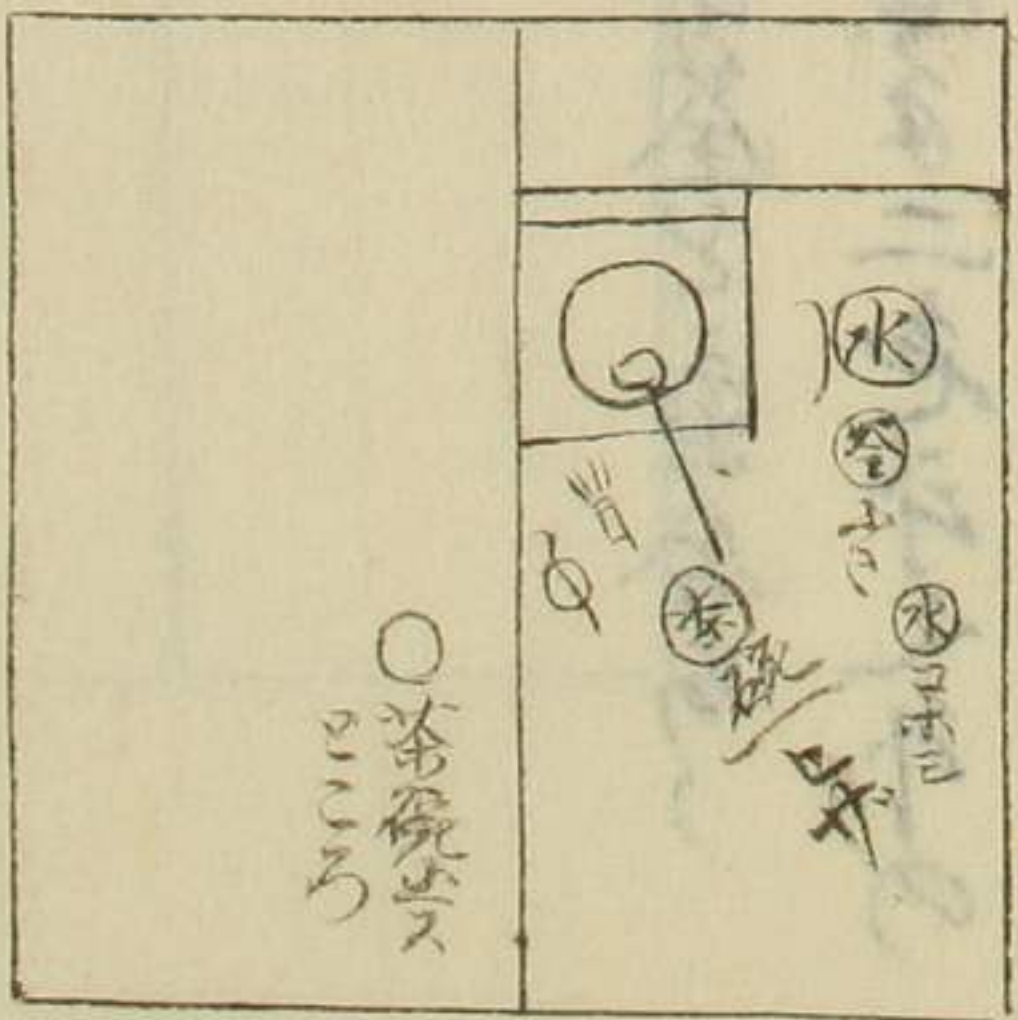
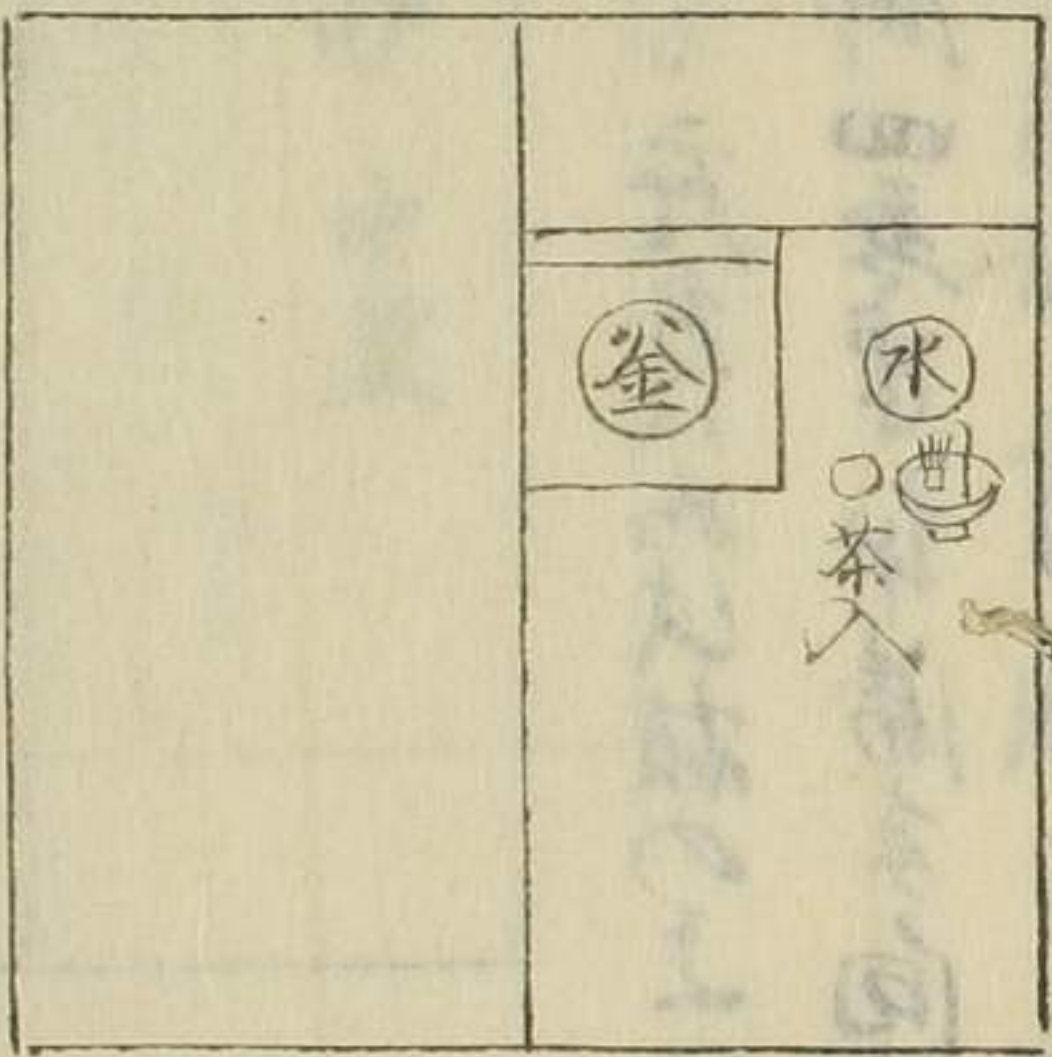


左利こ

田舎の茶流飾



向切運茶前流飾



始終柄杓の夕三(石)ナリ

釜水
次片

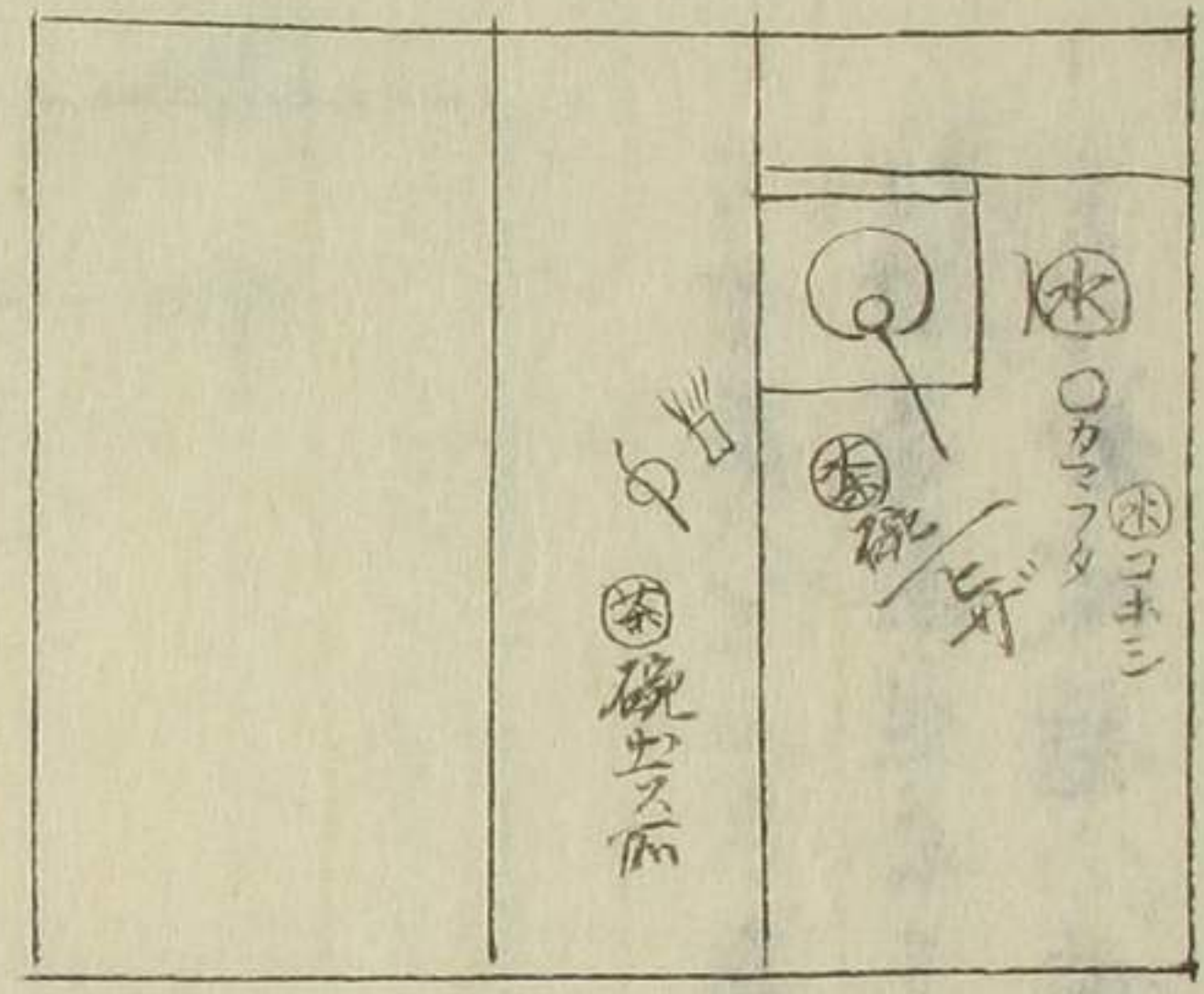
フタ三(木)三(竹)
あま茶三(茶)三(茶)
水指ノ前(三)
コホミナ柄杓ノ

うす茶(木)をふき取るの要りなきの所へ(三)並付茶扱(木)の
りけ茶釜並合せまより柄杓と取(木)を扱(木)ふ
並(木)が水指の前へ(三)並合(木)のふ(木)らる(木)

○水(木)三(木)三(木)并(木)用(木)三(木)扱
得(木)ト(木)三(木)ナリ
○中板(木)ナキ(木)田(木)面(木)三(木)并(木)前(木)ニ

○茶碗(木)出(木)ス
コ(木)コ(木)ろ(木)

中板有る茶室有る

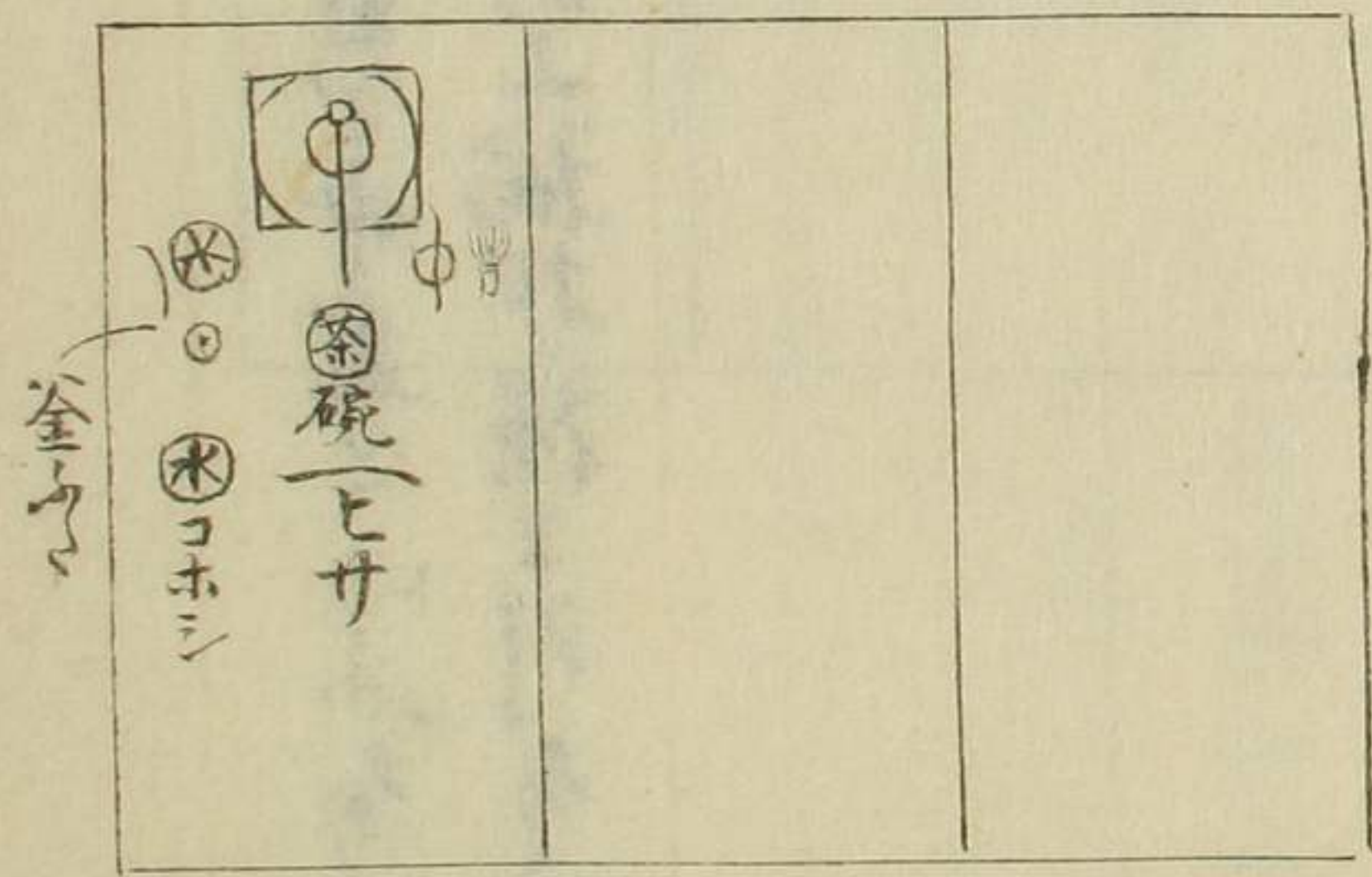
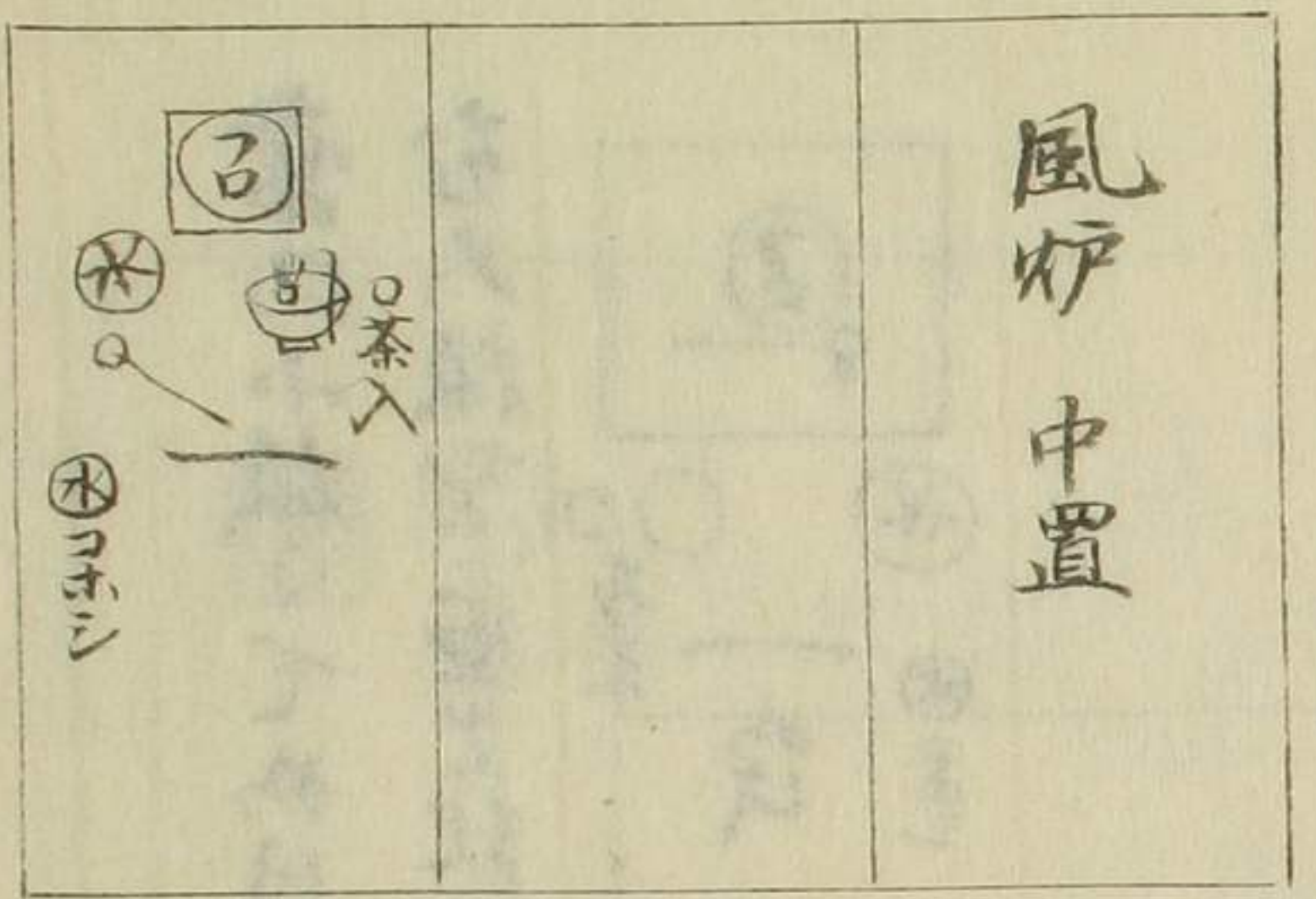


右水指の茶室有る
 一方へ水指を置く
 茶室有る

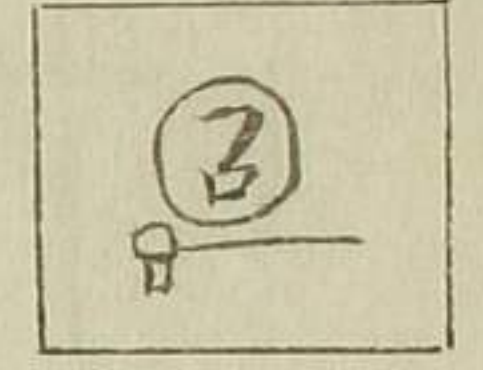
二重中板有る座敷は板の上へ茶壺を並合あり
 右流一掃四畳半茶席を向物の運膳を二色斗之内の
 茶壺ありを茶室とす

風炉
 略
 風炉茶前
 茶席を並合いつまもあり
 茶壺

風炉 中置

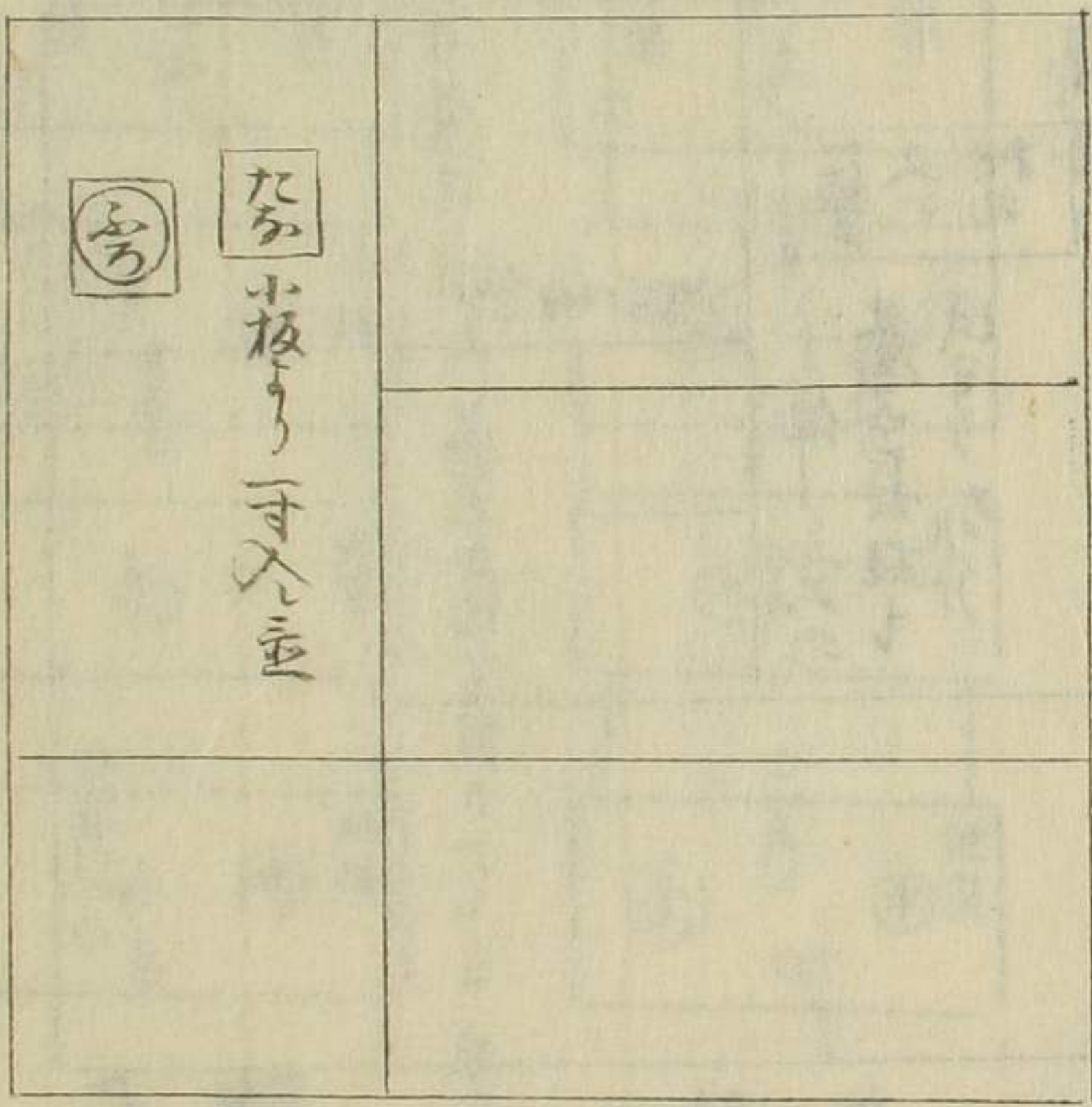


常の小板にてめは中へ並と中置とありあり
 を大板と並と並の大板の上へ柄杓横よりあり



○
 ○
 水
 一
 木
 三

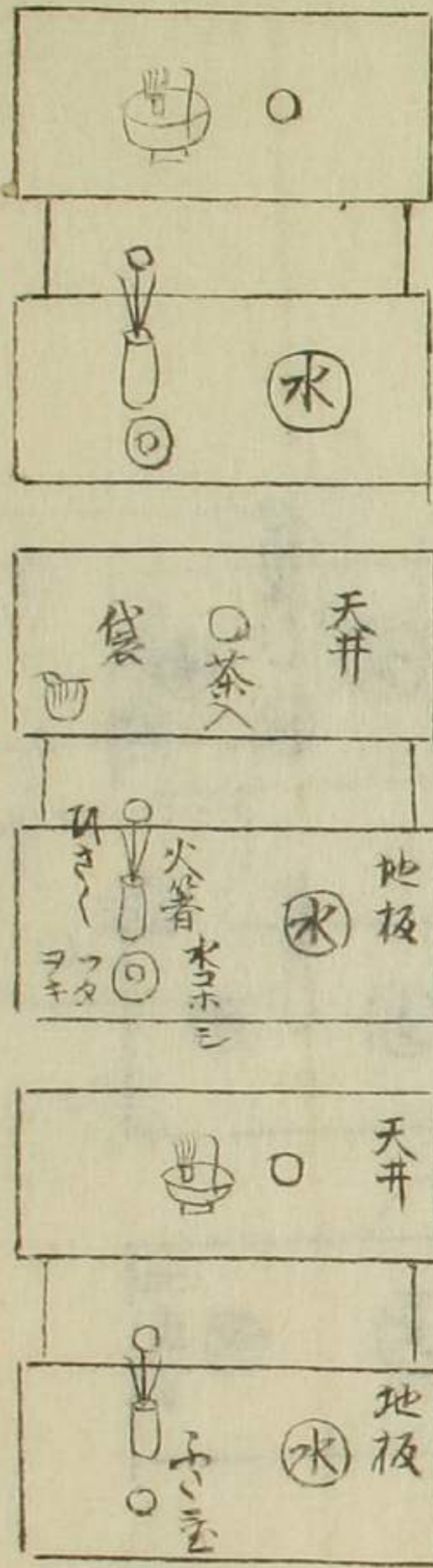
凡疋棚置合せ寸法



大板小板より寸入並

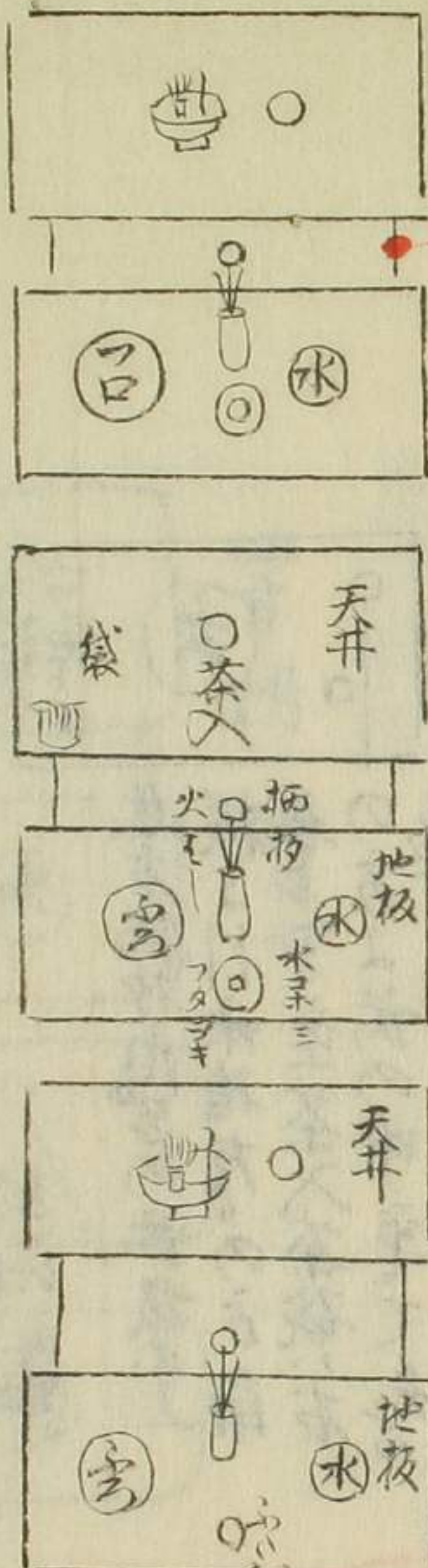


右に述べた熱湯時帛ヲ右に注ぎ流す事ありしは、好風好トモは、時付トモ高ナベリ、又上葉入斗下ツタ重斗ニもすべし、是ノ是也、○是カ平年流シ之略飾ト不白云又○カク飾トモ大略下



存臺子 炉ハ其臺子七板モ大目カマイニテ急ルナリ

炉長板ハ其臺子此下此切さり同



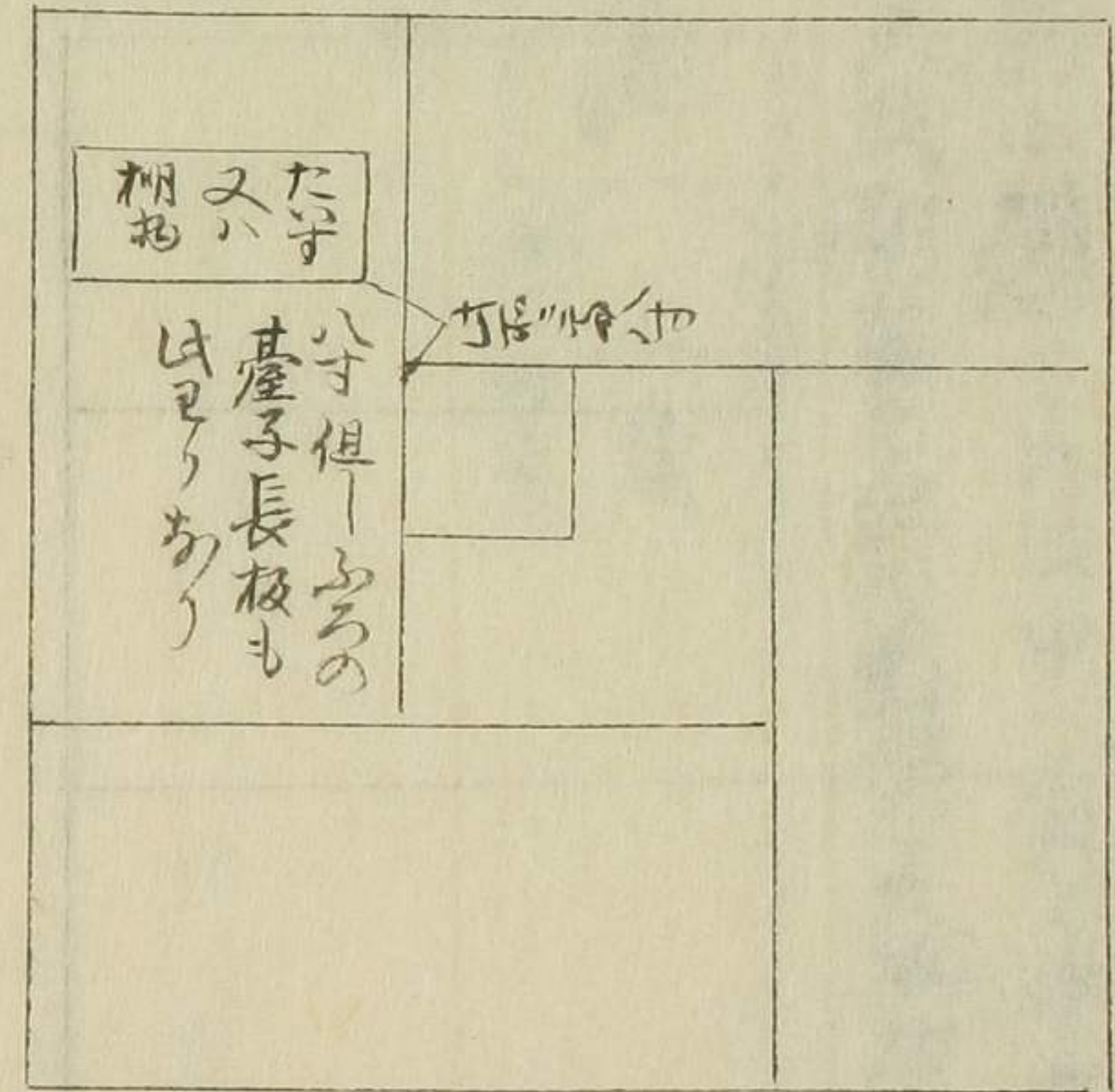
臺子

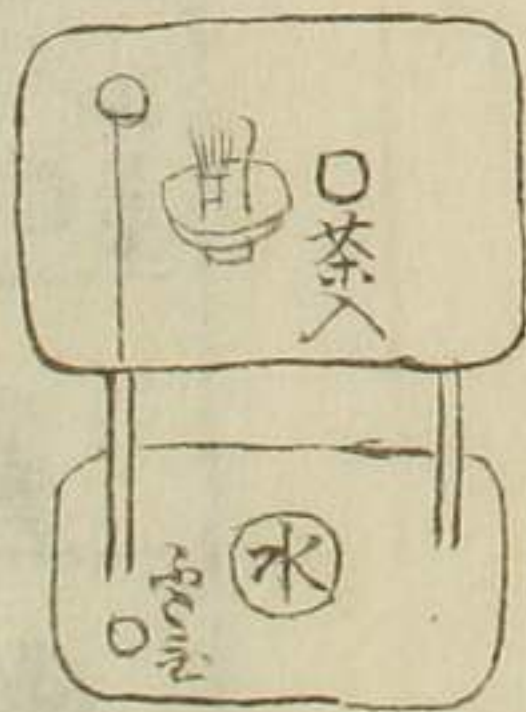
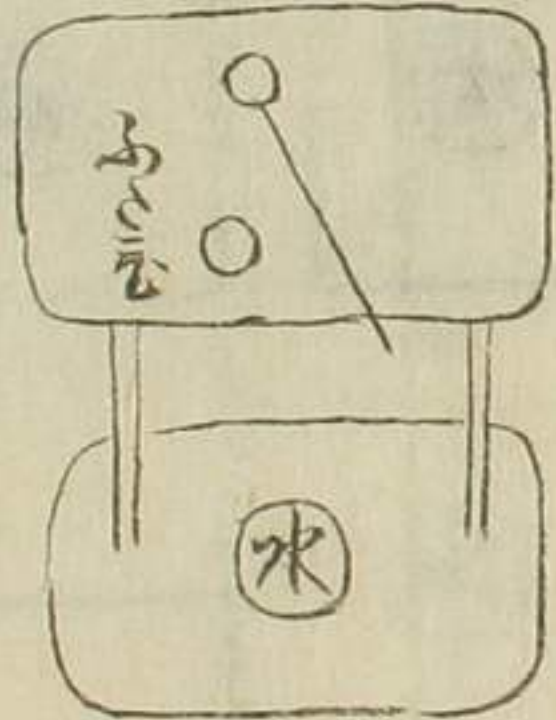
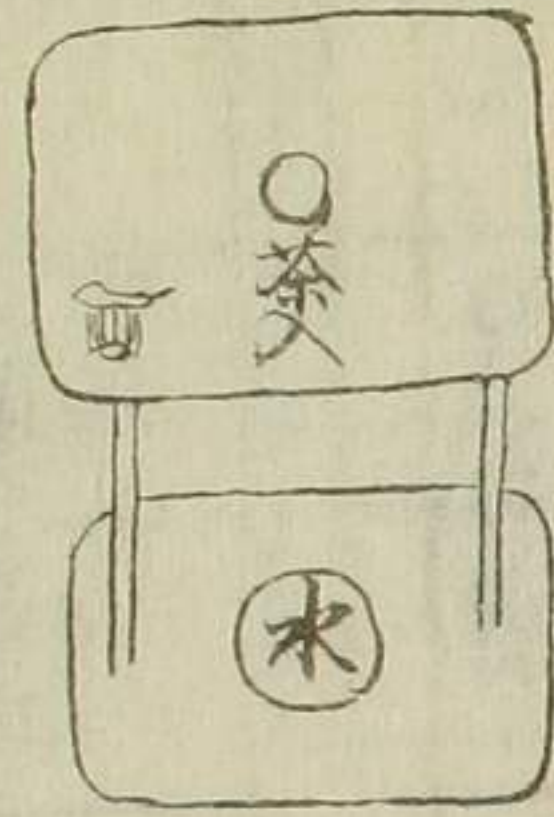
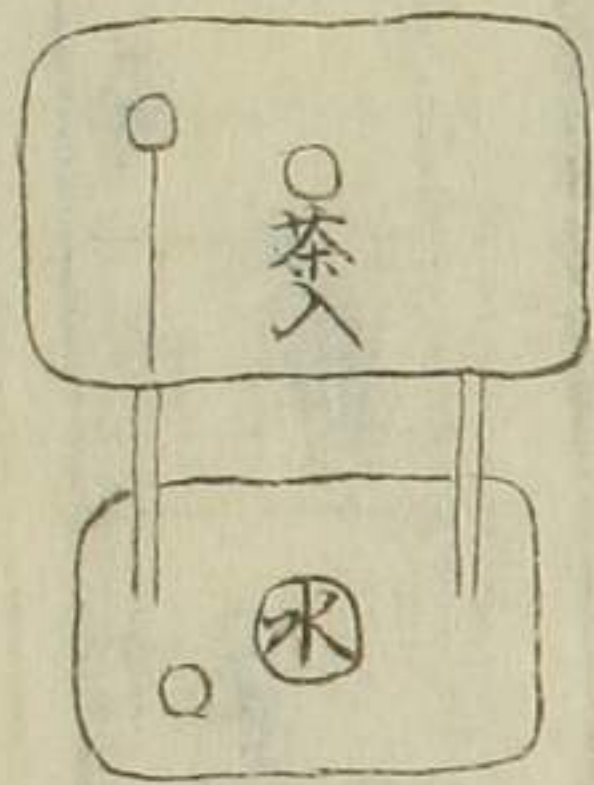
臺子相類置合せ

其臺子飾炉凡品とも、何臺子よても、如けあり

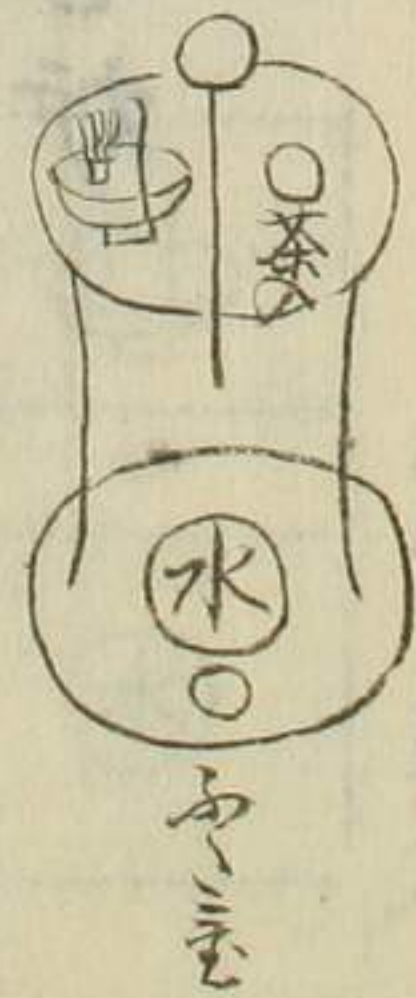
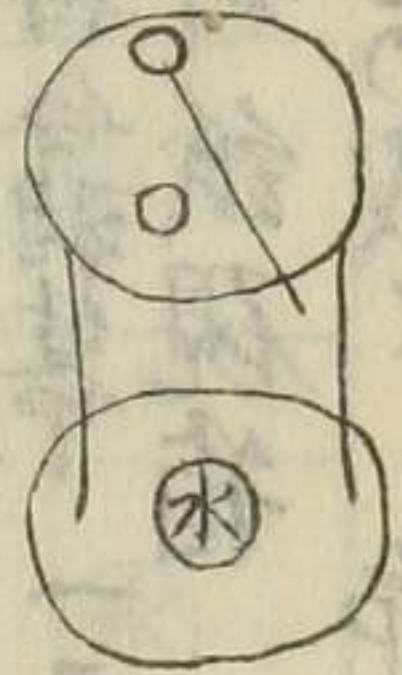
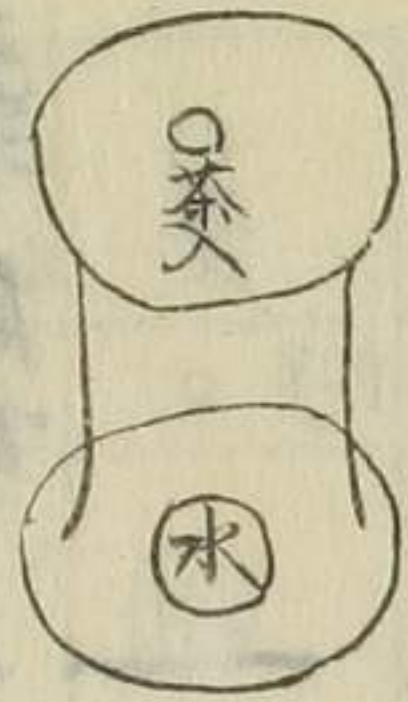
此の如き、此の如き、此の如き、此の如き、此の如き

炉棚置合寸法





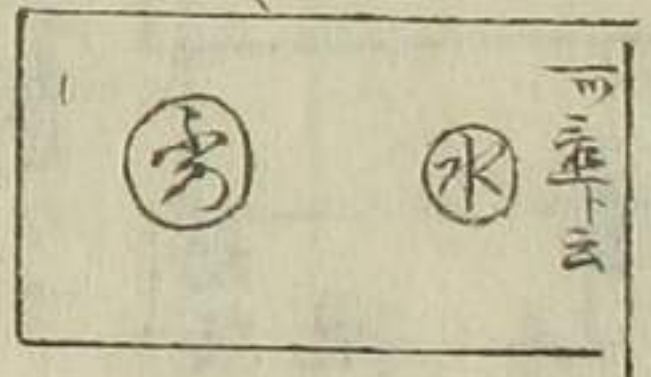
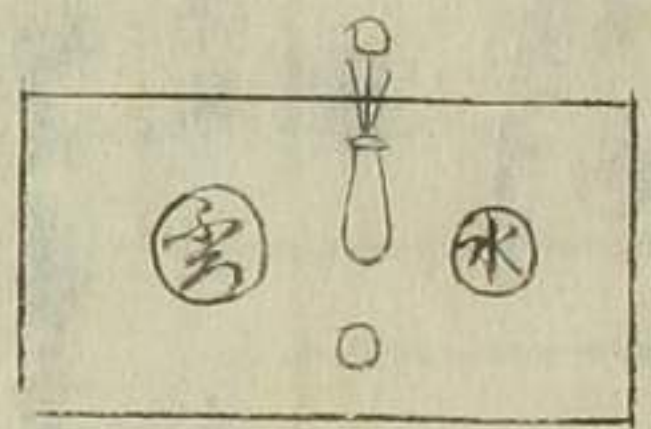
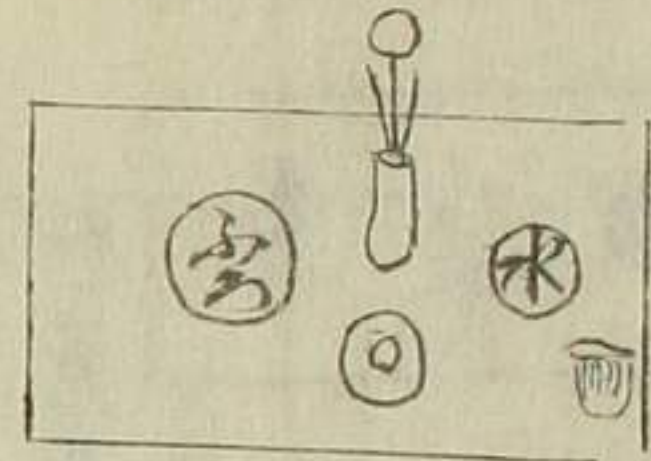
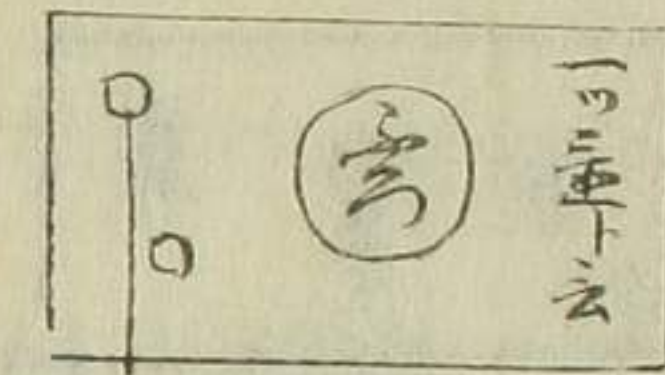
四方相 利休好



丸卓 利休好

は息方のものこひは前同前と息
魚一息仕廻ればおろし垂れたる中
も阿

物はたてたての阿とて
のこするもあ



は息方の阿とて
こひは前同前

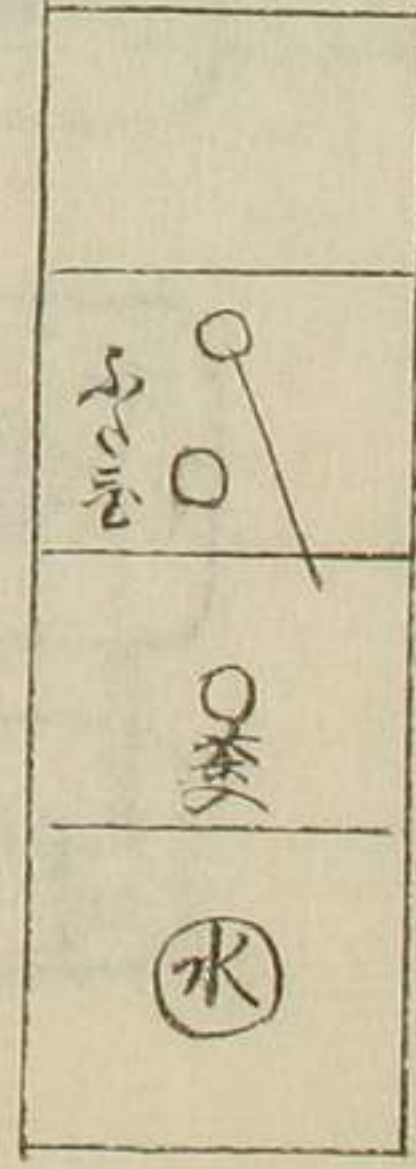
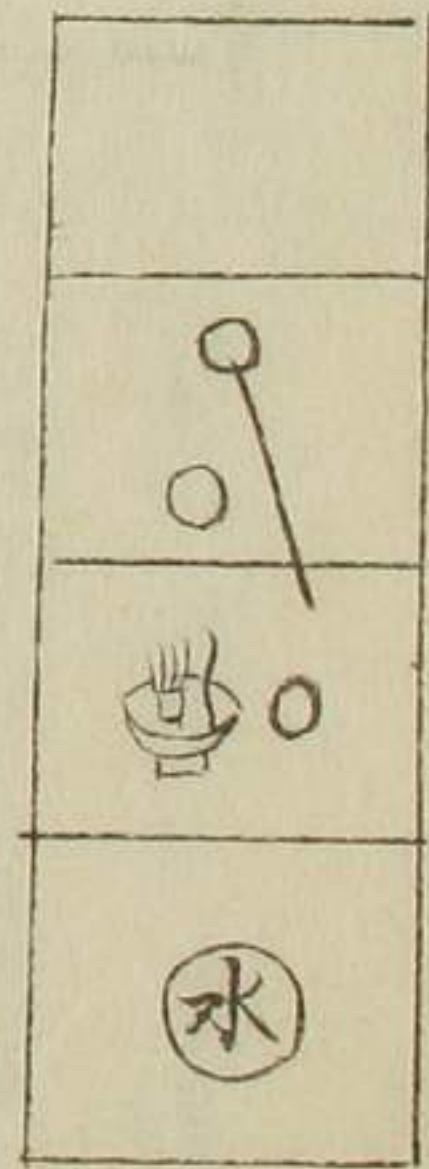
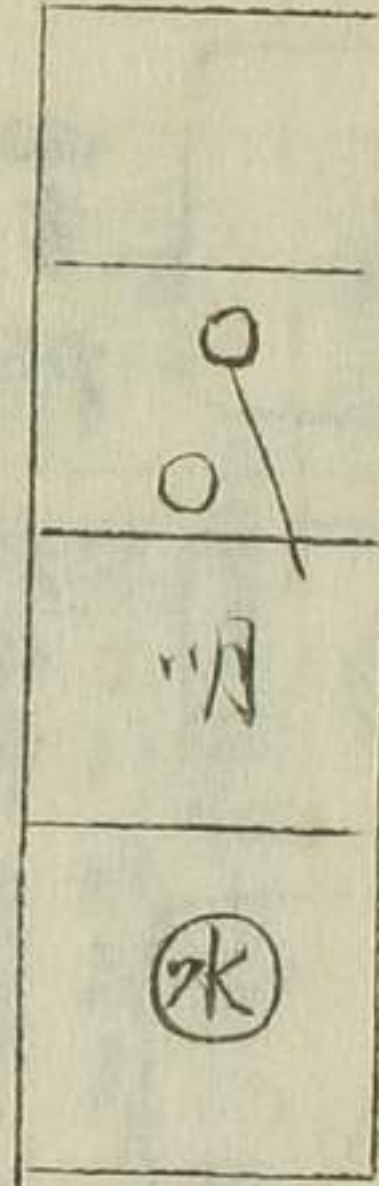
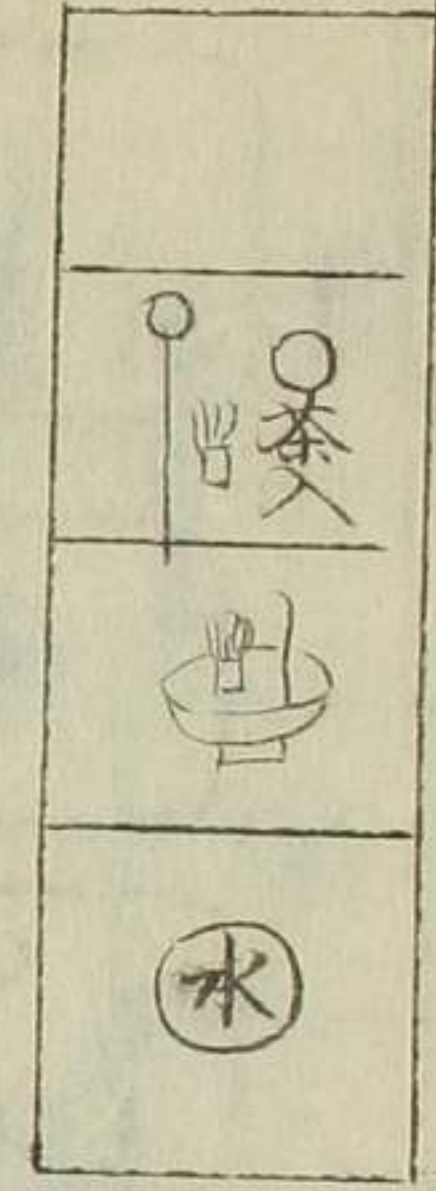
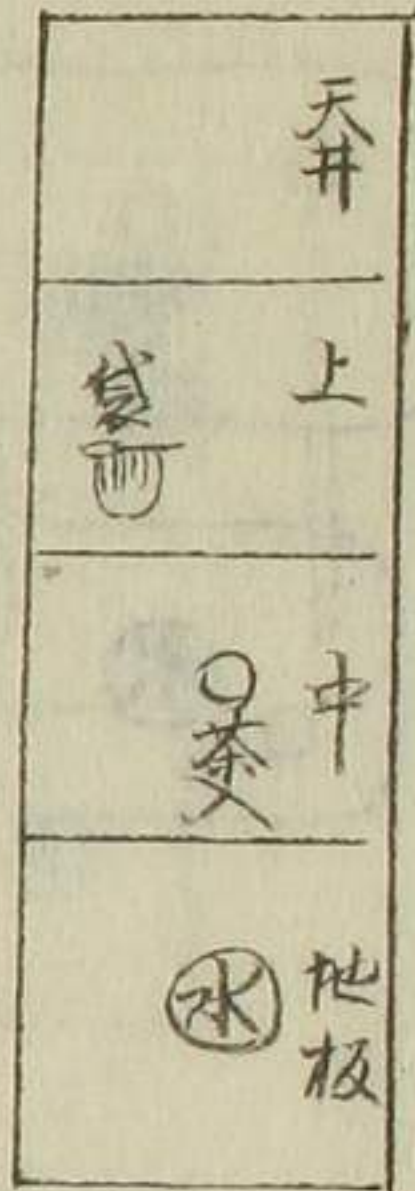
息方柄抄内呂の前板の上
横に引水指左の方角
垂て上は垂茶入茶碗の右
の方より前の中垂て先
魚一



茶入
茶碗
△茶碗俵云

お茶を茶入より息方へお茶を但し板より通く

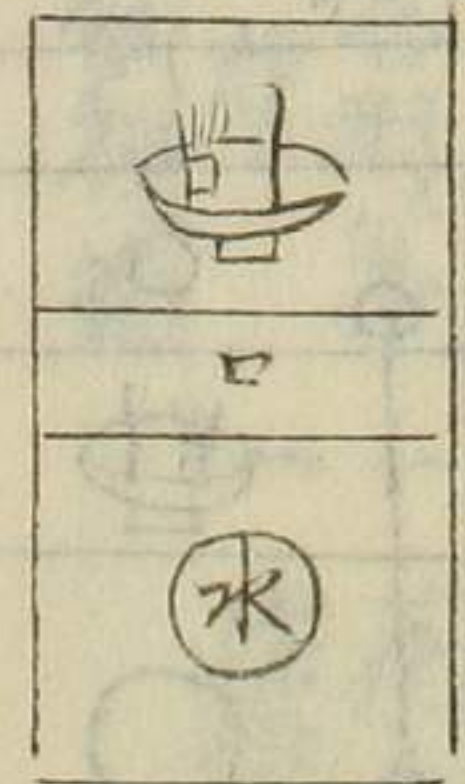
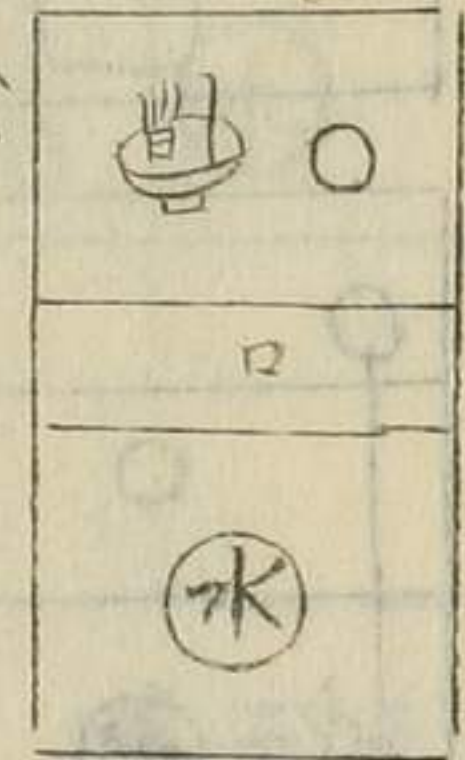
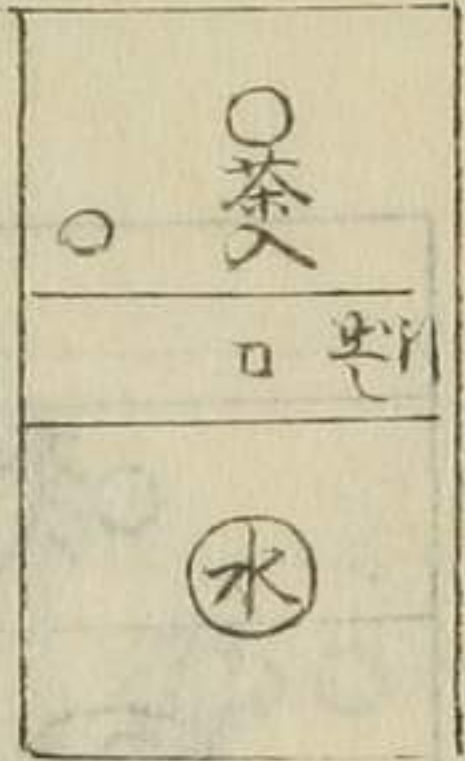
三重棚



天井飾

- 一炭取
- 一花入
- 一香合羽箒
- 一香炉
- 一待紙硯箱
- 右何成とも飾

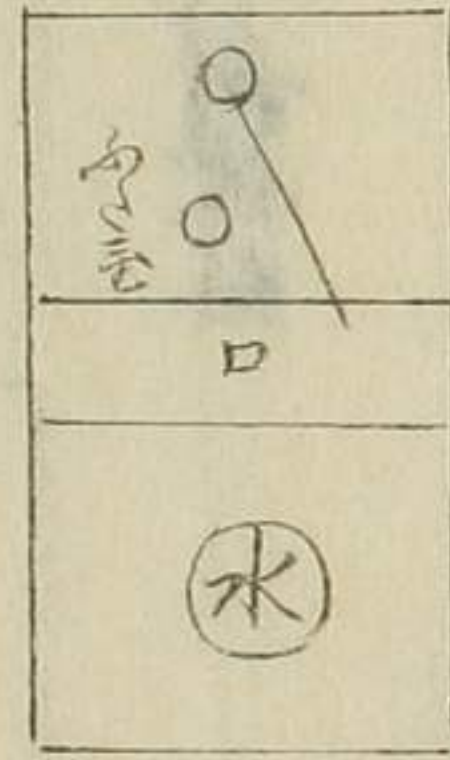
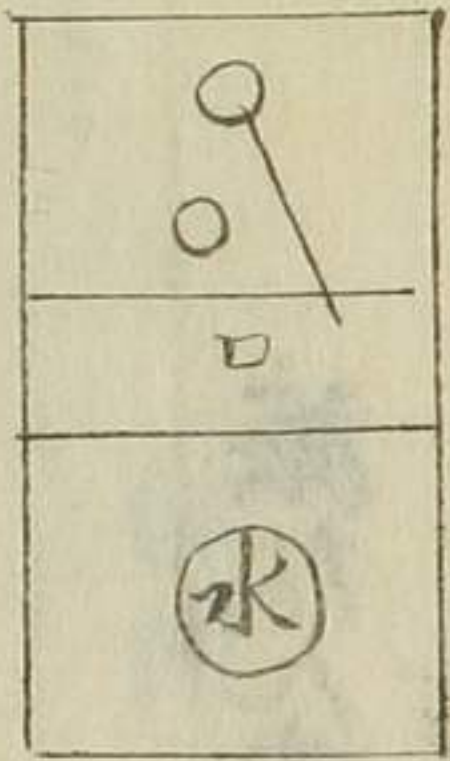
江岑棚



竹引茶入の平の地板

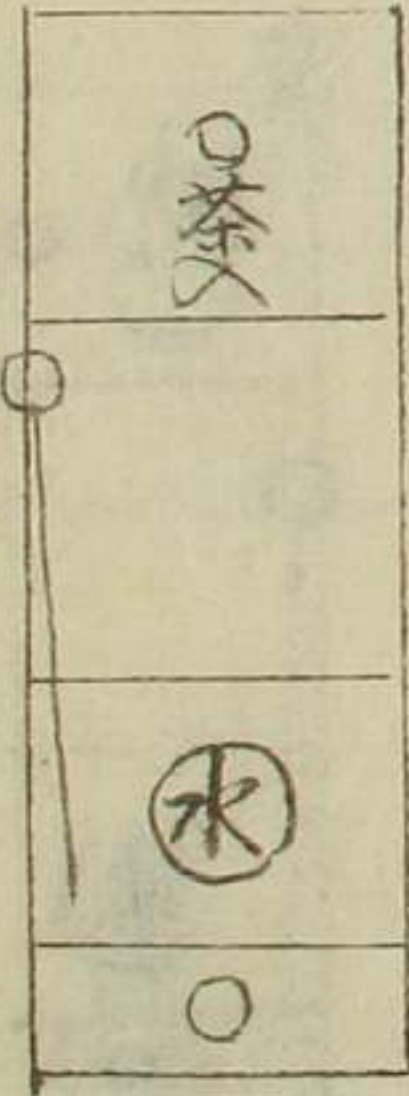
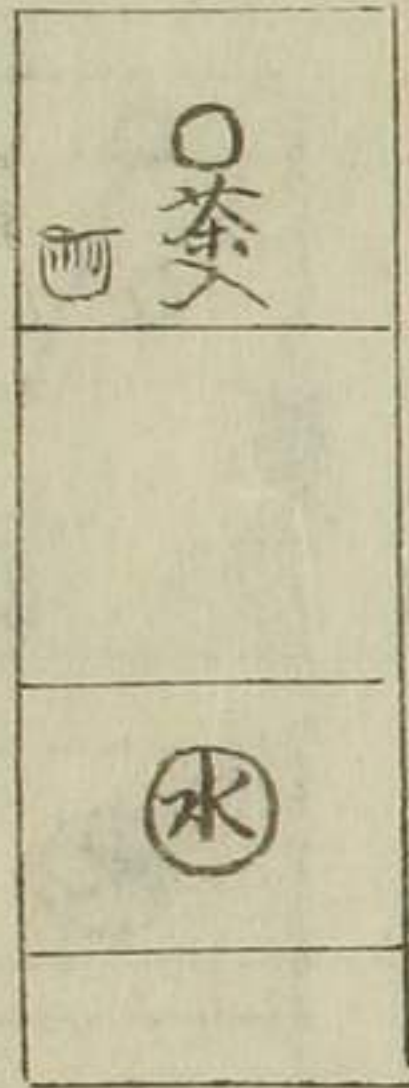
引出の内茶入

引出の内茶入

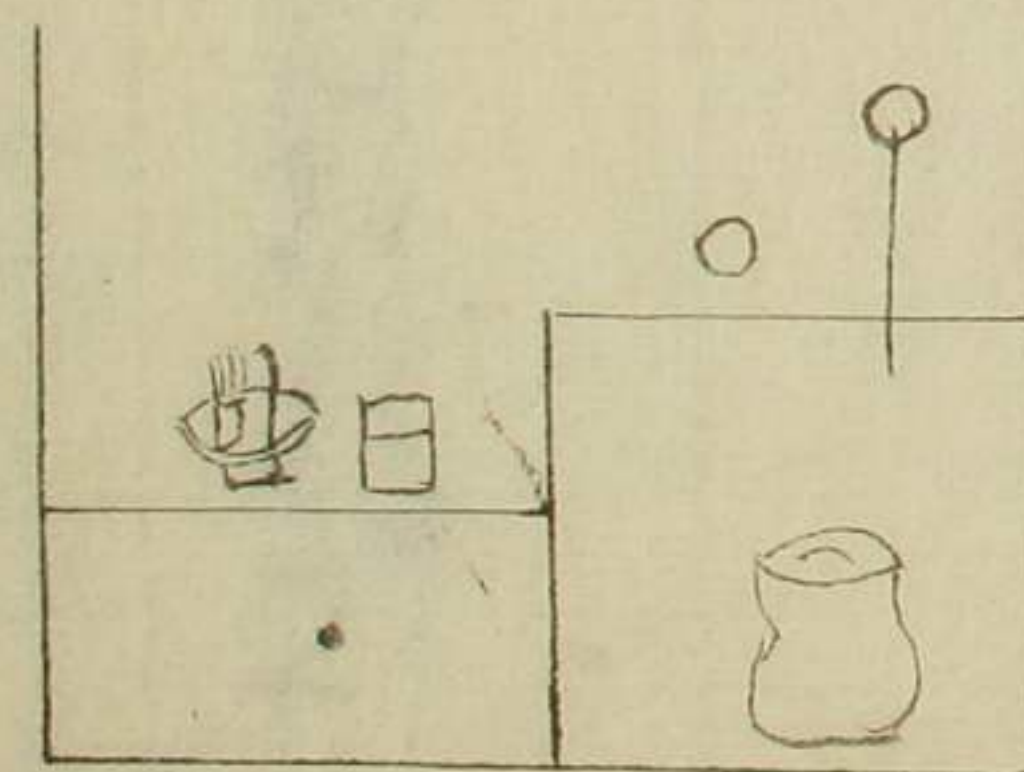
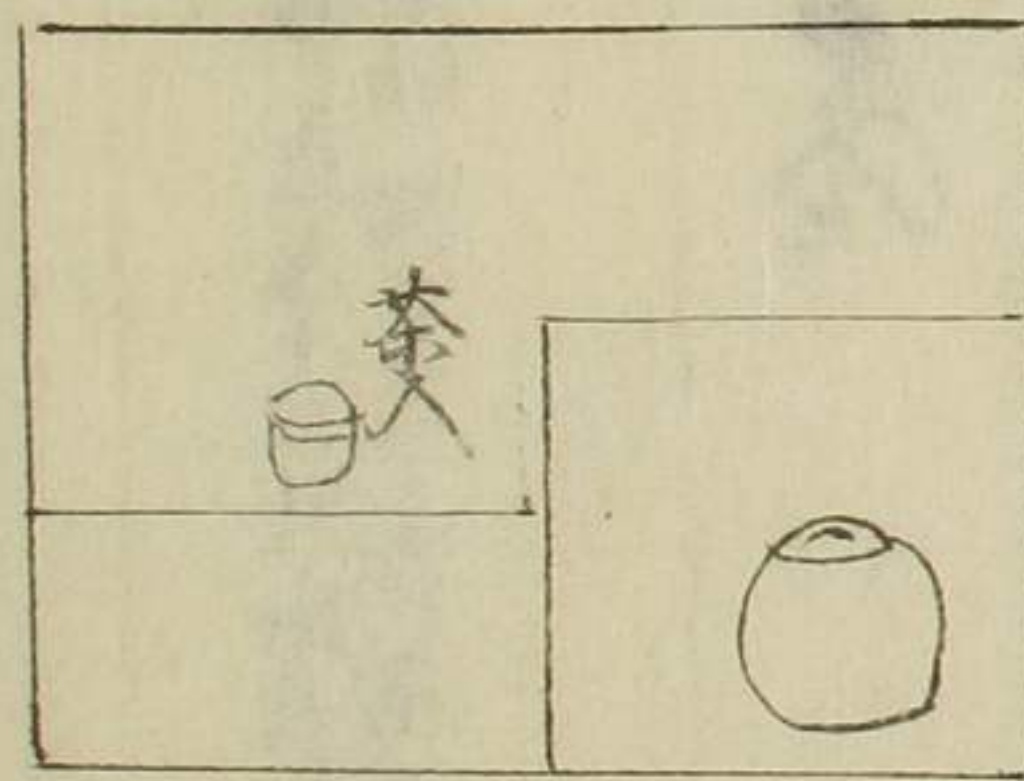
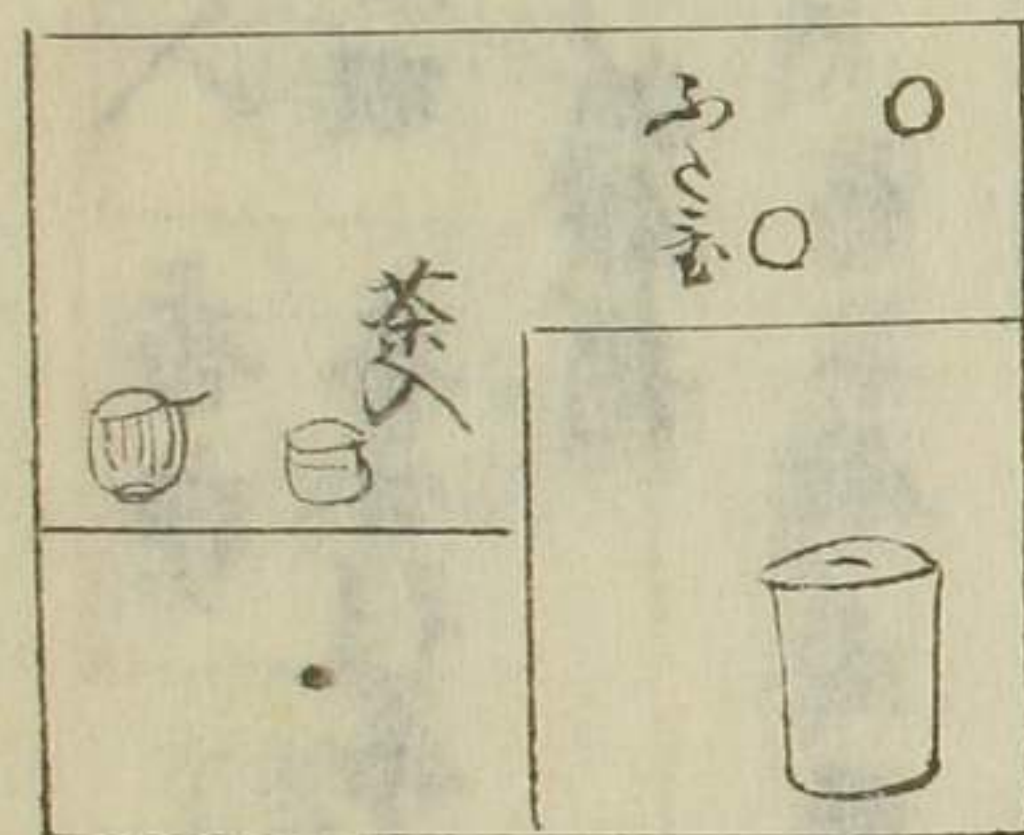
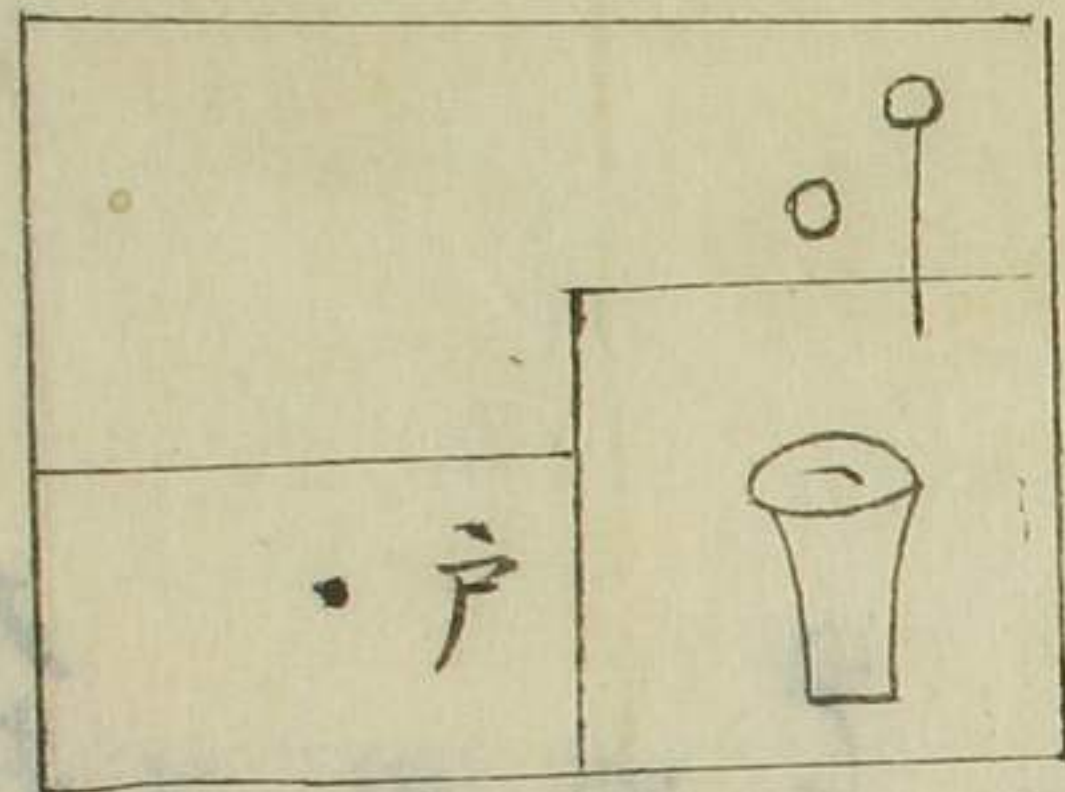


来の小卓

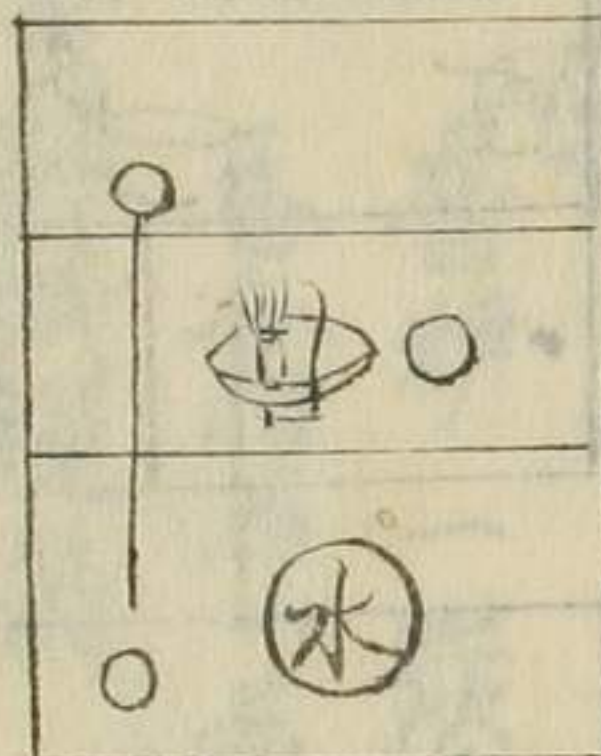
仙叟宗室好



フタ玉



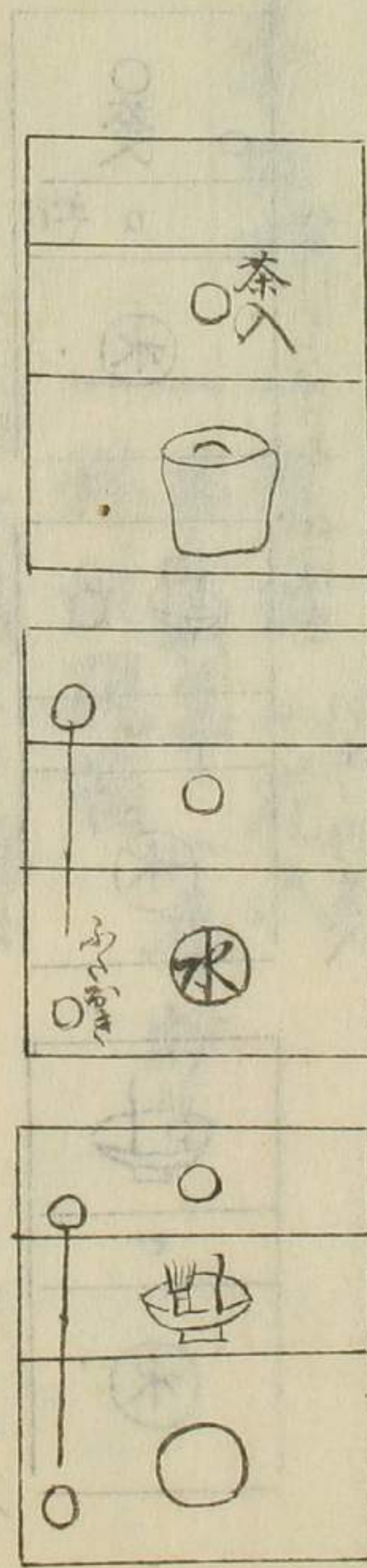
俗相
利休好



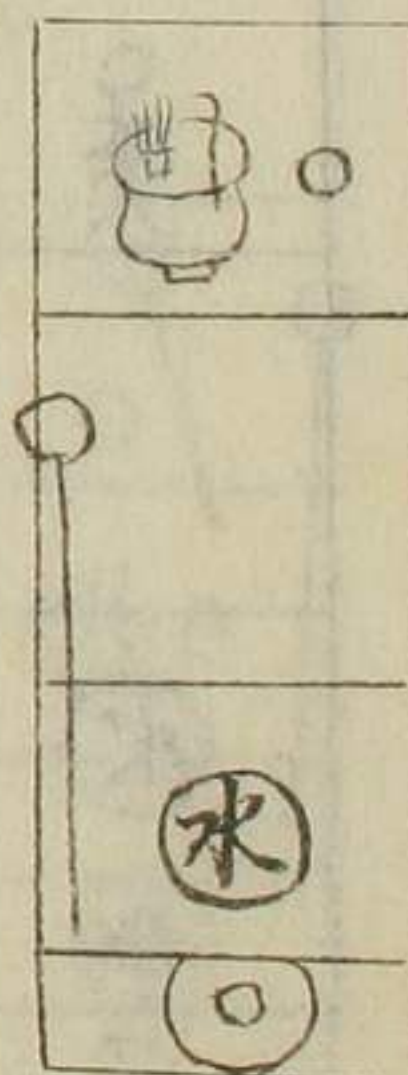
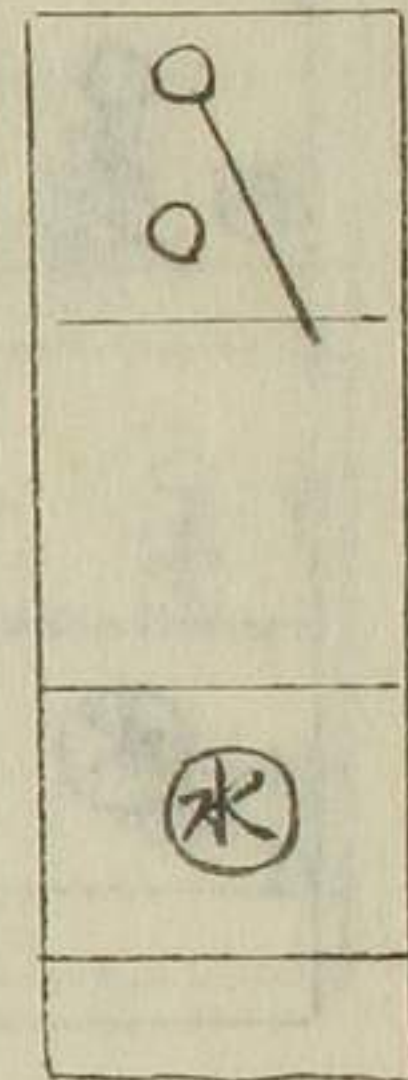
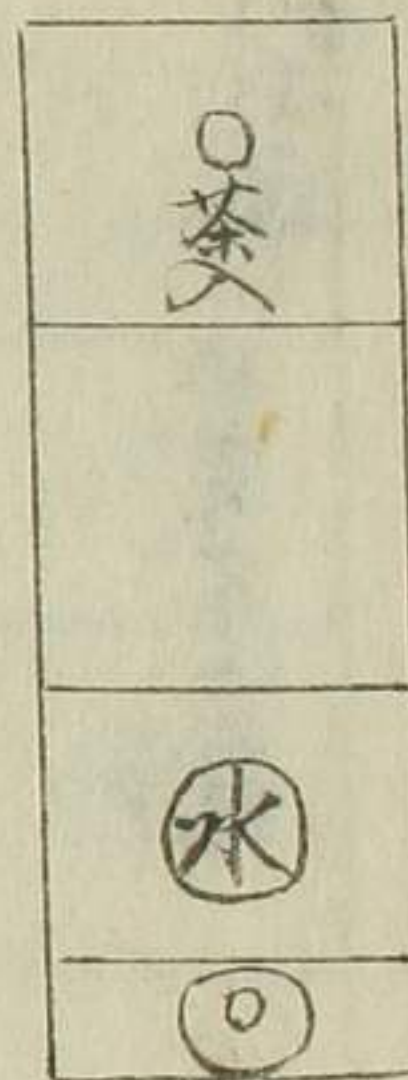
天井
一番合羽帯
一番香炉
一番紙硯箱
一番炭
一番花入



翠琳



旅人寸
利休好



去床
ふたつき

天井

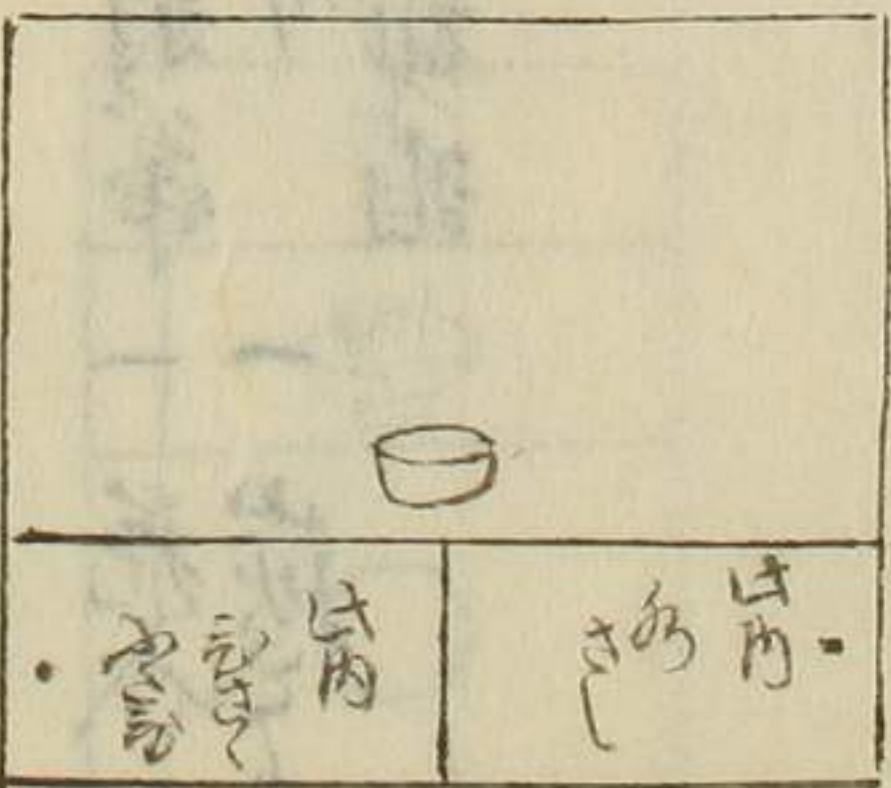
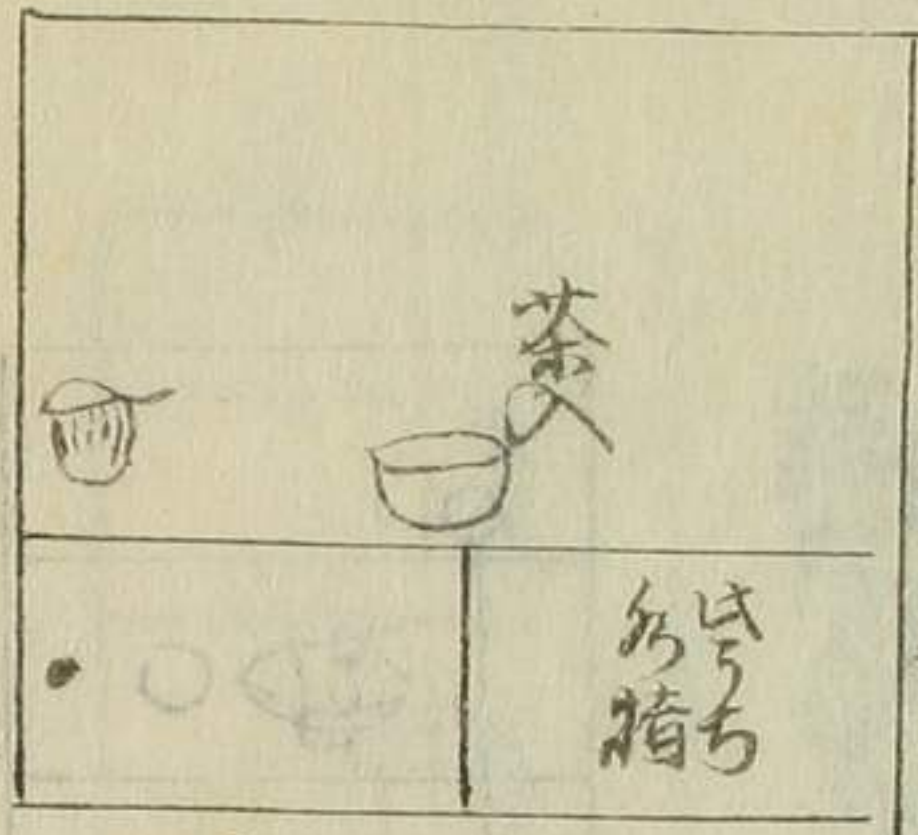
花入 香炉

炭取 香合羽箒

料紙硯箱

戸の内 替茶碗 式替巻入

銀障相



天井

一 香炉 一 炭斗

一 香合羽箒 一 花入

一 料紙硯箱

○ 柄杓茶棚ノ中ニアル片ニ先ヲ多キ者ニ相ノ
 キヨクニ並柄杓ヨリカケ水指ヨシニ在ル者ヲ並付ル
 ○ 且座ノ底ニ先水指ヲ止メテヨリ流茶ノ
 主付ル
 ○ 水指ノフタ右ノ左ニ取たり右ニ茶棚ノ
 蓋ヨリ但一寸程出シテコロノ又仕立水次
 茶權指止水指ノ内ヨリ次水指ノ水次
 向トル但フタ表ヲ向フ内ヨリ右ニ取ル

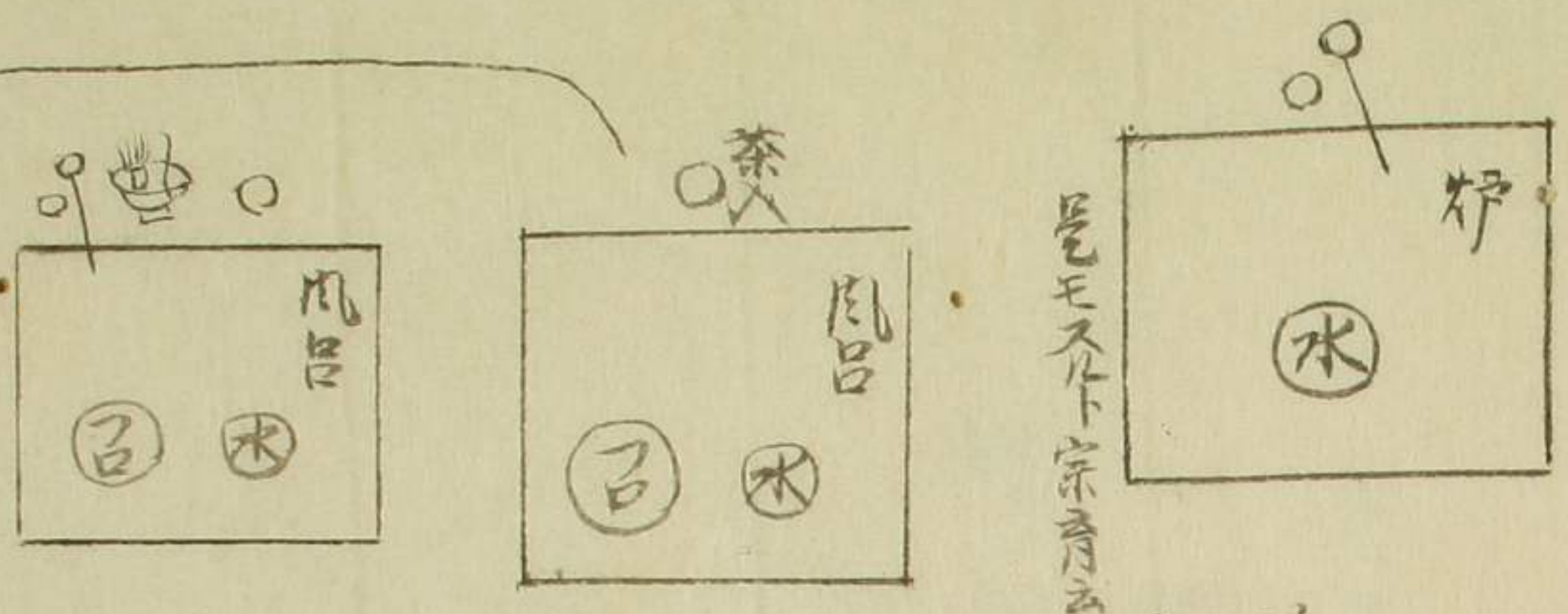
一 高麗屏風 四方相同前あり

教書屋

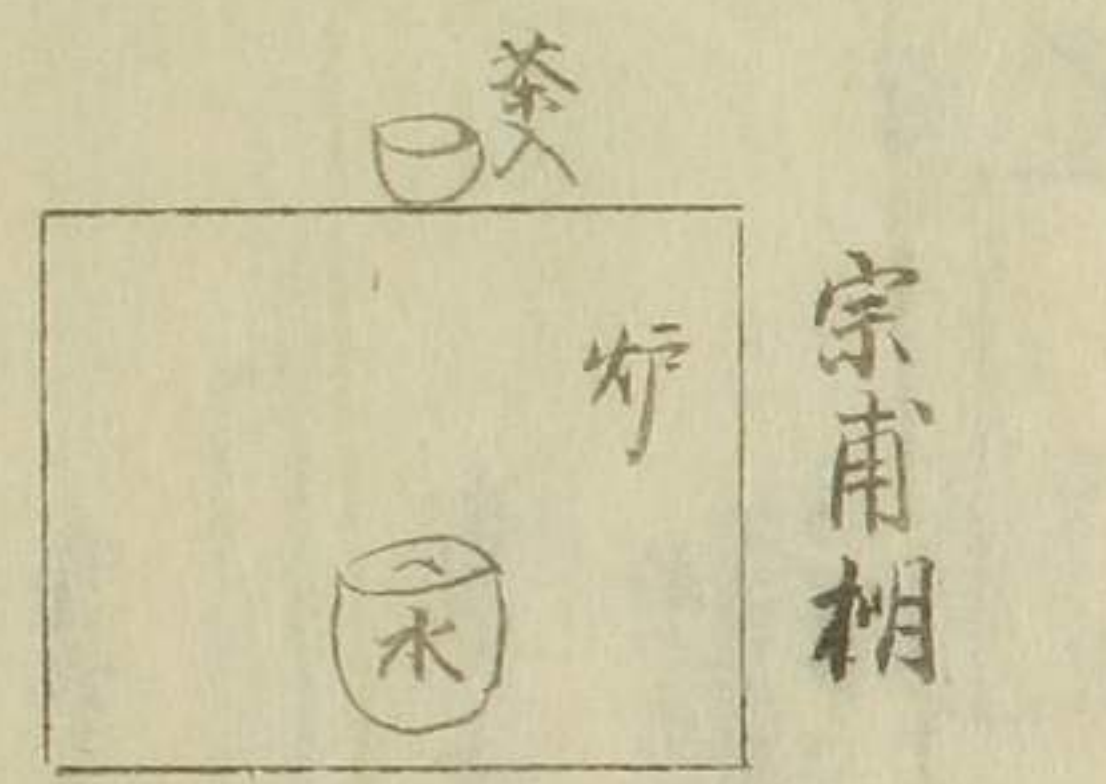


上六香炉飾りも有茶入の上ニ並ぶも何
 是六飾立平中ハ只水指ノ上ニ並ぶも同前
 有

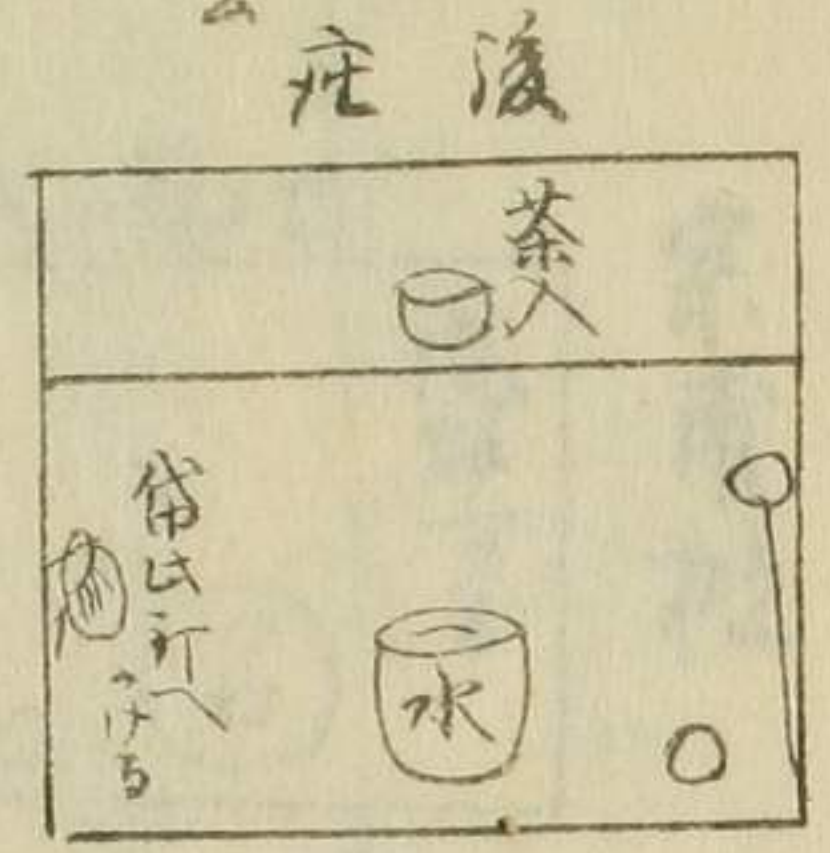
は二ツノ櫛ノスルト宗甫云



是モスルト宗甫云

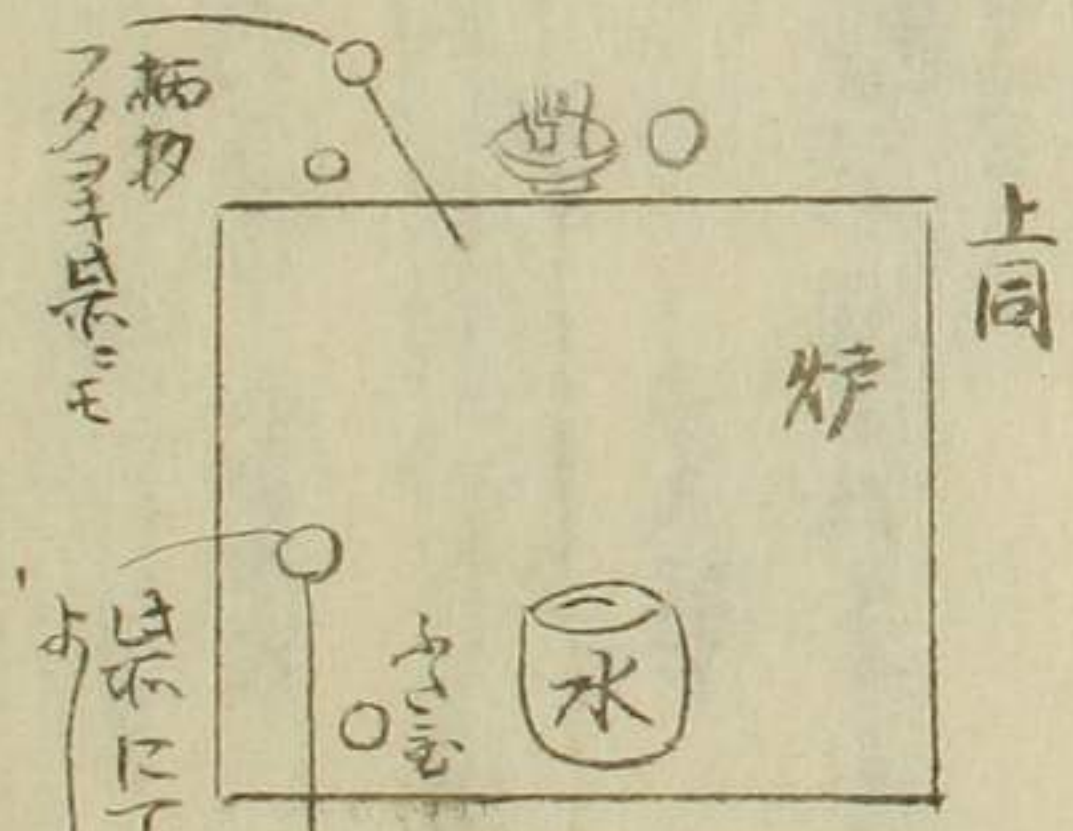


宗甫相

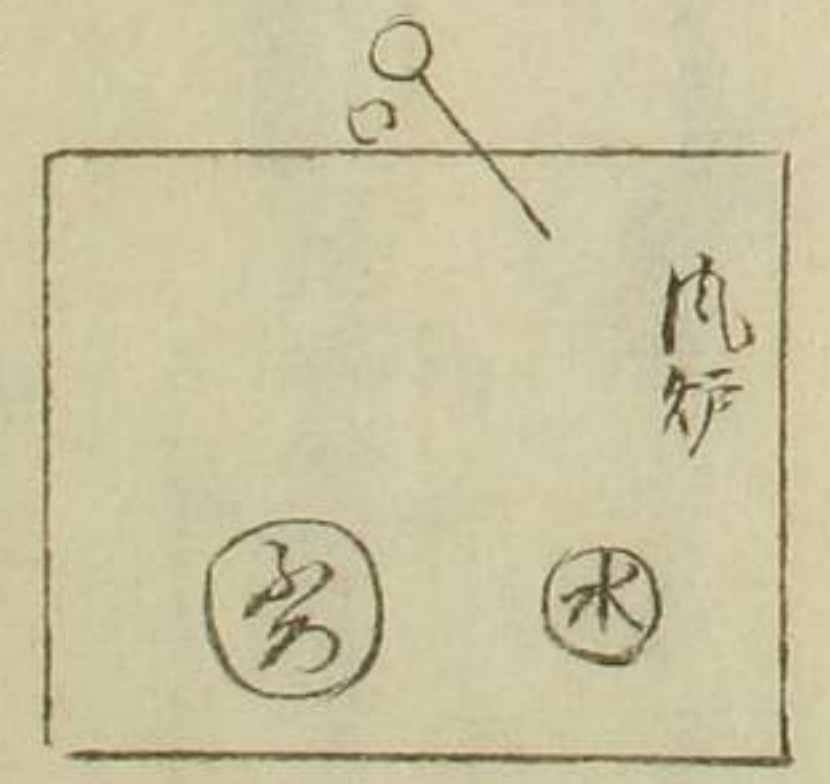
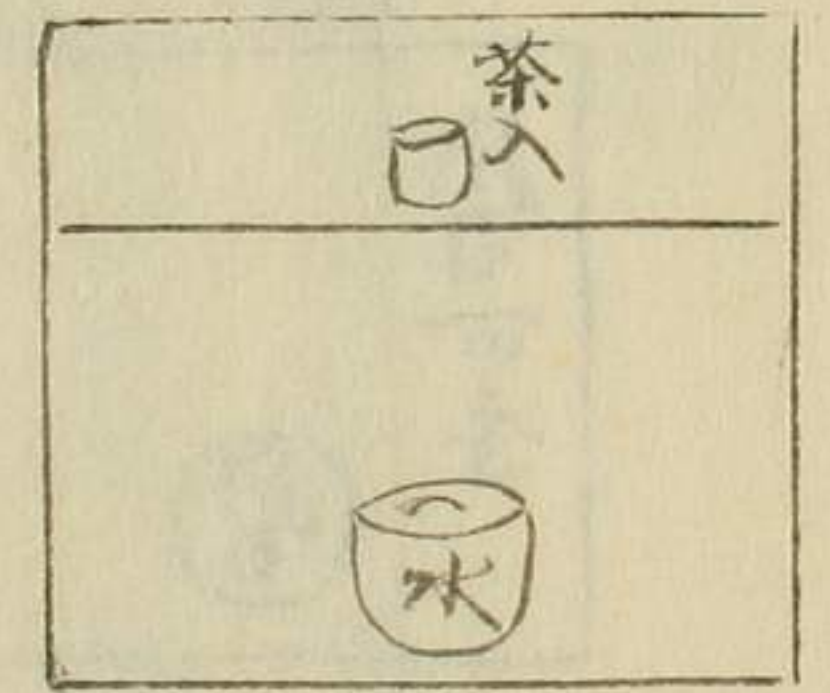


症後

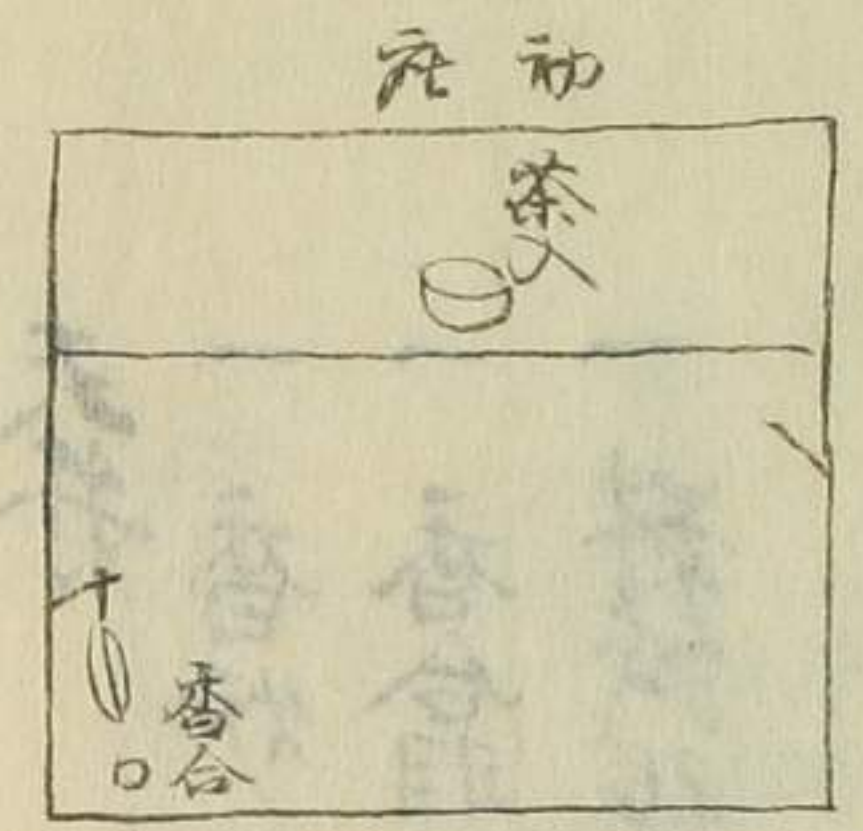
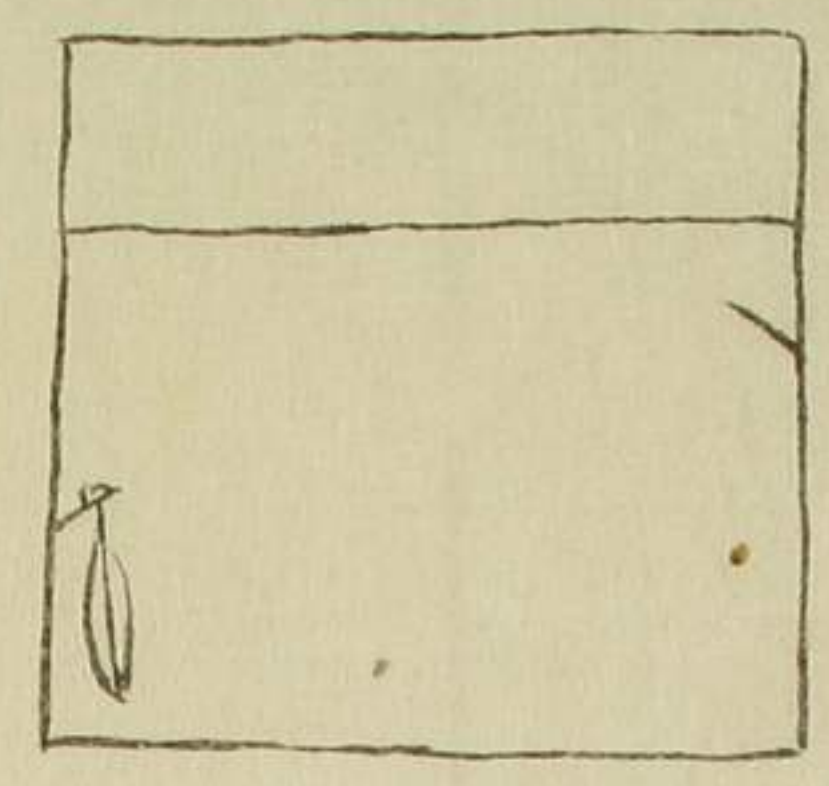
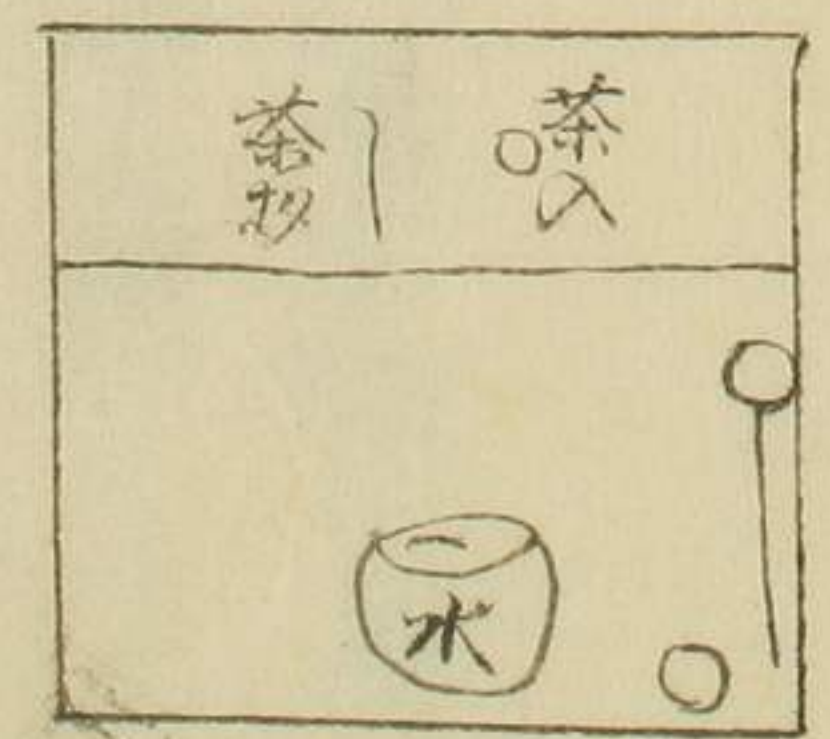
宗甫相ノ片屋西四角ニ茶ノ炭ノ相大ニ成ルニ炭ノ片ハ
 谷ノ脇ニカバノ方ニ下ル基子長板ノ炭ノ通リニ宗甫



上同



凡炉



症初

道幸



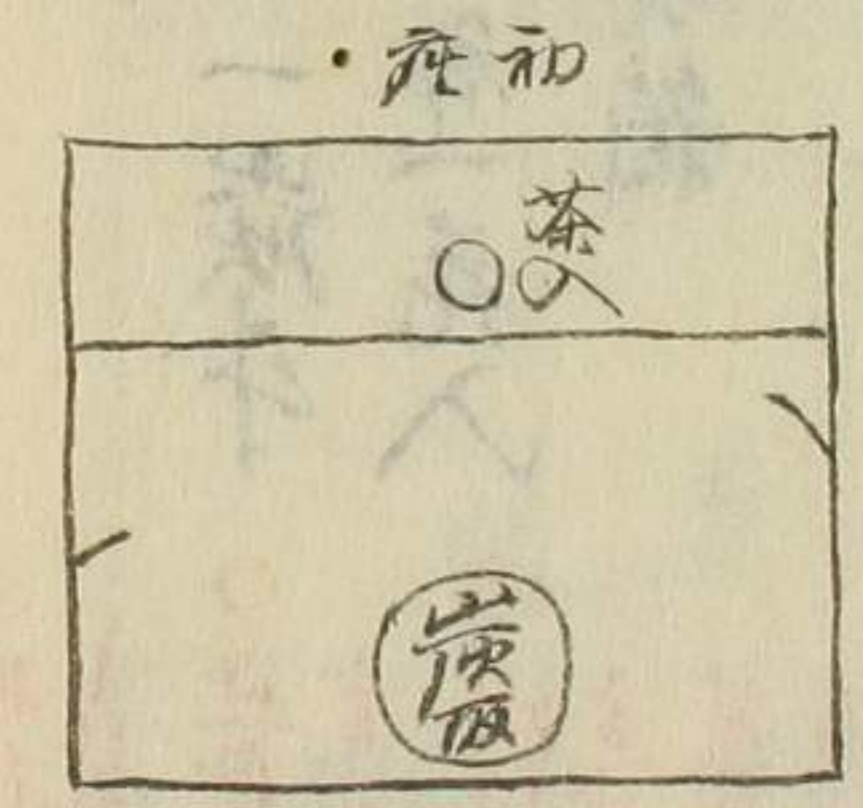
初症

一至為相

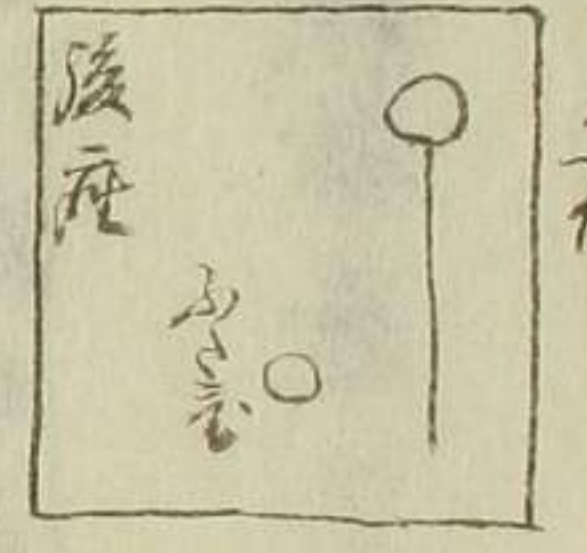


之付

初症

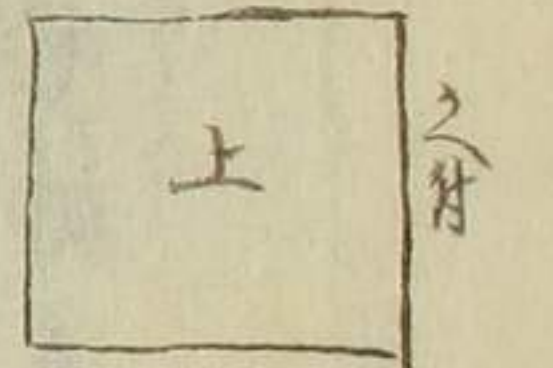


症初

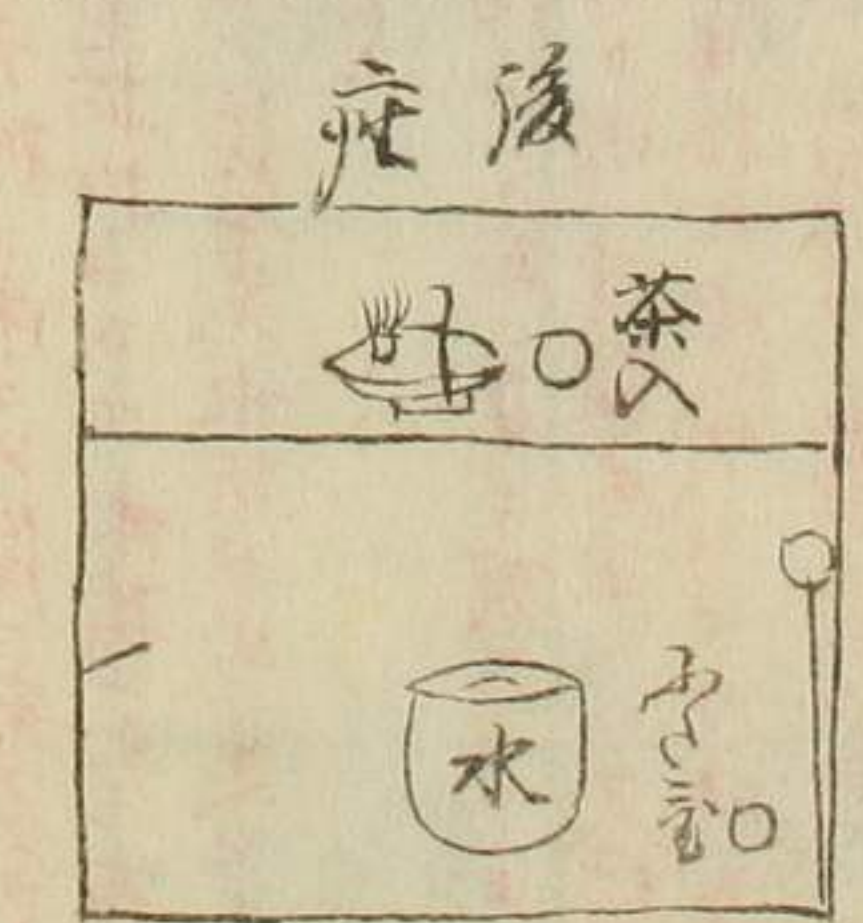


後症

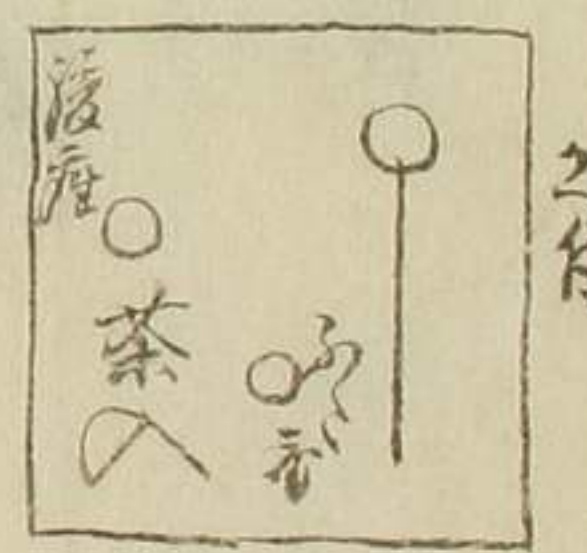
之付



之付

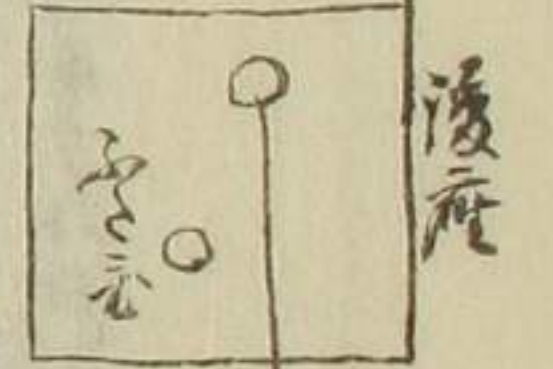


症後



後症

之付

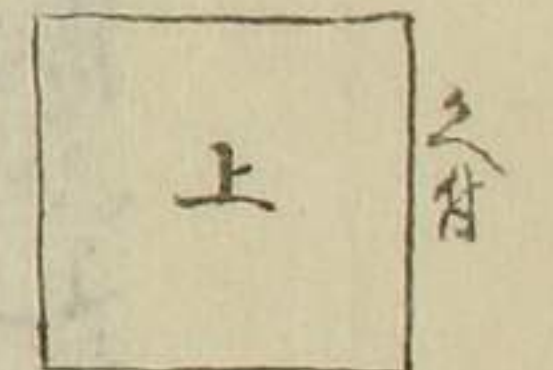


之付

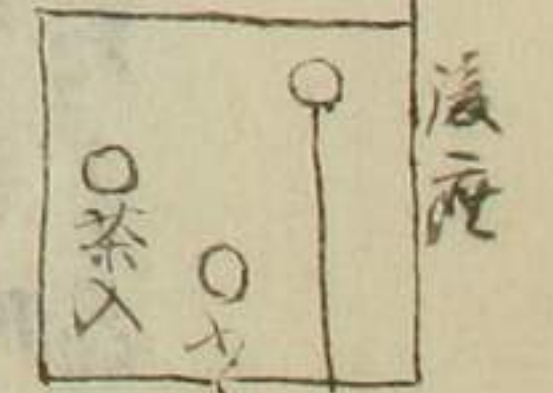


初症

之付



之付



之付

後症

一 肉炸の茶湯仕立の茶書に習ふなり 煎茶を
 酒合す——窓もこの茶湯にすゝめ半を
 ともし——煎茶も書通し 客入初メあひさう
 茶と肉旨とあはす後合席と出すあひさう
 すんま 膳と出すあり 後膳と行 膳と
 後——菓子出す也

一 肉旨胡の茶湯の通し 初メて炭とし 膳
 と出すあり 丸炭の付合へ水と攻めあり

以上

炭切形 炸

一 圓炭 一寸 一回の炭 一きりちあす 或すあり

丸炭より炭くさ炭 一輪炭 或すあり

一 四方炭 圓炭のふとまの炭を本台のすゝ合切るあり

同 丸炭炭

一 圓炭 一寸 一回の炭 一きりちあす 或す

丸炭より炭くさ炭 一輪炭 或すあり 四方炭仕立

以上

煎茶

嘉永二酉年

不羨茶之湯會席附嗎

四月下旬

石丸氏

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

延享三年 宣三月
同日 正月九日
在東京會付

延享二年

...

三月八日^{唐僖}笠菴和為記

花月先生

一掛物其真院學如素不傳心只要當人悟

不美次
塲內深亦靜
松尾字子又

一釜 車油

一茶碗 云云

一名合 黑檀彫物

一茶入 瓶戶

一花入 如心
尺八沼秋風
松

一茶抄 利休

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

旦
揚敷
あきり
あきり
あきり
あきり
あきり
あきり

汁
あきり
あきり
あきり

巻
巻の
竹の子
あきり
あきり

平
あきり
あきり
あきり
あきり

後
あきり
あきり

一
揚物
諸外
あきり
あきり
あきり
あきり
あきり
あきり

文庫
あきり
あきり
あきり

あきり
あきり
あきり
あきり
あきり
あきり
あきり
あきり

一掛物 是ヶイ襖 卒翁在袋籠 一系碗 ノコカウ 活キリク

一花入 花仕海道 一系入 信樂 活子とせ

一釜 阿波地堂 一系抄 を別 活子とせ

一水筒 曲物 一多合 道安形

只 かじこ かん

汁 たけとみ

鉢 多の

台 挽

吸 の 松葉

石 骨 びん

く く 解

後
御書院

床
雪舟筆
の程
後

松
竹
物

吸物
小籠

ちり
かき
しめ

少青

少
宣
紙
て
紙

吸物
帳

取
蓋
銅
角
て
ん

同
九
日
本
常
次
西
廊
極
口

不
善
次
十
念
元
良
中
川
岩
所

一 掛物 且注 襖
一 茶碗 二カウ 浴アサイナ

一 茶入 尺^惣秋^作 道
一 茶入 利判 壺 袋^右焼

一 釜 ルイリ
一 茶巾 且 浴^下ト

一 水筒 備前 角
一 盃 右 前 後 田 角

一 川 銅 本^ん 汁^子 見^ん

一 菓子 梳 巾^ん 見^ん

一 平^右 瓶^の 樽^の 焼^て

一 吸物 銅 河^々

一 丸^者 加^す 寸^三

くさくさくさ

信

麻常信字之福

阜
名野
名若火若立

写画し麻常信字之福

竹根其子

物々

素子麵

吸物 山子

小豆 考て研

吸物の汁より

研りて海を

同廿七日 後方神楽言ハ

花月先生

為井 弟 弟

不美次

一 系 祝 字 又 黒

一 撒 向

如 齋 月

一 系 入

同 作 天 川 堀 子

一 系 入

いものこ

一 系 入

五 活 首

一 金

海 徳 字

象 牙

一 系 合 子 母

一 水 活

水 活 水 戸

汁 抄 革

系 交 考 の もの

旦 抄 汁

り

俵 旦 木 唐 子 丸

丸 青 丸 子

は 貝 餅

焼 子 丸

同十月十日不審言

口切

一 裁物 利文 山崎 一 糸 院 字 倉 右 弁

一 糸 入 一 糸 院 川 柳 一 糸 入 後 院 下 府 丹

一 釜 小 河 湯 院 寺 一 糸 切 宗 旦 秋 店

一 水 括 曲 物 一 糸 合 保 色 秋 店

百合口 百 合 口 百 合 口

り せん せん

汁 上 口 汁

餅 糸 糸 の 餅

平口 小 河 院 寺

吸物 斤 あり あり の 湯

糸 糸 巻 する 糸

く せん せん

同廿一日後反動之属方

不美

稻谷次郎
不吉屋

如心伝亦

一掛物利文

一糸入

一花入

一怒 一産 活生次

一茶碗

志野

一釜

平此釜

一茶杓

白崎

一水指

水戸

一盃合

不美

旦

調

三入

三入

け

万三ツ

平旦

調

山

吸物

九骨

まんち

物

霜月二日伊丹宗朝方

不羨

後者ゆゑ

一掛物 如一行物 一茶碗 宗入思

一花入 尺八 一茶入 唐律 徳久しき

一釜 何湯堂 一茶打 足

一水指 浄乐 一冬合 松平島

格や

ちよ〜せりり子

汁 上江茶 鬼草

重名 小綱塩焼 多のりの

吸りの 下あ

取の青

まんちり まんちり

或は... 宗朝... 伊丹...

延享元年卯正月九日堀内定心方

花月先生

不羨
院

一掛物 如心寺刺燈籠 一茶祝 井戸

一花入 日景
二色花柳
活大客 一茶入 信楽活文り白

一水指 柳戸 一茶抄 如心作不藏

一釜 フトシ 一名合 梅海

上
く
と

汁
鴨
午席
とけ

菓子椀 小燗焼
ゆ

吸よめ はりし

五右衛門 柳屋

まんぢ

同廿七日不審

夕飯後

多田宗角

不審

一掛物 法服掛物 一茶碗 糸目大茶碗

一花入 柳子子花入 一茶入 帯茶判

一釜 小功海陸茶 一茶抄 茶江茶

一水筒 曲物 一香合 二枚

〜 大まんなち

〜 四世宗

物〜 まりこ

同三月四日山内老高子

花月先生

不審

宗角

吉原

風邪

八月廿日不審三

不審三

花月先生

一 撒物 龍門相

一 金野 隆平宗相

一 花入 龍戸子

一 水後 曲物

一 糸入 信楽平

一 糸瓶 凡入思

一 糸波 如心作

一 名合 松ノ木巻

一 魁ノ巻物 神託隨

菓子瓶 小瓶

汁 豆麩汁

平石 瓶名付

吸子の詰り

丸骨 少練り

湖鏡
光之海
燈之

[Faint bleed-through text from the reverse side]

十月九日于宗室

親月先生

一 掛抄 大國所筆
尚抄卷

不三
空心師

一 志臺

一 茶抄 常世作

一 釜 云母

一 水指 志子揮

一 茶入 刺休

一 花入 備前
氣桂

一 茶碗 宗室作

一 香合 是丸
仙皮好

此秘書堂清虛先生余利
借用馮之置者也

乙未年二月

天野謙書

嘉永二酉年四月同氏分借用馮之

石丸謙書

雷庵
孤峯居士



白粉泥

分一

每斤二百斤

一斤

每斤

每斤

